



# 土木工事数量算出要領

令和6年（2024年）2月20日（改定版）

【2022.10】

北海道建設部

○土木工事数量算出要領とは

北海道建設部では、建設管理部が施行する土木工事にかかる工事費用の積算及び契約における透明性・客観性を向上し、発注者・受注者間の共通認識の形成を図るため、「工事工種体系化」を定めています。

この「工事工種体系化」により工事費用を積算するために、各工種ごとに算出する数量の項目、区分及び算出方法を定めたものが「土木工事数量算出要領」です。

# 土木工事数量算出要領 の **改定**・追加・訂正

適用年月日（令和6年（2024年）4月1日以降積算基準日適用）

区分	ページ	改定	現行	備考
共通編 1章 基本事項 1.11 数量集計表の標準様式	50 共通-38	<p><b>1. 1.1 数量集計表の標準様式</b></p> <p>設計数量の集計は、本数量集計表の様式に従い、作成するものとする。</p> <p><b>1. 名称について</b></p> <p>工事区分、工種、種別、細別、規格欄は、「北海道建設部土木工事工種体系化の手引き」（以下「体系化の手引き」という。）の階層（レベル）構造に従い記入する。</p> <p>1）工事工種体系化では、レベル1（工事区分）、レベル2（工種）、レベル3（種別）、レベル4（細別）、レベル5（規格）、<b>レベル6（積算要素）</b>と階層構造を統一している。</p> <p><b>2. 数量区分について</b></p> <p>数量区分は次のとおりとする。具体例は次頁を参照のこと。</p> <p>1）委託業務（積算委託を除く）の成果品として数量集計表を作成する場合                      各章の「区分一覧表」で○となっているものにより区分して、数量を記入する。                      なお、区分が掲載されていないものについては、類似の工種の数量区分を準用するものとする。類似の工種がない場合は、当該委託業務では知り得ない情報（具体的には、残土や産業廃棄物等の運搬距離及びDID区間有無、時間的制約の有無及びこれらに類するものとする）以外について適宜区分を行い、数量を記入する。                      ※委託業務（積算委託を除く）においては、委託者は下記2）を求めないものとする。</p> <p>2）積算委託の成果品または工事の設計図書として数量集計表を作成する場合                      積算時に必要とする条件とし、必要に応じて、1）に加えて必要な積算区分を行い、数量を記入する。</p> <p><b>3. 単位について</b></p> <p>単位の表示は、「1. 5 数量計算の単位及び数値」、「1. 6 設計表示単位及び数値」、又は「体系化の手引き」により記入する。</p> <p>1）数量計算用単位は「数量算出要領」により、積算用単位は「体系化の手引き」によるものとする。</p> <p><b>4. 数値について</b></p> <p>算出すべき数量の数値は、「1. 5 数量計算の単位及び数値」により記入する。</p> <p><b>5. 合計欄について</b></p> <p>レベル4（細別）ごとの数値の合計を行（列）頭に配置する。</p> <p>1）表計算ソフトでの編集を考慮し、行挿入、行削除等の編集作業によってセル内の計算式が壊れないように行頭に配置するものとする。</p> <p>2）工区割等による区分分け（列方向）の合計は、列挿入、列削除等の編集作業による計算式の破壊を防ぐため左端に合計欄を配置するものとする。</p> <p><b>6. 内訳数量表について</b></p> <p>（1）レベル4（細別）で数量をくくっているものの中で、細別の中身に細分化が必要なもの、単位当たりの数量に置き換える必要があるものは、内訳数量表を作成する。</p> <p>（2）数量集計表の内訳数量表欄には、対応する内訳数量表番号を記入する。</p>	<p><b>1. 1.1 数量集計表の標準様式</b></p> <p>設計数量の集計は、本数量集計表の様式に従い、作成するものとする。</p> <p><b>1. 名称、区分について</b></p> <p>（1）工事区分、工種、種別、細別、規格欄は、「北海道建設部土木工事工種体系化の手引き」（以下「体系化の手引き」という。）の階層（レベル）構造に従い記入する。</p> <p>1）工事工種体系化では、レベル1（工事区分）、レベル2（工種）、レベル3（種別）、レベル4（細別）、レベル5（規格）と階層構造を統一している。</p> <p>（2）数量区分欄は、必要に応じて「各章の記載内容」により記入する。</p> <p>1）数量区分は、<u>積算時に必要とする条件であり、必要に応じて該当する区分毎に算出した数量を記入する。</u></p> <p><b>2. 単位について</b></p> <p>単位の表示は、「1. 5 数量計算の単位及び数値」、「1. 6 設計表示単位及び数値」、又は「体系化の手引き」により記入する。</p> <p>1）数量計算用単位は「数量算出要領」により、積算用単位は「体系化の手引き」によるものとする。</p> <p><b>3. 数値について</b></p> <p>算出すべき数量の数値は、「1. 5 数量計算の単位及び数値」により記入する。</p> <p><b>4. 合計欄について</b></p> <p>レベル4（細別）ごとの数値の合計を行（列）頭に配置する。</p> <p>1）表計算ソフトでの編集を考慮し、行挿入、行削除等の編集作業によってセル内の計算式が壊れないように行頭に配置するものとする。</p> <p>2）工区割等による区分分け（列方向）の合計は、列挿入、列削除等の編集作業による計算式の破壊を防ぐため左端に合計欄を配置するものとする。</p> <p><b>5. 内訳数量表について</b></p> <p>（1）レベル4（細別）で数量をくくっているものの中で、細別の中身に細分化が必要なもの、単位当たりの数量に置き換える必要があるものは、内訳数量表を作成する。</p> <p>（2）数量集計表の内訳数量表欄には、対応する内訳数量表番号を記入する。</p>	数量区分の扱いの明確化

# 土木工事数量算出要領 の 改定・追加・訂正

適用年月日（令和6年（2024年）4月1日以降積算基準日適用）

区分	ページ	改定	現行	備考																																																																																																																																																																																																
共通編 1章 基本事項 1.11 数量集計表の標準様式	51 共通-39	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>数量集計表記例 (1) 委託業務(積算委託を除く)の成果品として数量集計表を作成する場合</b></p> <p>工区が複数あり、数量積算が工区毎に別の場合等は、この行または列を増やして記載し、合計欄にそれらの合計を記載する。</p> <p>数量集計表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>レベル1 (工区区分)</th> <th>事項・課目</th> <th>レベル2 (工種)</th> <th>河川工事</th> <th>数量区分</th> <th>当初設計 合計</th> <th>内訳 数量 別</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>レベル2 (種別) レベル4 (細目)</td> <td>レベル3 (積算要項)</td> <td>積算単位</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>重土工 (適用上)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>路体(築堤)盛土</td> <td></td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td>盛土積算 2.5m未満</td> <td>80</td> <td>55.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>盛土積算 4.0m以上</td> <td>110</td> <td>110.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>前体(築堤)盛土</td> <td></td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td>4.0m以上</td> <td></td> <td>110.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>既製杭工</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>12</td> <td>12.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鋼管杭</td> <td>規格: 50x400(標準3mm), 径: φ500mm, 長さ: 3.0m</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> <td>12</td> <td>12.0</td> <td>1-1</td> </tr> </tbody> </table> <p>各条の「区分一覧表」の記載に従って、数量を区分する。路体(築堤)盛土なら、施工幅員で区分する。※積算区分は不要。</p> <p>「積算要項」の記載は不要とする。</p> <p>「規格」は、体系化の手引きを参照して記載。</p> <p>歩掛名称を記載。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>数量集計表記例 (2) 積算委託の成果品または工事の設計図書として数量集計表を作成する場合</b></p> <p>工区が複数あり、数量積算が工区毎に別の場合等は、この行または列を増やして記載し、合計欄にそれらの合計を記載する。</p> <p>数量集計表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>レベル1 (工区区分)</th> <th>事項・課目</th> <th>レベル2 (工種)</th> <th>河川工事</th> <th>数量区分</th> <th>当初設計 合計</th> <th>内訳 数量 別</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>レベル2 (種別) レベル4 (細目)</td> <td>レベル3 (積算要項)</td> <td>積算単位</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>重土工 (適用上)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>路体(築堤)盛土</td> <td></td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td>盛土積算 2.5m未満</td> <td>80</td> <td>55.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>盛土積算 4.0m以上</td> <td>110</td> <td>110.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>路体(築堤)盛土</td> <td></td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td>4.0m以上</td> <td></td> <td>110.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>既製杭工</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>12</td> <td>12.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鋼管杭</td> <td>規格: 50x400(標準3mm), 径: φ500mm, 長さ: 3.0m</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> <td>12</td> <td>12.0</td> <td>1-1</td> </tr> </tbody> </table> <p>必要に応じて積算区分を適記。</p> </div>	レベル1 (工区区分)	事項・課目	レベル2 (工種)	河川工事	数量区分	当初設計 合計	内訳 数量 別	備考	レベル2 (種別) レベル4 (細目)	レベル3 (積算要項)	積算単位						重土工 (適用上)								路体(築堤)盛土		m <sup>3</sup>		盛土積算 2.5m未満	80	55.0						盛土積算 4.0m以上	110	110.0		前体(築堤)盛土		m <sup>3</sup>		4.0m以上		110.0		既製杭工					12	12.0		鋼管杭	規格: 50x400(標準3mm), 径: φ500mm, 長さ: 3.0m	本			12	12.0	1-1	レベル1 (工区区分)	事項・課目	レベル2 (工種)	河川工事	数量区分	当初設計 合計	内訳 数量 別	備考	レベル2 (種別) レベル4 (細目)	レベル3 (積算要項)	積算単位						重土工 (適用上)								路体(築堤)盛土		m <sup>3</sup>		盛土積算 2.5m未満	80	55.0						盛土積算 4.0m以上	110	110.0		路体(築堤)盛土		m <sup>3</sup>		4.0m以上		110.0		既製杭工					12	12.0		鋼管杭	規格: 50x400(標準3mm), 径: φ500mm, 長さ: 3.0m	本			12	12.0	1-1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>記入例</p> <p>数量集計表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>レベル1 (工区区分)</th> <th>事項・課目</th> <th>レベル2 (工種)</th> <th>河川工事</th> <th>数量区分</th> <th>当初設計 合計</th> <th>内訳 数量 別</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>レベル2 (種別) レベル4 (細目)</td> <td>レベル3 (積算要項)</td> <td>積算単位</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>重土工 (適用上)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>路体(築堤)盛土</td> <td></td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td>盛土積算 2.5m未満</td> <td>80</td> <td>55.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>盛土積算 4.0m以上</td> <td>110</td> <td>110.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>前体(築堤)盛土</td> <td></td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td>4.0m以上</td> <td></td> <td>110.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>既製杭工</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>12</td> <td>12.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鋼管杭</td> <td>規格: 50x400(標準3mm), 径: φ500mm, 長さ: 3.0m</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> <td>12</td> <td>12.0</td> <td>1-1</td> </tr> </tbody> </table> </div>	レベル1 (工区区分)	事項・課目	レベル2 (工種)	河川工事	数量区分	当初設計 合計	内訳 数量 別	備考	レベル2 (種別) レベル4 (細目)	レベル3 (積算要項)	積算単位						重土工 (適用上)								路体(築堤)盛土		m <sup>3</sup>		盛土積算 2.5m未満	80	55.0						盛土積算 4.0m以上	110	110.0		前体(築堤)盛土		m <sup>3</sup>		4.0m以上		110.0		既製杭工					12	12.0		鋼管杭	規格: 50x400(標準3mm), 径: φ500mm, 長さ: 3.0m	本			12	12.0	1-1	数量区分の扱いの明確化
レベル1 (工区区分)	事項・課目	レベル2 (工種)	河川工事	数量区分	当初設計 合計	内訳 数量 別	備考																																																																																																																																																																																													
レベル2 (種別) レベル4 (細目)	レベル3 (積算要項)	積算単位																																																																																																																																																																																																		
重土工 (適用上)																																																																																																																																																																																																				
路体(築堤)盛土		m <sup>3</sup>		盛土積算 2.5m未満	80	55.0																																																																																																																																																																																														
				盛土積算 4.0m以上	110	110.0																																																																																																																																																																																														
前体(築堤)盛土		m <sup>3</sup>		4.0m以上		110.0																																																																																																																																																																																														
既製杭工					12	12.0																																																																																																																																																																																														
鋼管杭	規格: 50x400(標準3mm), 径: φ500mm, 長さ: 3.0m	本			12	12.0	1-1																																																																																																																																																																																													
レベル1 (工区区分)	事項・課目	レベル2 (工種)	河川工事	数量区分	当初設計 合計	内訳 数量 別	備考																																																																																																																																																																																													
レベル2 (種別) レベル4 (細目)	レベル3 (積算要項)	積算単位																																																																																																																																																																																																		
重土工 (適用上)																																																																																																																																																																																																				
路体(築堤)盛土		m <sup>3</sup>		盛土積算 2.5m未満	80	55.0																																																																																																																																																																																														
				盛土積算 4.0m以上	110	110.0																																																																																																																																																																																														
路体(築堤)盛土		m <sup>3</sup>		4.0m以上		110.0																																																																																																																																																																																														
既製杭工					12	12.0																																																																																																																																																																																														
鋼管杭	規格: 50x400(標準3mm), 径: φ500mm, 長さ: 3.0m	本			12	12.0	1-1																																																																																																																																																																																													
レベル1 (工区区分)	事項・課目	レベル2 (工種)	河川工事	数量区分	当初設計 合計	内訳 数量 別	備考																																																																																																																																																																																													
レベル2 (種別) レベル4 (細目)	レベル3 (積算要項)	積算単位																																																																																																																																																																																																		
重土工 (適用上)																																																																																																																																																																																																				
路体(築堤)盛土		m <sup>3</sup>		盛土積算 2.5m未満	80	55.0																																																																																																																																																																																														
				盛土積算 4.0m以上	110	110.0																																																																																																																																																																																														
前体(築堤)盛土		m <sup>3</sup>		4.0m以上		110.0																																																																																																																																																																																														
既製杭工					12	12.0																																																																																																																																																																																														
鋼管杭	規格: 50x400(標準3mm), 径: φ500mm, 長さ: 3.0m	本			12	12.0	1-1																																																																																																																																																																																													

# 土木工事数量算出要領 の 改定・追加・訂正

適用年月日（令和6年（2024年）4月1日以降積算基準日適用）

区分	ページ	改定	現行	備考																																																																																																																								
共通編 1章 基本事項 1.11 数量集計表の標準様式	52 共通-40	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>内訳数量表記入例 (1)委託業務(積算委託を除く)の成果品として数量集計表を作成する場合</b> </div> <p style="text-align: center;">1-1 鋼管杭_数量表 <span style="float: right;">内訳数量表</span></p> <p>規格:SKK400(板厚9mm)、径:φ600mm、長さ:8.0m <span style="float: right;">12.0本</span></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">規格</th> <th rowspan="2">数量区分</th> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>全体</th> <th>1本当り</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鋼管_既設コクリト杭打工(バイルハンマ工)</td> <td>鋼管杭、板厚9mm、杭径φ600mm、長さ8.0m</td> <td></td> <td>本</td> <td>12.0</td> <td>1.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋工</td> <td>SD345、D13</td> <td>規格・仕様—般構造物、施工条件、構造物種別、差筋及び杭頭処理、施工規模:3.0t、大径鉄筋の割合:0</td> <td>t</td> <td>1.2</td> <td>0.1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋工</td> <td>SD345、D16~25</td> <td>規格・仕様—般構造物、施工条件、構造物種別、差筋及び杭頭処理、施工規模:3.0t、大径鉄筋の割合:0</td> <td>t</td> <td>2.4</td> <td>0.2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コクリト</td> <td>RC-2-1、混合セメント種</td> <td>構造物種別:小型構造物</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td>4.8</td> <td>0.4</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>「規格」は、体系化の手引を参照して記載。</p> <p>各章の「区分一覧表」の記載に従って、数量を区分する。                  コンクリートなら、構造物種別とコンクリート規格(左の規格別に記載)で区分する。                  ※積算区分は不要</p> <p style="font-size: small;">1) 数量算出単位及び計測方法</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: x-small;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>構造物種別</th> <th>コンクリート規格</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート種別</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート種別</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <b>内訳数量表記入例 (2)積算委託の成果品または工事の設計図書として数量集計表を作成する場合</b> </div> <p style="text-align: center;">1-1 鋼管杭_数量表 <span style="float: right;">内訳数量表</span></p> <p>規格:SKK400(板厚9mm)、径:φ600mm、長さ:8.0m <span style="float: right;">12.0本</span></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">規格</th> <th rowspan="2">数量区分</th> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>全体</th> <th>1本当り</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鋼管_既設コクリト杭打工(バイルハンマ工)</td> <td>特種鋼管杭、杭打機種:油圧バイルハンマ4~4.5t、杭の打込長:鋼管杭10m以下、板厚9~10mm、杭径:鋼管杭φ500mm以上、φ600mm未満、ヤマト式の有無別、補助クレーンの有無別、締結施工の有無別</td> <td></td> <td>本</td> <td>12.0</td> <td>1.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋工</td> <td>鉄筋材料規格・径:SD345 D13、規格・仕様区分—般構造物、施工規模:10t未満、時間的制約を受ける場合の補正、差、夜間作業補正、トンネル内作業の補正、差、法面作業の補正、差、大径鉄筋補正、補正率(鉄筋割合10%未満含む)、構造物種別による補正、差筋及び杭頭処理</td> <td></td> <td>t</td> <td>1.2</td> <td>0.1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋工</td> <td>鉄筋材料規格・径:SD345 D16~25、規格・仕様区分—般構造物、施工規模:10t未満、時間的制約を受ける場合の補正、差、夜間作業補正、差、トンネル内作業の補正、差、法面作業の補正、差、大径鉄筋補正、補正率(鉄筋割合10%未満含む)、構造物種別による補正、差筋及び杭頭処理</td> <td></td> <td>t</td> <td>2.4</td> <td>0.2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コクリト</td> <td>RC-2-1、混合セメント種</td> <td>構造物種別:小型構造物、打設工法:バックアップ型掘削打設、コクリト種別:生コクリト各種、養生工の種類—般養生</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td>4.8</td> <td>0.4</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>内訳数量表の規格・数量区分欄については、まとめて記載してもよい。</p> <p>必要に応じ積算区分を記載。</p>	項目	規格	数量区分	単位	数量		備考	全体	1本当り	鋼管_既設コクリト杭打工(バイルハンマ工)	鋼管杭、板厚9mm、杭径φ600mm、長さ8.0m		本	12.0	1.0		鉄筋工	SD345、D13	規格・仕様—般構造物、施工条件、構造物種別、差筋及び杭頭処理、施工規模:3.0t、大径鉄筋の割合:0	t	1.2	0.1		鉄筋工	SD345、D16~25	規格・仕様—般構造物、施工条件、構造物種別、差筋及び杭頭処理、施工規模:3.0t、大径鉄筋の割合:0	t	2.4	0.2		コクリト	RC-2-1、混合セメント種	構造物種別:小型構造物	m <sup>3</sup>	4.8	0.4		区分	構造物種別	コンクリート規格	コンクリート種別			コンクリート種別			項目	規格	数量区分	単位	数量		備考	全体	1本当り	鋼管_既設コクリト杭打工(バイルハンマ工)	特種鋼管杭、杭打機種:油圧バイルハンマ4~4.5t、杭の打込長:鋼管杭10m以下、板厚9~10mm、杭径:鋼管杭φ500mm以上、φ600mm未満、ヤマト式の有無別、補助クレーンの有無別、締結施工の有無別		本	12.0	1.0		鉄筋工	鉄筋材料規格・径:SD345 D13、規格・仕様区分—般構造物、施工規模:10t未満、時間的制約を受ける場合の補正、差、夜間作業補正、トンネル内作業の補正、差、法面作業の補正、差、大径鉄筋補正、補正率(鉄筋割合10%未満含む)、構造物種別による補正、差筋及び杭頭処理		t	1.2	0.1		鉄筋工	鉄筋材料規格・径:SD345 D16~25、規格・仕様区分—般構造物、施工規模:10t未満、時間的制約を受ける場合の補正、差、夜間作業補正、差、トンネル内作業の補正、差、法面作業の補正、差、大径鉄筋補正、補正率(鉄筋割合10%未満含む)、構造物種別による補正、差筋及び杭頭処理		t	2.4	0.2		コクリト	RC-2-1、混合セメント種	構造物種別:小型構造物、打設工法:バックアップ型掘削打設、コクリト種別:生コクリト各種、養生工の種類—般養生	m <sup>3</sup>	4.8	0.4		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>記入例</b> </div> <p style="text-align: center;">1-1 鋼管杭_数量表 <span style="float: right;">内訳数量表</span></p> <p>規格:SKK400(板厚9mm)、径:φ600mm、長さ:8.0m <span style="float: right;">12.0本</span></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">規格</th> <th rowspan="2">数量区分</th> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>全体</th> <th>1本当り</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鋼管_既設コクリト杭打工(バイルハンマ工)</td> <td>鋼管杭、SKK400(板厚9mm)、杭径φ600mm、長さ8.0m、打込長10.0m</td> <td></td> <td>本</td> <td>12.0</td> <td>1.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コクリト</td> <td>RC-2-1、混合セメント種</td> <td>構造物種別:小型構造物、打設工法:バックアップ掘削打設、コクリト種別:生コクリト各種、養生工の種類—般養生</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td>4.8</td> <td>0.4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋工</td> <td>SD345、D13</td> <td></td> <td>t</td> <td>1.2</td> <td>0.1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋工</td> <td>SD345、D16~25</td> <td></td> <td>t</td> <td>2.4</td> <td>0.2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目	規格	数量区分	単位	数量		備考	全体	1本当り	鋼管_既設コクリト杭打工(バイルハンマ工)	鋼管杭、SKK400(板厚9mm)、杭径φ600mm、長さ8.0m、打込長10.0m		本	12.0	1.0		コクリト	RC-2-1、混合セメント種	構造物種別:小型構造物、打設工法:バックアップ掘削打設、コクリト種別:生コクリト各種、養生工の種類—般養生	m <sup>3</sup>	4.8	0.4		鉄筋工	SD345、D13		t	1.2	0.1		鉄筋工	SD345、D16~25		t	2.4	0.2		数量区分の扱いの明確化
項目	規格	数量区分					単位	数量		備考																																																																																																																		
			全体	1本当り																																																																																																																								
鋼管_既設コクリト杭打工(バイルハンマ工)	鋼管杭、板厚9mm、杭径φ600mm、長さ8.0m		本	12.0	1.0																																																																																																																							
鉄筋工	SD345、D13	規格・仕様—般構造物、施工条件、構造物種別、差筋及び杭頭処理、施工規模:3.0t、大径鉄筋の割合:0	t	1.2	0.1																																																																																																																							
鉄筋工	SD345、D16~25	規格・仕様—般構造物、施工条件、構造物種別、差筋及び杭頭処理、施工規模:3.0t、大径鉄筋の割合:0	t	2.4	0.2																																																																																																																							
コクリト	RC-2-1、混合セメント種	構造物種別:小型構造物	m <sup>3</sup>	4.8	0.4																																																																																																																							
区分	構造物種別	コンクリート規格																																																																																																																										
コンクリート種別																																																																																																																												
コンクリート種別																																																																																																																												
項目	規格	数量区分	単位	数量		備考																																																																																																																						
				全体	1本当り																																																																																																																							
鋼管_既設コクリト杭打工(バイルハンマ工)	特種鋼管杭、杭打機種:油圧バイルハンマ4~4.5t、杭の打込長:鋼管杭10m以下、板厚9~10mm、杭径:鋼管杭φ500mm以上、φ600mm未満、ヤマト式の有無別、補助クレーンの有無別、締結施工の有無別		本	12.0	1.0																																																																																																																							
鉄筋工	鉄筋材料規格・径:SD345 D13、規格・仕様区分—般構造物、施工規模:10t未満、時間的制約を受ける場合の補正、差、夜間作業補正、トンネル内作業の補正、差、法面作業の補正、差、大径鉄筋補正、補正率(鉄筋割合10%未満含む)、構造物種別による補正、差筋及び杭頭処理		t	1.2	0.1																																																																																																																							
鉄筋工	鉄筋材料規格・径:SD345 D16~25、規格・仕様区分—般構造物、施工規模:10t未満、時間的制約を受ける場合の補正、差、夜間作業補正、差、トンネル内作業の補正、差、法面作業の補正、差、大径鉄筋補正、補正率(鉄筋割合10%未満含む)、構造物種別による補正、差筋及び杭頭処理		t	2.4	0.2																																																																																																																							
コクリト	RC-2-1、混合セメント種	構造物種別:小型構造物、打設工法:バックアップ型掘削打設、コクリト種別:生コクリト各種、養生工の種類—般養生	m <sup>3</sup>	4.8	0.4																																																																																																																							
項目	規格	数量区分	単位	数量		備考																																																																																																																						
				全体	1本当り																																																																																																																							
鋼管_既設コクリト杭打工(バイルハンマ工)	鋼管杭、SKK400(板厚9mm)、杭径φ600mm、長さ8.0m、打込長10.0m		本	12.0	1.0																																																																																																																							
コクリト	RC-2-1、混合セメント種	構造物種別:小型構造物、打設工法:バックアップ掘削打設、コクリト種別:生コクリト各種、養生工の種類—般養生	m <sup>3</sup>	4.8	0.4																																																																																																																							
鉄筋工	SD345、D13		t	1.2	0.1																																																																																																																							
鉄筋工	SD345、D16~25		t	2.4	0.2																																																																																																																							

# 土木工事数量算出要領 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和6年(2024年)2月1日以降積算基準日適用)

区分	頁・行	現行	備考																																
共通編 1章 基本事項	共通-24	[別表-1]	記載の 改定																																
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">工種 (レベル2)</th> <th style="width: 15%;">種別 (レベル3)</th> <th style="width: 15%;">細別 (レベル4)</th> <th style="width: 15%;">規格 (レベル5)</th> <th style="width: 10%;">単位</th> <th style="width: 10%;">数値</th> <th style="width: 20%;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>仮設工</td> <td>雪寒施設工</td> <td>雪寒仮囲い</td> <td>仮囲い規格 設置・撤去</td> <td>(m2)</td> <td>(1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>仮設工</td> <td></td> <td>ウェザーシェルター</td> <td></td> <td>(基)</td> <td>(1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>仮設工</td> <td></td> <td>防寒養生</td> <td></td> <td>(m3)</td> <td>(1)</td> <td></td> </tr> <tr style="border: 2px dashed red;"> <td>仮設工</td> <td></td> <td>小規模構造物防寒養生</td> <td></td> <td>(m3)</td> <td>(1)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		工種 (レベル2)	種別 (レベル3)	細別 (レベル4)	規格 (レベル5)	単位	数値	備考	仮設工	雪寒施設工	雪寒仮囲い	仮囲い規格 設置・撤去	(m2)	(1)		仮設工		ウェザーシェルター		(基)	(1)		仮設工		防寒養生		(m3)	(1)		仮設工		小規模構造物防寒養生	
工種 (レベル2)	種別 (レベル3)	細別 (レベル4)	規格 (レベル5)	単位	数値	備考																													
仮設工	雪寒施設工	雪寒仮囲い	仮囲い規格 設置・撤去	(m2)	(1)																														
仮設工		ウェザーシェルター		(基)	(1)																														
仮設工		防寒養生		(m3)	(1)																														
仮設工		小規模構造物防寒養生		(m3)	(1)																														
		改定																																	
		[別表-1]																																	
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">工種 (レベル2)</th> <th style="width: 15%;">種別 (レベル3)</th> <th style="width: 15%;">細別 (レベル4)</th> <th style="width: 15%;">規格 (レベル5)</th> <th style="width: 10%;">単位</th> <th style="width: 10%;">数値</th> <th style="width: 20%;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>仮設工</td> <td>雪寒施設工</td> <td>雪寒仮囲い</td> <td>仮囲い規格 設置・撤去</td> <td>(m2)</td> <td>(1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>仮設工</td> <td></td> <td>ウェザーシェルター</td> <td></td> <td>(基)</td> <td>(1)</td> <td></td> </tr> <tr style="background-color: #f8d7da;"> <td>仮設工</td> <td></td> <td>防寒養生</td> <td></td> <td>(m2)</td> <td>(1)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	工種 (レベル2)	種別 (レベル3)	細別 (レベル4)	規格 (レベル5)	単位	数値	備考	仮設工	雪寒施設工	雪寒仮囲い	仮囲い規格 設置・撤去	(m2)	(1)		仮設工		ウェザーシェルター		(基)	(1)		仮設工		防寒養生		(m2)	(1)						
工種 (レベル2)	種別 (レベル3)	細別 (レベル4)	規格 (レベル5)	単位	数値	備考																													
仮設工	雪寒施設工	雪寒仮囲い	仮囲い規格 設置・撤去	(m2)	(1)																														
仮設工		ウェザーシェルター		(基)	(1)																														
仮設工		防寒養生		(m2)	(1)																														

# 土木工事数量算出要領 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和5年(2023年)10月1日以降積算基準日適用)

区分	頁・行	現 行						備 考																														
共通編 1章 基本事項	共通-18	<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 種 (レベル2)</th> <th>種 別 (レベル3)</th> <th>細 別 (レベル4)</th> <th>規 格 (レベル5)</th> <th>単 位</th> <th>数 位</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土工</td> <td></td> <td>掘削(砂防)(IOT)</td> <td>土質 障害の有無 施工数量</td> <td>m3</td> <td>100</td> <td>ただし1,000m3未満及び び岩の場合は10m3</td> </tr> <tr> <td>土工</td> <td>(路体・路床)盛土工</td> <td>路体(築堤)盛土</td> <td>施工幅員</td> <td>m3</td> <td>100</td> <td>ただし1,000m3未満の 場合は10m3</td> </tr> </tbody> </table>						工 種 (レベル2)	種 別 (レベル3)	細 別 (レベル4)	規 格 (レベル5)	単 位	数 位	備 考	土工		掘削(砂防)(IOT)	土質 障害の有無 施工数量	m3	100	ただし1,000m3未満及び び岩の場合は10m3	土工	(路体・路床)盛土工	路体(築堤)盛土	施工幅員	m3	100	ただし1,000m3未満の 場合は10m3	他基準 と整合									
		工 種 (レベル2)	種 別 (レベル3)	細 別 (レベル4)	規 格 (レベル5)	単 位	数 位	備 考																														
		土工		掘削(砂防)(IOT)	土質 障害の有無 施工数量	m3	100	ただし1,000m3未満及び び岩の場合は10m3																														
		土工	(路体・路床)盛土工	路体(築堤)盛土	施工幅員	m3	100	ただし1,000m3未満の 場合は10m3																														
		共通-19	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>共通の工種</td> <td>吹付工</td> <td>吹付(モルタル,コンクリート)</td> <td>セメント種類 吹付厚</td> <td>m2</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>共通の工種</td> <td>法面施肥工</td> <td>法面施肥</td> <td>施工区分</td> <td>m2</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>共通の工種</td> <td>播種工</td> <td>腐植酸種子散布</td> <td></td> <td>m2</td> <td>10</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						共通の工種	吹付工	吹付(モルタル,コンクリート)	セメント種類 吹付厚	m2	1		共通の工種	法面施肥工	法面施肥	施工区分	m2	1		共通の工種	播種工	腐植酸種子散布		m2	10										
			共通の工種	吹付工	吹付(モルタル,コンクリート)	セメント種類 吹付厚	m2	1																														
			共通の工種	法面施肥工	法面施肥	施工区分	m2	1																														
		共通の工種	播種工	腐植酸種子散布		m2	10																															
		共通-18	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>共通の工種</td> <td>補強土壁工</td> <td>補強土壁基礎</td> <td>コンクリート規格</td> <td>m</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>共通の工種</td> <td></td> <td>帯鋼補強土壁・アンカー補強土 壁</td> <td>土質</td> <td>m2</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>共通の工種</td> <td></td> <td>ジオテキスタイル補強土壁</td> <td>壁面材の種類</td> <td>m2</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>共通の工種</td> <td>軽量盛土工</td> <td>軽量盛土</td> <td></td> <td>m3</td> <td>1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						共通の工種	補強土壁工	補強土壁基礎	コンクリート規格	m	1		共通の工種		帯鋼補強土壁・アンカー補強土 壁	土質	m2	1		共通の工種		ジオテキスタイル補強土壁	壁面材の種類	m2	1			共通の工種	軽量盛土工	軽量盛土		m3	1		
	共通の工種		補強土壁工	補強土壁基礎	コンクリート規格	m	1																															
	共通の工種			帯鋼補強土壁・アンカー補強土 壁	土質	m2	1																															
	共通の工種			ジオテキスタイル補強土壁	壁面材の種類	m2	1																															
	共通の工種	軽量盛土工	軽量盛土		m3	1																																
	改 定																																					
	共通編 1章 基本事項	共通-18	<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 種 (レベル2)</th> <th>種 別 (レベル3)</th> <th>細 別 (レベル4)</th> <th>規 格 (レベル5)</th> <th>単 位</th> <th>数 位</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土工</td> <td></td> <td>掘削(砂防)(IOT)</td> <td>土質 障害の有無 施工数量</td> <td>m3</td> <td>100</td> <td>ただし1,000m3未満及び び岩の場合は10m3</td> </tr> <tr> <td>土工</td> <td></td> <td>河床等掘削(IOT)</td> <td></td> <td>m3</td> <td>100</td> <td>ただし1,000m3未満及び び岩の場合は10m3</td> </tr> <tr> <td>土工</td> <td>(路体・路床)盛土工</td> <td>路体(築堤)盛土</td> <td>施工幅員</td> <td>m3</td> <td>100</td> <td>ただし1,000m3未満の 場合は10m3</td> </tr> </tbody> </table>						工 種 (レベル2)	種 別 (レベル3)	細 別 (レベル4)	規 格 (レベル5)	単 位	数 位	備 考	土工		掘削(砂防)(IOT)	土質 障害の有無 施工数量	m3	100	ただし1,000m3未満及び び岩の場合は10m3	土工		河床等掘削(IOT)		m3	100		ただし1,000m3未満及び び岩の場合は10m3	土工	(路体・路床)盛土工	路体(築堤)盛土	施工幅員	m3	100	ただし1,000m3未満の 場合は10m3	他基準 と整合
			工 種 (レベル2)	種 別 (レベル3)	細 別 (レベル4)	規 格 (レベル5)	単 位	数 位	備 考																													
			土工		掘削(砂防)(IOT)	土質 障害の有無 施工数量	m3	100	ただし1,000m3未満及び び岩の場合は10m3																													
			土工		河床等掘削(IOT)		m3	100	ただし1,000m3未満及び び岩の場合は10m3																													
			土工	(路体・路床)盛土工	路体(築堤)盛土	施工幅員	m3	100	ただし1,000m3未満の 場合は10m3																													
共通-19			<table border="1"> <tbody> <tr> <td>共通の工種</td> <td>吹付工</td> <td>吹付(モルタル,コンクリート)</td> <td>セメント種類 吹付厚</td> <td>m2</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>共通の工種</td> <td>播種工</td> <td>腐植酸種子散布</td> <td></td> <td>m2</td> <td>10</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						共通の工種	吹付工	吹付(モルタル,コンクリート)	セメント種類 吹付厚	m2	1		共通の工種	播種工	腐植酸種子散布		m2	10																	
		共通の工種	吹付工	吹付(モルタル,コンクリート)	セメント種類 吹付厚	m2	1																															
		共通の工種	播種工	腐植酸種子散布		m2	10																															
共通-18		<table border="1"> <tbody> <tr> <td>共通の工種</td> <td>補強土壁工</td> <td>補強土壁基礎</td> <td>コンクリート規格</td> <td>m</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>共通の工種</td> <td></td> <td>帯鋼補強土壁・アンカー補強土 壁・ジオテキスタイル補強土壁</td> <td>土質</td> <td>m2</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>共通の工種</td> <td></td> <td>補強盛土</td> <td>壁面材の種類</td> <td>m2</td> <td>1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						共通の工種	補強土壁工	補強土壁基礎	コンクリート規格	m	1		共通の工種		帯鋼補強土壁・アンカー補強土 壁・ジオテキスタイル補強土壁	土質	m2	1		共通の工種		補強盛土	壁面材の種類	m2	1											
		共通の工種	補強土壁工	補強土壁基礎	コンクリート規格	m	1																															
		共通の工種		帯鋼補強土壁・アンカー補強土 壁・ジオテキスタイル補強土壁	土質	m2	1																															
共通の工種			補強盛土	壁面材の種類	m2	1																																
改 定																																						
共通-19	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>共通の工種</td> <td>軽量盛土工</td> <td>軽量盛土</td> <td></td> <td>m3</td> <td>1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						共通の工種	軽量盛土工	軽量盛土		m3	1																										
	共通の工種	軽量盛土工	軽量盛土		m3	1																																

# 土木工事数量算出要領 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和5年(2023年)10月1日以降積算基準日適用)

区分	頁・行	現行						備考			
共通編 1章 基本事項	共通-20 共通-21	石・ブロック積(張)		基礎砕石(基礎材)	基礎材規格(砕石の場合等) 敷厚	m2	10	ただし100m2未満の場合 は1m2	他基準 と整合		
		石・ブロック積(張)		小口止コンクリート	コンクリート規格	m2	1				
		石・ブロック積(張)		養生費	養生工の種類	m3	1				
	共通-22				SiO <sub>2</sub> 筋経						
		地盤改良工		ペーパードレーン	材料規格 長さ(打設長)	本	1				
		地盤改良工	締固め改良工	サンドコンパクションバイル	径	本	1				
	改定										
	共通編 1章 基本事項	共通-20 共通-21	石・ブロック積(張)		基礎砕石(基礎材)	基礎材規格(砕石の場合等) 敷厚	m2	10		ただし100m2未満の場合 は1m2	
			石・ブロック積(張)		現場打小口止コンクリート	コンクリート規格	m3	1			
			石・ブロック積(張)		プレキャスト小口止ブロック	幅 高さ	m	0.1			
石・ブロック積(張)				現場打横帯(隔壁)コンクリート	コンクリート規格	m3	1				
石・ブロック積(張)				プレキャスト横帯(隔壁)ブロック	幅 高さ	m	0.1				
石・ブロック積(張)				プレキャスト巻止ブロック	幅 高さ	m	0.1				
石・ブロック積(張)				養生費	養生工の種類	m3	1				
共通-22					SiO <sub>2</sub> 筋経						
		地盤改良工		PVD(プレファブリケイ ティッドパーチカルドレーン)	材料規格 長さ(打設長)	本	1				
		地盤改良工	締固め改良工	サンドコンパクションバイル	径	本	1				



# 土木工事数量算出要領 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和5年(2023年)10月1日以降積算基準日適用)

区分	頁・行	現行	備考					
共通編 1章 基本事項	共通-23	構造物撤去工	現場発生品運搬	発生材種類	回	1		
		構造物撤去工	コンクリート削孔		孔	1		
		構造物撤去工		車止めポスト撤去	車止めポスト規格 作業区分	本	1	
		構造物撤去工		遮光フェンス撤去		m	1	
		構造物撤去工		標識撤去		基	1	
		仮設工	砂防仮締切工	土砂締切		(m3)	(1)	
	仮設工		土砂土のう締切		(m3)	(1)		
	仮設工		コンクリート締切		(m3)	(1)		
	仮設工	工事用道路工	敷砂利	材料規格 厚さ	(m2)	(1)		
	仮設工		工事用道路補修		式	1		
	仮設工		防凍養生		(m3)	(1)		
	仮設工		小規模構造物防凍養生		(箇所)	(1)		
			改定					
	共通-23		構造物撤去工	現場発生品運搬	発生材種類	t	0.1	
			構造物撤去工	コンクリート削孔		孔	1	
			構造物撤去工	横断歩道橋側板(掘削・目隠)撤去	取外し部材規格	m2	1	
			構造物撤去工	遮光フェンス撤去		m	1	
	共通-24		仮設工	砂防仮締切工	土砂締切	(m3)	(1)	
			仮設工		土砂土のう締切	(m3)	(1)	
			仮設工		コンクリート締切	(m3)	(1)	
		仮設工	工事用道路工	敷砂利	材料規格 厚さ	(m2)	(1)	
		仮設工		敷砂利	材料規格・作業区分	m2	1	
		仮設工		工事用道路補修		式	1	
		仮設工		防凍養生	(m3)	(1)		
		仮設工		小規模構造物防凍養生	(m3)	(1)		
		仮設工	仮設階段工	仮設員降用階段	(m)	(1)		

# 土木工事数量算出要領 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和5年(2023年)10月1日以降積算基準日適用)

区分	頁・行	現 行						備 考	
共通編 1章 基本事項	共通-26	コンクリート構造物	塙所打擁壁工(構造物単位)	逆T型擁壁	本体コンクリート規格	m <sup>3</sup>	1	他基準 と整合	
		コンクリート構造物		L型擁壁	本体コンクリート規格	m <sup>3</sup>	1		
		付属施設		ガードケーブル	ガードケーブル規格 締込条件	m	1		
		付属施設		ボックスビーム	ボックスビーム規格	m	1		
		付属施設		基礎ブロック(立入防止欄)	寸法 作業区分	個	1		
		付属施設		車止めポスト	車止めポスト径 車止めポスト長さ	本	1		
		付属施設	階段工	現場打階段	コンクリート規格 締込規格	m <sup>2</sup>	1		
		改 定							
		共通-26		コンクリート構造物	塙所打擁壁工(構造物単位)	逆T型擁壁	本体コンクリート規格		m <sup>3</sup>
			コンクリート構造物		もたれ式擁壁	本体コンクリート規格	m <sup>3</sup>		1
			コンクリート構造物		L型擁壁	本体コンクリート規格	m <sup>3</sup>		1
	共通-27		付属施設		ガードケーブル	ガードケーブル規格 締込条件	m		1
			付属施設		基礎ブロック(立入防止欄)	寸法 作業区分	個		1
			付属施設		車止めポスト	車止めポスト径 車止めポスト長さ	本		1
			付属施設	ワイヤロープ防護欄工	端末基礎・端末金具	種別 設置形式	箇所		1
		付属施設		支柱	種別 設置形式 設置箇所	本	1		
		付属施設		ワイヤロープ	種別	m	1		
		付属施設		ターンバックル	種別 設置箇所	箇所	1		
		付属施設		橋梁側基礎・支柱	種別	箇所	1		
		付属施設	階段工	現場打階段	コンクリート規格 締込規格	m <sup>2</sup>	1		

# 土木工事数量算出要領 の **改定**・追加・訂正

適用年月日  
(令和5年(2023年)10月1日以降積算基準日適用)

区分	頁・行	現行						備考
共通編 1章 基本事項	共通-27	付属施設		雪崩予防橋アンカー	アンカー規格	本	1	
		付属施設	落石防止網工	ロックネット	網規格(種別) 網規格(寸法) アンカー規格・仕様 支柱規格・仕様	m2	10	ただし100m2未満の場合 は1m2
		付属施設		縦横網	縦横網規格	m2	10	ただし100m2未満の場合 は1m2
		付属施設	遮音壁基礎工	支柱アンカーボルト	アンカー形式 アンカー支柱間隔 アンカー材料規格	本	1	
		付属施設	情報案内施設工	案内板	材質 形状	箇所	1	
		防護柵工	防止柵工	遮光フェンス	種別 支柱間隔 作業条件	m	1	
		河川構造物	土台基礎工	土台		m	1	
	共通-28	河川構造物		横帯ブロック	コンクリート厚さ ブロック規格 高さ	m	1	
		河川構造物		小口止	コンクリート規格	m	0.1	
		改定						
	共通-27	付属施設		雪崩予防橋アンカー	アンカー規格	本	1	
		付属施設	遮音壁基礎工	支柱アンカーボルト	アンカー形式 アンカー支柱間隔 アンカー材料規格	本	1	
	共通-28	付属施設	情報案内施設工	案内板	材質 形状	箇所	1	
		河川構造物	土台基礎工	土台		m	1	
河川構造物		護岸付属物工	横帯(隔壁)コンクリート	高さ 幅 高さ コンクリート厚さ	m	0.1		
河川構造物			横帯ブロック	ブロック規格	m	1		

他基準  
と整合

# 土木工事数量算出要領 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和5年(2023年)10月1日以降積算基準日適用)

区分	頁・行	現行					備考	
共通編 1章 基本事項	共通-29	壁防		足場	安全ネットの有無	(m)	(1)	他基準と整合
		砂防		隔壁コンクリート基礎	コンクリート規格 幅 高さ	m <sup>3</sup>	1	
		砂防		現場打水路	内幅 内高 コンクリート規格	m	1	
		砂防	仮締切工	中詰・締切盛土撤去		m <sup>3</sup>	10	
	砂防	砂防ソイルセメント工	砂防ソイルセメント	粒径処理率	m <sup>3</sup>	1		
	改定							
	共通-29	砂防		足場	安全ネットの有無	(m)	(1)	
		砂防		チッピング(新壁面・打雑面)		m <sup>2</sup>	1	
		砂防		チッピング(季節凍埋埋付け面)		m <sup>2</sup>	10 ただし100m <sup>2</sup> 未満の場合は1m <sup>2</sup>	
		砂防		岩盤清掃		m <sup>2</sup>	1	
共通-30	砂防		隔壁コンクリート基礎	コンクリート規格 幅 高さ	m <sup>3</sup>	1		
	砂防		現場打水路	内幅 内高 コンクリート規格	m	1		
	砂防							
	砂防	砂防ソイルセメント工	砂防ソイルセメント	粒径処理率	m <sup>3</sup>	1		

# 土木工事数量算出要領 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和5年(2023年)10月1日以降積算基準日適用)

区分	頁・行	現行	備考																																																																																																
共通編 1章 基本事項	共通-33	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>トンネル(NATM)</td> <td></td> <td>各種設備</td> <td>式</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>トンネル(矢板)</td> <td>掘削工</td> <td>掘削</td> <td>掘削区分(岩)</td> <td>m</td> <td>0.1</td> </tr> <tr> <td>トンネル(矢板)</td> <td>支保工</td> <td>鋼製支保</td> <td>掘削区分(岩)</td> <td>(基)</td> <td>(1)</td> </tr> <tr> <td>トンネル(矢板)</td> <td>覆工・防水工</td> <td>覆工コンクリート・防水</td> <td>掘削区分(岩)</td> <td>m</td> <td>0.1</td> </tr> <tr> <td>トンネル(矢板)</td> <td></td> <td>止水板</td> <td>止水板種類・寸法</td> <td>m</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>トンネル(矢板)</td> <td></td> <td>床版コンクリート</td> <td>厚さ・コンクリート規格</td> <td>m</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>トンネル(矢板)</td> <td></td> <td>表込注入</td> <td>注入材種類 割合 トンネル種別 トンネル平均距離 足場の有無</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>トンネル(矢板)</td> <td>インバート工</td> <td>インバート掘削</td> <td>掘削区分(岩)</td> <td>m</td> <td>0.1</td> </tr> <tr> <td>トンネル(矢板)</td> <td></td> <td>インバート</td> <td>掘削区分(岩) 厚さ コンクリート規格</td> <td>m</td> <td>0.1</td> </tr> <tr> <td>トンネル(矢板)</td> <td>坑内付帯坑</td> <td>箱扱</td> <td>掘削区分(岩) コンクリート規格</td> <td>箇所</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>トンネル(矢板)</td> <td></td> <td>表面排水</td> <td>材料規格</td> <td>m</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>トンネル(矢板)</td> <td></td> <td>湧水処理</td> <td>材料規格 削孔の有無 削孔長さ</td> <td>箇所</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>トンネル(矢板)</td> <td></td> <td>中央排水</td> <td>管種 管径</td> <td>m</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>トンネル(矢板)</td> <td></td> <td>横断排水</td> <td>管種 管径</td> <td>箇所</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>トンネル(矢板)</td> <td></td> <td>集水樹</td> <td>集水樹種類 現場打材種類 コンクリート規格 基礎コンクリート規格</td> <td>箇所</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>共同溝</td> <td>掘削工</td> <td>掘削</td> <td>土留方式</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td>100 ただし1,000m<sup>3</sup>未満の 場合は10m<sup>3</sup></td> </tr> </table>	トンネル(NATM)		各種設備	式	1		トンネル(矢板)	掘削工	掘削	掘削区分(岩)	m	0.1	トンネル(矢板)	支保工	鋼製支保	掘削区分(岩)	(基)	(1)	トンネル(矢板)	覆工・防水工	覆工コンクリート・防水	掘削区分(岩)	m	0.1	トンネル(矢板)		止水板	止水板種類・寸法	m	1	トンネル(矢板)		床版コンクリート	厚さ・コンクリート規格	m	1	トンネル(矢板)		表込注入	注入材種類 割合 トンネル種別 トンネル平均距離 足場の有無	m <sup>3</sup>	1	トンネル(矢板)	インバート工	インバート掘削	掘削区分(岩)	m	0.1	トンネル(矢板)		インバート	掘削区分(岩) 厚さ コンクリート規格	m	0.1	トンネル(矢板)	坑内付帯坑	箱扱	掘削区分(岩) コンクリート規格	箇所	1	トンネル(矢板)		表面排水	材料規格	m	1	トンネル(矢板)		湧水処理	材料規格 削孔の有無 削孔長さ	箇所	1	トンネル(矢板)		中央排水	管種 管径	m	1	トンネル(矢板)		横断排水	管種 管径	箇所	1	トンネル(矢板)		集水樹	集水樹種類 現場打材種類 コンクリート規格 基礎コンクリート規格	箇所	1	共同溝	掘削工	掘削	土留方式	m <sup>3</sup>	100 ただし1,000m <sup>3</sup> 未満の 場合は10m <sup>3</sup>	他基準 と整合
		トンネル(NATM)		各種設備	式	1																																																																																													
		トンネル(矢板)	掘削工	掘削	掘削区分(岩)	m	0.1																																																																																												
		トンネル(矢板)	支保工	鋼製支保	掘削区分(岩)	(基)	(1)																																																																																												
		トンネル(矢板)	覆工・防水工	覆工コンクリート・防水	掘削区分(岩)	m	0.1																																																																																												
		トンネル(矢板)		止水板	止水板種類・寸法	m	1																																																																																												
		トンネル(矢板)		床版コンクリート	厚さ・コンクリート規格	m	1																																																																																												
		トンネル(矢板)		表込注入	注入材種類 割合 トンネル種別 トンネル平均距離 足場の有無	m <sup>3</sup>	1																																																																																												
		トンネル(矢板)	インバート工	インバート掘削	掘削区分(岩)	m	0.1																																																																																												
		トンネル(矢板)		インバート	掘削区分(岩) 厚さ コンクリート規格	m	0.1																																																																																												
		トンネル(矢板)	坑内付帯坑	箱扱	掘削区分(岩) コンクリート規格	箇所	1																																																																																												
		トンネル(矢板)		表面排水	材料規格	m	1																																																																																												
		トンネル(矢板)		湧水処理	材料規格 削孔の有無 削孔長さ	箇所	1																																																																																												
		トンネル(矢板)		中央排水	管種 管径	m	1																																																																																												
		トンネル(矢板)		横断排水	管種 管径	箇所	1																																																																																												
	トンネル(矢板)		集水樹	集水樹種類 現場打材種類 コンクリート規格 基礎コンクリート規格	箇所	1																																																																																													
	共同溝	掘削工	掘削	土留方式	m <sup>3</sup>	100 ただし1,000m <sup>3</sup> 未満の 場合は10m <sup>3</sup>																																																																																													
	共通-33	改定																																																																																																	
		トンネル(NATM)		各種設備	式	1																																																																																													
共同溝	掘削工	掘削	土留方式	m <sup>3</sup>	100 ただし1,000m <sup>3</sup> 未満の 場合は10m <sup>3</sup>																																																																																														

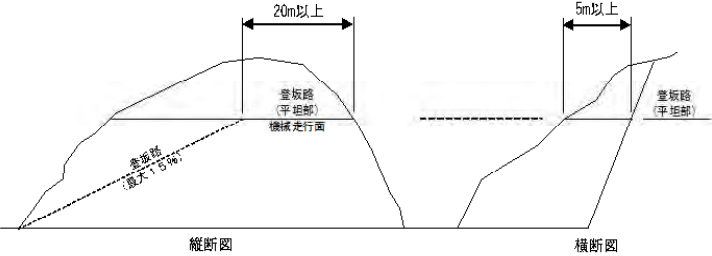
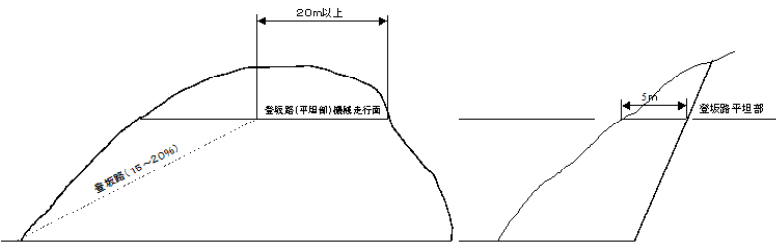
# 土木工事数量算出要領 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和5年(2023年)10月1日以降積算基準日適用)

区分	頁・行	現 行						備 考
共通編 1章 基本事項	共通-36	道路維持		パッチング	材料種類	t	0.1	他基準 と整合
		道路維持	付属物復旧工	ガードレール復旧	作業区分 使用材料	m	1	
		道路維持		ガードケーブル復旧	ガードケーブル規格 材料費の有無 作業条件	m	1	
		道路維持		ガードパイプ復旧	作業区分 使用材料	m	1	
		道路維持		転落(横断)防止柵復旧	防護柵種類	m	1	
		道路維持		路面清掃(中央分断帯・人力)	作業形態 塵芥量	m2	1	
		道路維持	路肩整正	路肩整正(機械)	作業形態	km	0.1	
		道路維持		路肩整正(人力)	作業形態 運搬距離	m2	100	
		道路維持	排水施設清掃工	側溝清掃(人力)	作業形態 側溝蓋規格	m	10	
		道路維持			ガードレール演習車種類			
		道路維持		ガードパイプ清掃	作業形態	m	1	
		道路維持		トンネル照明器具清掃(機械)	作業形態	km	0.1	
			改 定					
		共通-36	道路維持		パッチング	材料種類	t	0.1
	道路維持		付属物復旧工	ガードケーブル復旧	ガードケーブル規格 材料費の有無 作業条件	m	1	
	道路維持			転落(横断)防止柵復旧	防護柵種類	m	1	
	道路維持			路面清掃(中央分断帯・人力)	作業形態 塵芥量	m2	1	
	道路維持		排水施設清掃工	側溝清掃(人力)	作業形態 側溝蓋規格	m	10	
道路維持				ガードレール清掃車種類				
道路維持			トンネル照明器具清掃(機械)	作業形態	km	0.1		

# 土木工事数量算出要領 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和5年(2023年)10月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	改定	現行	備考
共通編  2章 土工	共通-18	<p>(7) ダンプトラック登坂路の検討 掘削後ダンプトラックにより土砂搬出する場合において、下記の条件を満たすときは登坂路を検討する。</p> <p>① ダンプトラックの登坂路として、幅員5mを確保し、登坂路の勾配は次を目安とすること。 土砂運搬の場合最大1.5%、資材・機材の搬入搬出がある場合最大1.0%程度 勾配は、資材種別、運搬車種などを考慮のうえ適宜設定する。</p> <p>② 積込箇所の作業ヤードとして延長20m以上の平坦部が確保できること。</p>  <p>(8) 登坂路を設ける場合の掘削機械の選定</p> <p>① 掘削機械の機械走行面は、ダンプトラックが走行する登坂路の路面とする。</p> <p>② 掘削機械の走行幅が5m以上ある場合、登坂路面上方5mの高さの範囲、及び登坂路下方5mの高さの範囲の掘削はバックホウのオープンカットを適用する。</p> <p>③ 上記②以外で、登坂路面から上方5mの高さを越え切取幅が5mまでの範囲の掘削は、ブルドーザ or バックホウを適用する。</p>	<p>(7) ダンプトラック登坂路の検討 掘削後ダンプトラックにより土砂搬出する場合において、下記の条件を満たすときは登坂路を検討する。</p> <p>① ダンプトラックの登坂路として縦断勾配1.5～2.0%、幅員5mが確保できること。</p> <p>② 積込箇所の作業ヤードとして延長20m以上の平坦部が確保できること。</p> <p>(8) 登坂路を設ける場合の掘削機械の選定</p> <p>① 掘削機械の機械走行面は、ダンプトラックが走行する登坂路の路面とする。</p> <p>② 掘削機械の走行幅が5m以上ある場合、登坂路面上方5mの高さの範囲、及び登坂路下方5mの高さの範囲の掘削はバックホウのオープンカットを適用する。</p> <p>③ 上記②以外で、登坂路面から上方5mの高さを越え切取幅が5mまでの範囲の掘削は、ブルドーザ or バックホウを適用する。</p> 	記載の 改定

# 土木工事数量算出要領 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和5年(2023年)10月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	改定	現行	備考																																																												
共通編 3章 発泡スチロールを用いた超軽量盛土工	共通-92	<p>2. 雑工種における材料は、種別・規格にかかわらず適用できる。</p> <p>3. 発泡スチロールブロックの固定のためにL型ピンの設置が必要な場合は別途考慮する。</p> <p>4. コンクリート床版にグラウンドアンカー等を結合する場合は別途考慮する。</p> <p>5. ベースプレート式H型鋼支柱(H型鋼規格はH300mm×300mm以下、長さ9m以下)を標準としており、これにより難い場合については別途考慮する。</p> <p>6. 壁面材1枚当りの規格は、長さ2.5m以下、幅0.6m以下、重量170kg以下を標準としており、これにより難い場合については別途考慮する。</p> <p><u>7. 複数段積みの場合、雑工種による区分は、平面的に(上から見て)区分する。</u></p> <p>(2) 発泡スチロール設置の雑工種による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>雑工種</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 排水材+基礎碎石+敷砂</li> <li>— 排水材+基礎碎石</li> <li>— 排水材+敷砂</li> <li>— 基礎碎石+敷砂</li> <li>— 排水材</li> <li>— 基礎碎石</li> <li>— 敷砂</li> <li>— 無し</li> </ul>	<p>2. 雑工種における材料は、種別・規格にかかわらず適用できる。</p> <p>3. 発泡スチロールブロックの固定のためにL型ピンの設置が必要な場合は別途考慮する。</p> <p>4. コンクリート床版にグラウンドアンカー等を結合する場合は別途考慮する。</p> <p>5. ベースプレート式H型鋼支柱(H型鋼規格はH300mm×300mm以下、長さ9m以下)を標準としており、これにより難い場合については別途考慮する。</p> <p>6. 壁面材1枚当りの規格は、長さ2.5m以下、幅0.6m以下、重量170kg以下を標準としており、これにより難い場合については別途考慮する。</p> <p>(2) 発泡スチロール設置の雑工種による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>雑工種</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 排水材+基礎碎石+敷砂</li> <li>— 排水材+基礎碎石</li> <li>— 排水材+敷砂</li> <li>— 基礎碎石+敷砂</li> <li>— 排水材</li> <li>— 基礎碎石</li> <li>— 敷砂</li> <li>— 無し</li> </ul>	記載の追加																																																												
共通編 6章 擁壁工 6.3 補強盛土工	共通-144	<p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分項目</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ジオテキスタイル壁面材組立・設置</td> <td>○</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ジオテキスタイル壁面材(材料費)</td> <td>○</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ジオテキスタイル敷設</td> <td>○</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>まき出し・敷均し、締固め</td> <td>○</td> <td><u>m<sup>3</sup></u></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ジオテキスタイル(材料費)</td> <td>○</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分項目	規格	単位	数量	備考	ジオテキスタイル壁面材組立・設置	○	m <sup>2</sup>			ジオテキスタイル壁面材(材料費)	○	m <sup>2</sup>			ジオテキスタイル敷設	○	m <sup>2</sup>			まき出し・敷均し、締固め	○	<u>m<sup>3</sup></u>			ジオテキスタイル(材料費)	○	m <sup>2</sup>			<p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分項目</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ジオテキスタイル壁面材組立・設置</td> <td>○</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ジオテキスタイル壁面材(材料費)</td> <td>○</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ジオテキスタイル敷設</td> <td>○</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>まき出し・敷均し、締固め</td> <td>○</td> <td><u>m<sup>2</sup></u></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ジオテキスタイル(材料費)</td> <td>○</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分項目	規格	単位	数量	備考	ジオテキスタイル壁面材組立・設置	○	m <sup>2</sup>			ジオテキスタイル壁面材(材料費)	○	m <sup>2</sup>			ジオテキスタイル敷設	○	m <sup>2</sup>			まき出し・敷均し、締固め	○	<u>m<sup>2</sup></u>			ジオテキスタイル(材料費)	○	m <sup>2</sup>			誤記の訂正
区分項目	規格	単位	数量	備考																																																												
ジオテキスタイル壁面材組立・設置	○	m <sup>2</sup>																																																														
ジオテキスタイル壁面材(材料費)	○	m <sup>2</sup>																																																														
ジオテキスタイル敷設	○	m <sup>2</sup>																																																														
まき出し・敷均し、締固め	○	<u>m<sup>3</sup></u>																																																														
ジオテキスタイル(材料費)	○	m <sup>2</sup>																																																														
区分項目	規格	単位	数量	備考																																																												
ジオテキスタイル壁面材組立・設置	○	m <sup>2</sup>																																																														
ジオテキスタイル壁面材(材料費)	○	m <sup>2</sup>																																																														
ジオテキスタイル敷設	○	m <sup>2</sup>																																																														
まき出し・敷均し、締固め	○	<u>m<sup>2</sup></u>																																																														
ジオテキスタイル(材料費)	○	m <sup>2</sup>																																																														



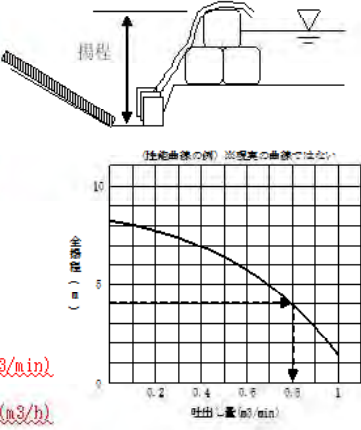
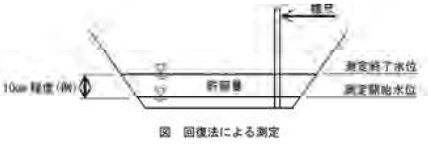
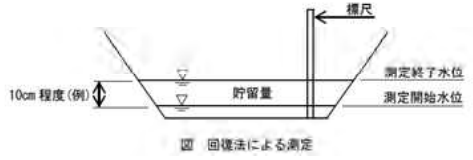
# 土木工事数量算出要領 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和5年(2023年)10月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	改定	現行	備考																								
共通編 10章 構造物取壊し工 10.2 旧橋撤去工	共通-216	関連数量算出項目 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>足場・防護・ベント等</td> <td></td> <td></td> <td>「第3編(道路編)4.4鋼橋架設工及び4.5仮設工」参照</td> </tr> <tr> <td>現場発生品運搬</td> <td>回</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> </tbody> </table> <p>~~~~~</p>	項目	単位	数量	備考	足場・防護・ベント等			「第3編(道路編)4.4鋼橋架設工及び4.5仮設工」参照	現場発生品運搬	回		必要な場合別途計上	関連数量算出項目 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>足場・防護・ベント等</td> <td></td> <td></td> <td>「第3編(道路編)4.4鋼橋架設工及び4.5仮設工」参照</td> </tr> <tr> <td>現場発生品運搬</td> <td>回</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> </tbody> </table> <p>注)現場発生品の運搬をする場合は、質量(t)についても算出する。</p>	項目	単位	数量	備考	足場・防護・ベント等			「第3編(道路編)4.4鋼橋架設工及び4.5仮設工」参照	現場発生品運搬	回		必要な場合別途計上	他基準と整合
項目	単位	数量	備考																									
足場・防護・ベント等			「第3編(道路編)4.4鋼橋架設工及び4.5仮設工」参照																									
現場発生品運搬	回		必要な場合別途計上																									
項目	単位	数量	備考																									
足場・防護・ベント等			「第3編(道路編)4.4鋼橋架設工及び4.5仮設工」参照																									
現場発生品運搬	回		必要な場合別途計上																									
共通編 11章 仮設工 11.1.2 土のう締切工	共通-230	(注) 1. 62×48cmのホリシタ製を使用する場合の、土のう1枚当りの中詰土は0.02m <sup>3</sup> とする。 2. 大型土のうは、1袋あたり1.1m(幅)×1.1m(高さ)により必要数量を算出する。 3. 大型土のうは、耐候性を標準とし、耐用年数については工程を考慮し適切に選択すること。 4. 転用回数の制限はないが、受注者の責によらない現場条件等により、転用できないと判断できる場合は必要に応じて設計変更すること。	(注) 1. 62×48cmのホリシタ製を使用する場合の、土のう1枚当りの中詰土は0.02m <sup>3</sup> とする。 2. 大型土のうは、1袋あたり1.1m(幅)×1.1m(高さ)により必要数量を算出する。 3. 大型土のうは、耐候性を標準とし、耐用年数については行程を考慮し適切に選択すること。 4. 転用回数の制限はないが、受注者の責によらない現場条件等により、転用できないと判断できる場合は必要に応じて設計変更すること。	誤記の訂正																								

# 土木工事数量算出要領 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和5年(2023年)10月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	改定	現行	備考
共通編 11章 仮設工 11.2 締切排水工	共通-236	<p>② 排水量の測定方法は次を参考とすること。</p> <p>(a) ポンプの性能による方法                      現場において実際に設置したポンプの台数とポンプのカタログ等に記載の吐出し量から求める。なお、カタログ等の性能曲線における全揚程は、床面下面から、締切の上端までの高さ(揚程)を用いるものとする。                      また、実際に設置したポンプと、カタログ等が同一であることを確認できるように、受注者はポンプの設置状況およびポンプの品名等を写真により記録し、工事監督員に提出する。</p> <p>《算出例》実際に設置したポンプが3台、揚程が4m、カタログの性能曲線が右の図の場合</p> <p>全揚程=揚程=4mなので、性能曲線で全揚程4mの場合、吐出し量0.8(m<sup>3</sup>/min)となる。単位がmin(分)なので、60倍して、  <math>3(台) \times 0.8(m^3/min) \times 60(min/h) = 144(m^3/h)</math></p> <p>(b) 水槽による測定                      ポンプにより締切内水位を掘削底面付近で一定に保ち、ポンプ排水口を水槽に放出し、水槽の放水口に三角堰等を設置して越流水深を測定し、排水量を算出する。または、水槽への貯留量・貯留時間を測定し排水量を算出する。</p> <p>(c) 回復法                      工事排水中に一旦ポンプを停止、掘削底面を水面内に浸して、一樣な水面になってから、水位の回復に要する時間を計測し、この間の貯留量を求める。</p>  	<p>② 排水量の主な測定方法は次のとおり。</p> <p>(a) 水槽による測定                      ポンプにより締切内水位を掘削底面付近で一定に保ち、ポンプ排水口を水槽に放出し、水槽の放水口に三角堰等を設置して越流水深を測定し、排水量を算出する。または、水槽への貯留量・貯留時間を測定し排水量を算出する。</p> <p>(b) 回復法                      工事排水中に一旦ポンプを停止、掘削底面を水面内に浸して、一樣な水面になってから、水位の回復に要する時間を計測し、この間の貯留量を求める。</p> 	元の通知文と整合
共通編 11章 仮設工 11.12 敷鉄板設置撤去工	共通-281	<p>1. 適用</p> <p>工事用道路工事等において、軟弱地盤等により工事用車両の通行に支障がある場合の敷鉄板設置・撤去作業に適用する。</p> <p>なお、工事用道路(工事用車両の仮設道路であって、二輪車両が通行するものを除く)については、原則、敷鉄板を使用する。ただし、災害復旧工事や、小規模な工事の場合、土地管理者との協議結果等により、敷鉄板の使用が適さない場合は除く。</p>	<p>1. 適用</p> <p>工事用道路工事等において、軟弱地盤等により工事用車両の通行に支障がある場合の敷鉄板設置・撤去作業に適用する。</p>	記載の追記

# 土木工事数量算出要領 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和5年(2023年)10月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	改定	現行	備考																																																		
河川・砂防編  1章 護岸・根固工  1.6 コンクリートブロック積(張)工	河川・砂防 -14	<p>1. 適用</p> <p>コンクリートブロック積工、コンクリートブロック張工及び緑化ブロック積工に適用する。  <del>なお、コンクリートブロック積工は、間知ブロック積及び大型ブロック積を対象とし、コンクリートブロック張工は、平ブロック張及び連節ブロック張を対象とする。</del></p> <p>2. 数量算出項目</p> <p><del>間知</del>ブロック積、大型ブロック積、間知ブロック張、平ブロック張、連節ブロック張、緑化ブロック積、胴込・裏込コンクリート、胴込・裏込材(砕石)、遮水シート張、吸出防止材(全面)設置、植樹、現場打基礎コンクリート、<del>現場打小口止コンクリート、現場打横帯(隔壁)、コンクリート、現場打天端コンクリート、プレキャスト基礎ブロック、プレキャスト小口止ブロック、プレキャスト横帯(隔壁)ブロック、プレキャスト巻止ブロック</del>の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>②<del>間知</del>ブロック積(施工パッケージ型積算方式を適用)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分 項目</th> <th>鉄筋規格</th> <th>鉄筋 10m2当り 使用量</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><del>間知</del>ブロック積</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. <del>間知</del>ブロック積工は勾配1割未満、ブロック質量150kg/個以上<del>730</del>kg/個以下の場合である。                  2. 設置面積は調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、<del>横帯(隔壁)</del>、天端コンクリートは別途計上する。                  3. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。</p> <p>③大型ブロック積</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>ブロック規格</th> <th><del>ブロックの質量</del></th> <th>水抜きパイプの有無</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大型ブロック積</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 大型ブロック積工は、勾配1割未満、ブロック質量4,600kg/個以下、控え長500mm以上の場合である。                  2. 設置面積は、調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、<del>横帯(隔壁)</del>、天端コンクリートは別途計上する。                  3. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。</p>	区分 項目	鉄筋規格	鉄筋 10m2当り 使用量	単位	数量	備考	<del>間知</del> ブロック積	○	○	m <sup>2</sup>			区分	ブロック規格	<del>ブロックの質量</del>	水抜きパイプの有無	単位	数量	備考	大型ブロック積	○	○	○	m <sup>2</sup>			<p>1. 適用</p> <p>コンクリートブロック積工、コンクリートブロック張工及び緑化ブロック積工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>コンクリートブロック積、大型ブロック積、間知ブロック張、平ブロック張、連節ブロック張、緑化ブロック積、胴込・裏込コンクリート、胴込・裏込材(砕石)、遮水シート張、吸出防止材(全面)設置、植樹、現場打基礎コンクリート、天端コンクリート、プレキャスト基礎ブロック、小口止、横帯コンクリート、巻止コンクリートの数量を区分ごとに算出する。</p> <p>②コンクリートブロック積(施工パッケージ型積算方式を適用)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分 項目</th> <th>鉄筋規格</th> <th>鉄筋 10m2当り 使用量</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリートブロック積</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. <del>コンクリート</del>ブロック積工は勾配1割未満、ブロック質量150kg/個以上<del>450</del>kg/個以下の場合である。                  2. 設置面積は調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する。                  3. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。</p> <p>③大型ブロック積</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>ブロック規格</th> <th>水抜きパイプの有無</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大型ブロック積</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 大型ブロック積工は、勾配1割未満、ブロック質量4,600kg/個以下、控え長500mm以上の場合である。                  2. 設置面積は、調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する。                  3. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。</p>	区分 項目	鉄筋規格	鉄筋 10m2当り 使用量	単位	数量	備考	コンクリートブロック積	○	○	m <sup>2</sup>			区分	ブロック規格	水抜きパイプの有無	単位	数量	備考	大型ブロック積	○	○	m <sup>2</sup>			他基準と整合
	区分 項目	鉄筋規格	鉄筋 10m2当り 使用量	単位	数量	備考																																																
<del>間知</del> ブロック積	○	○	m <sup>2</sup>																																																			
区分	ブロック規格	<del>ブロックの質量</del>	水抜きパイプの有無	単位	数量	備考																																																
大型ブロック積	○	○	○	m <sup>2</sup>																																																		
区分 項目	鉄筋規格	鉄筋 10m2当り 使用量	単位	数量	備考																																																	
コンクリートブロック積	○	○	m <sup>2</sup>																																																			
区分	ブロック規格	水抜きパイプの有無	単位	数量	備考																																																	
大型ブロック積	○	○	m <sup>2</sup>																																																			
	河川・砂防 -15																																																					

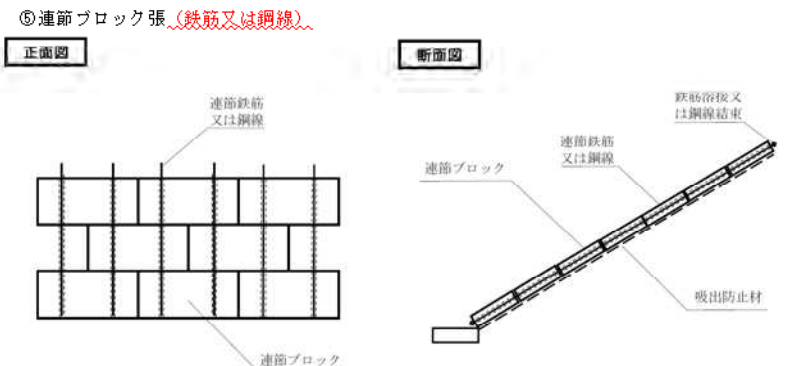
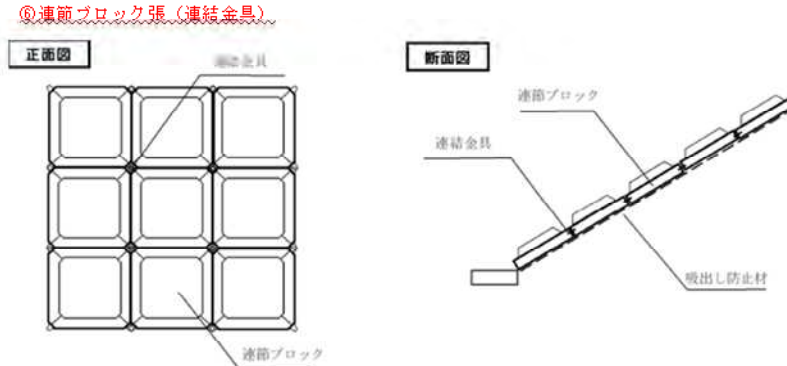
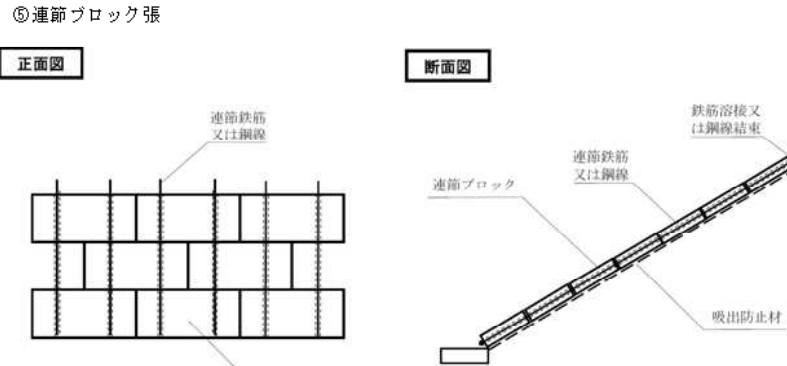
# 土木工事数量算出要領 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和5年(2023年)10月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	改定	現行	備考																																																																																																				
河川・砂防編 1章 護岸・根固工  1.6 コンクリートブロック積(張)工	河川・砂防 -15	<p>⑥連節ブロック張</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>ブロックの質量</th> <th>連結方法</th> <th>連節鉄筋(鋼線)規格</th> <th>遮水シートの有無</th> <th>吸出し防止材の有無</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>連節ブロック張</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 連節ブロック張工(勾配1割以上、ブロック質量770kg/個以下)の場合である。 2. 連節ブロック張と遮水シート張は、同施工面積とする。 3. 設計面積は、調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、<u>横帯(隔壁)</u>、天端コンクリートは別途計上する。 4. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分し、河川護岸においてはさらに低水・高水護岸に区分して算出する。</p>	区分	ブロックの質量	連結方法	連節鉄筋(鋼線)規格	遮水シートの有無	吸出し防止材の有無	単位	数量	備考	連節ブロック張	○	○	○	○	○	m <sup>2</sup>			<p>⑥連節ブロック張</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>作業区分</th> <th>ブロックの質量</th> <th>連節鉄筋(鋼線)規格</th> <th>遮水シートの有無</th> <th>吸出し防止材の有無</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>連節ブロック張</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 連節ブロック張工(勾配1割以上、ブロック質量770kg/個以下)の場合である。 2. 連節ブロック張と遮水シート張は、同施工面積とする。 3. 設計面積は、調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する。 4. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分し、河川護岸においてはさらに低水・高水護岸に区分して算出する。</p>	区分	作業区分	ブロックの質量	連節鉄筋(鋼線)規格	遮水シートの有無	吸出し防止材の有無	単位	数量	備考	連節ブロック張	○	○	○	○	○	m <sup>2</sup>			他基準と整合																																																																
	区分	ブロックの質量	連結方法	連節鉄筋(鋼線)規格	遮水シートの有無	吸出し防止材の有無	単位	数量	備考																																																																																															
	連節ブロック張	○	○	○	○	○	m <sup>2</sup>																																																																																																	
区分	作業区分	ブロックの質量	連節鉄筋(鋼線)規格	遮水シートの有無	吸出し防止材の有無	単位	数量	備考																																																																																																
連節ブロック張	○	○	○	○	○	m <sup>2</sup>																																																																																																		
河川・砂防 -16	<p>⑧胴込・裏込コンクリート、胴込・裏込材(砕石)、遮水シート張、吸出し防止材(全面)設置、植樹</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>生コンクリート規格</th> <th>ブロックの種類</th> <th>ブロックの質量</th> <th>胴込裏込規格</th> <th>遮水シート規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>胴込・裏込コンクリート</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>胴込・裏込材(砕石)</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>遮水シート張</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>吸出し防止材(全面)設置</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>植樹</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。</p>	区分	生コンクリート規格	ブロックの種類	ブロックの質量	胴込裏込規格	遮水シート規格	単位	数量	備考	胴込・裏込コンクリート	○	○	○	×	×	m <sup>3</sup>			胴込・裏込材(砕石)	×	○	×	○	×	m <sup>3</sup>			遮水シート張	×	×	×	×	○	m <sup>2</sup>			吸出し防止材(全面)設置	×	×	×	×	×	m <sup>2</sup>			植樹	×	×	×	×	×	本			<p>⑧胴込・裏込コンクリート、胴込・裏込材(砕石)、遮水シート張、吸出し防止材(全面)設置、植樹</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>生コンクリート規格</th> <th>ブロックの種類</th> <th>胴込裏込規</th> <th>遮水シート規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>胴込・裏込コンクリート</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>胴込・裏込材(砕石)</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>遮水シート張</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>吸出し防止材(全面)設置</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>植樹</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。</p>	区分	生コンクリート規格	ブロックの種類	胴込裏込規	遮水シート規格	単位	数量	備考	胴込・裏込コンクリート	○	○	×	×	m <sup>3</sup>			胴込・裏込材(砕石)	×	○	○	×	m <sup>3</sup>			遮水シート張	×	×	×	○	m <sup>2</sup>			吸出し防止材(全面)設置	×	×	×	×	m <sup>2</sup>			植樹	×	×	×	×	本		
区分	生コンクリート規格	ブロックの種類	ブロックの質量	胴込裏込規格	遮水シート規格	単位	数量	備考																																																																																																
胴込・裏込コンクリート	○	○	○	×	×	m <sup>3</sup>																																																																																																		
胴込・裏込材(砕石)	×	○	×	○	×	m <sup>3</sup>																																																																																																		
遮水シート張	×	×	×	×	○	m <sup>2</sup>																																																																																																		
吸出し防止材(全面)設置	×	×	×	×	×	m <sup>2</sup>																																																																																																		
植樹	×	×	×	×	×	本																																																																																																		
区分	生コンクリート規格	ブロックの種類	胴込裏込規	遮水シート規格	単位	数量	備考																																																																																																	
胴込・裏込コンクリート	○	○	×	×	m <sup>3</sup>																																																																																																			
胴込・裏込材(砕石)	×	○	○	×	m <sup>3</sup>																																																																																																			
遮水シート張	×	×	×	○	m <sup>2</sup>																																																																																																			
吸出し防止材(全面)設置	×	×	×	×	m <sup>2</sup>																																																																																																			
植樹	×	×	×	×	本																																																																																																			
河川・砂防 -17	<p>⑩現場打小口止コンクリート、プレキャスト小口止ブロック、現場打横帯(隔壁)コンクリート、プレキャスト横帯(隔壁)ブロック、プレキャスト巻止ブロック</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>構造</th> <th>養生工の種類</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現場打小口止コンクリート</td> <td rowspan="10">○</td> <td rowspan="10">×</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>プレキャスト小口止ブロック</td> <td>×</td> <td>取</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>プレキャスト小口止ブロック(材料費)</td> <td>×</td> <td>取</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現場打横帯(隔壁)コンクリート</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>プレキャスト横帯(隔壁)ブロック</td> <td>×</td> <td>取</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>プレキャスト横帯(隔壁)ブロック(材料費)</td> <td>×</td> <td>取</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>プレキャスト巻止ブロック</td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>プレキャスト巻止ブロック(材料費)</td> <td>×</td> <td>取</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>裏込材</td> <td>×</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目地材</td> <td>×</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎材</td> <td>×</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 必要に応じて数量を各項目ごとに算出する。 2. 現場打小口止コンクリート及び現場打横帯(隔壁)コンクリートについては、体積(m<sup>3</sup>)も算出すること。</p>	区分	規格	構造	養生工の種類	単位	数量	備考	現場打小口止コンクリート	○	×	○	m			プレキャスト小口止ブロック	×	取			プレキャスト小口止ブロック(材料費)	×	取			現場打横帯(隔壁)コンクリート	○	m			プレキャスト横帯(隔壁)ブロック	×	取			プレキャスト横帯(隔壁)ブロック(材料費)	×	取			プレキャスト巻止ブロック	×	m			プレキャスト巻止ブロック(材料費)	×	取			裏込材	×	m <sup>2</sup>			目地材	×	m <sup>2</sup>			基礎材	×	m <sup>2</sup>			<p>⑩小口止、横帯コンクリート、巻止コンクリート</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>構造</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小口止</td> <td rowspan="7">○</td> <td rowspan="7">×</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>横帯コンクリート</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>巻止コンクリート</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>型枠</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>裏込材</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目地材</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎材</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 必要に応じて数量を各項目ごとに算出する。 2. 小口止、横帯コンクリート及び巻止コンクリートについては、体積(m<sup>3</sup>)も算出すること。</p>	区分	規格	構造	単位	数量	備考	小口止	○	×	m			横帯コンクリート	m			巻止コンクリート	m			型枠	m <sup>2</sup>			裏込材	m <sup>2</sup>			目地材	m <sup>2</sup>			基礎材	m <sup>2</sup>				
区分	規格	構造	養生工の種類	単位	数量	備考																																																																																																		
現場打小口止コンクリート	○	×	○	m																																																																																																				
プレキャスト小口止ブロック			×	取																																																																																																				
プレキャスト小口止ブロック(材料費)			×	取																																																																																																				
現場打横帯(隔壁)コンクリート			○	m																																																																																																				
プレキャスト横帯(隔壁)ブロック			×	取																																																																																																				
プレキャスト横帯(隔壁)ブロック(材料費)			×	取																																																																																																				
プレキャスト巻止ブロック			×	m																																																																																																				
プレキャスト巻止ブロック(材料費)			×	取																																																																																																				
裏込材			×	m <sup>2</sup>																																																																																																				
目地材			×	m <sup>2</sup>																																																																																																				
基礎材	×	m <sup>2</sup>																																																																																																						
区分	規格	構造	単位	数量	備考																																																																																																			
小口止	○	×	m																																																																																																					
横帯コンクリート			m																																																																																																					
巻止コンクリート			m																																																																																																					
型枠			m <sup>2</sup>																																																																																																					
裏込材			m <sup>2</sup>																																																																																																					
目地材			m <sup>2</sup>																																																																																																					
基礎材			m <sup>2</sup>																																																																																																					

# 土木工事数量算出要領 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和5年(2023年)10月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	改定	現行	備考
河川・砂防編  1章 護岸・根固工  1.6 コンクリートブロック積(張)工	河川・砂防-17    河川・砂防-20	<p>(2) 規格区分                      コンクリートブロック積、コンクリートブロック張及び緑化ブロック積、<u>プレキャスト小口止ブロック、プレキャスト横帯(隔壁)ブロック、プレキャスト巻止ブロック</u>は、ブロックの種類、質量、形状及び大きさごとに区分して算出する。  <u>現場打小口止コンクリート、現場打横帯(隔壁)コンクリート及び現場打天端</u>コンクリートは、形状及び寸法ごとに区分して算出する。</p> <p>⑤ 連節ブロック張 (<u>鉄筋又は鋼線</u>)</p>  <p>⑥ 連節ブロック張 (連結金具)</p>  <p>(注) <u>各ブロック積(張)工の参考図は、一般的な形状を示すものであり、そのブロックの形状を指定するものではない。</u></p>	<p>(2) 規格区分                      コンクリートブロック積、コンクリートブロック張及び緑化ブロック積は、ブロックの種類、質量、形状及び大きさごとに区分して算出する。                      小口止、横帯コンクリート及び巻止コンクリートは、形状及び寸法ごとに区分して算出する。</p> <p>⑤ 連節ブロック張</p> 	他基準と整合

# 土木工事数量算出要領 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和5年(2023年)10月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	改定	現行	備考																																
資料編  3章  3.3 副産物の 参考重量 について	資料-28	1. 適用  この資料は、仮設として用いる土のう袋及び大型土のう袋の参考重量として示すものである。 実際の重量は、使用状況等により変動するため、当初設計においては下記重量×枚数により算出した数量を概数として計上し、マニフェスト等により実数量を確認したうえで、概数の確定による変更を行うこととする。	1. 適用  この資料は、仮設として用いる土のう袋及び大型土のう袋の参考重量として示すものである。 実際の重量は、使用状況等により変動するため、当初設計においては下記重量×枚数により算出した数量を概数として計上し、マニフェスト等により実数量を確認したうえで、概数の確定による変更を行うこととする。	記載の追加																																
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>参考重量(1枚当り)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土のう袋</td> <td>48cm×62cm</td> <td>kg</td> <td>0.048</td> </tr> <tr> <td>大型土のう袋</td> <td><del>φ110×108cm (1t用)</del></td> <td>kg</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td>耐候性大型土のう袋</td> <td><del>φ110×110cm 短期仮設対応(1年) (2t用)</del></td> <td>kg</td> <td><del>2.4</del></td> </tr> <tr> <td>耐候性大型土のう袋</td> <td><del>φ110×110cm 長期仮設対応(3年) (2t用)</del></td> <td>kg</td> <td><del>2.6</del></td> </tr> </tbody> </table> <p>(注1) 規格が合致しない場合等、上表によりがたい場合は別途考慮する。 ~~~~~</p>	名称	規格	単位	参考重量(1枚当り)	土のう袋	48cm×62cm	kg	0.048	大型土のう袋	<del>φ110×108cm (1t用)</del>	kg	2.0	耐候性大型土のう袋	<del>φ110×110cm 短期仮設対応(1年) (2t用)</del>	kg	<del>2.4</del>	耐候性大型土のう袋	<del>φ110×110cm 長期仮設対応(3年) (2t用)</del>	kg	<del>2.6</del>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>参考重量(1枚当り)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土のう袋</td> <td>48cm×62cm</td> <td>kg</td> <td>0.048</td> </tr> <tr> <td>大型土のう袋</td> <td><del>径110cm×108cm</del></td> <td>kg</td> <td>2.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注1) 規格が合致しない場合等、上表によりがたい場合は別途考慮する。 (注2) <del>耐候性大型土のう袋は、上表を適用しない。</del></p>	名称	規格	単位	参考重量(1枚当り)	土のう袋	48cm×62cm	kg	0.048	大型土のう袋	<del>径110cm×108cm</del>	kg	2.0	
名称	規格	単位	参考重量(1枚当り)																																	
土のう袋	48cm×62cm	kg	0.048																																	
大型土のう袋	<del>φ110×108cm (1t用)</del>	kg	2.0																																	
耐候性大型土のう袋	<del>φ110×110cm 短期仮設対応(1年) (2t用)</del>	kg	<del>2.4</del>																																	
耐候性大型土のう袋	<del>φ110×110cm 長期仮設対応(3年) (2t用)</del>	kg	<del>2.6</del>																																	
名称	規格	単位	参考重量(1枚当り)																																	
土のう袋	48cm×62cm	kg	0.048																																	
大型土のう袋	<del>径110cm×108cm</del>	kg	2.0																																	

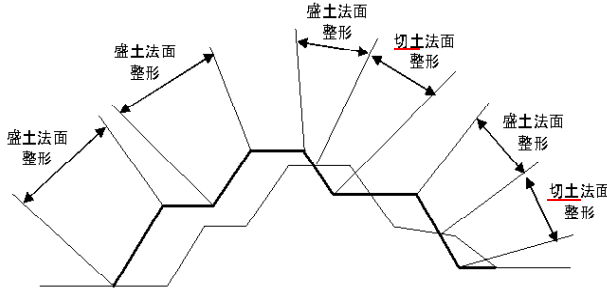
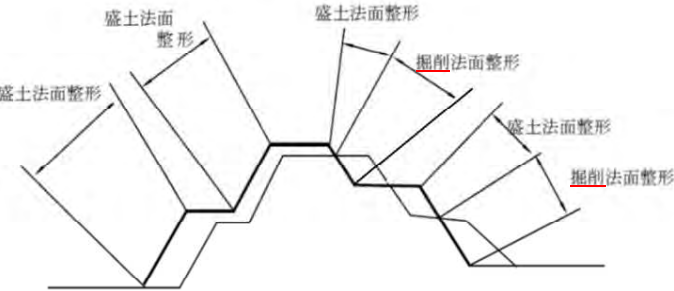
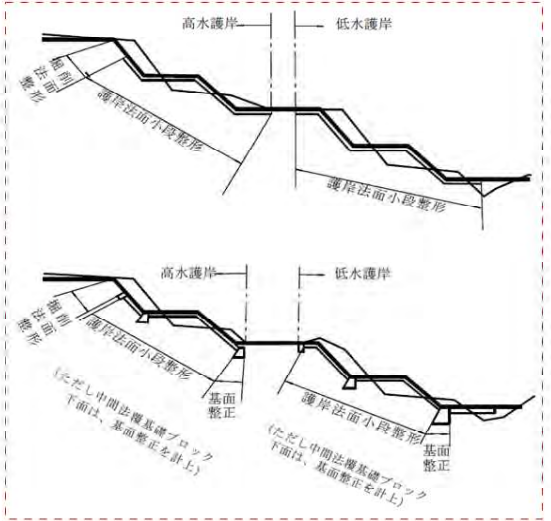
# 土木工事数量算出要領 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和5年(2023年)2月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	改定	現行	備考																																																																																																																
共通編 2.6 法面整形工 3.区分	共通-81	<p>2.6 法面整形工</p> <p>1.適用</p> <p>切土法面及び盛土法面の整形工に適用する。</p> <p>2.数量算出項目</p> <p>法面整形の面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3.区分</p> <p>区分は、法面締固めの有無、現場制約の有無、土質等とする。</p> <p>(1)数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>法面締固めの有無</th> <th>現場制約の有無</th> <th>土質等</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>切土法面整形</td> <td>-</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>盛土法面整形</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>切土法面整形(ICT)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>○</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>盛土法面整形(ICT)</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>~~~~~</td> <td>~~~~~</td> <td>~~~~~</td> <td>~~~~~</td> <td>~~~~~</td> <td></td> <td></td> <td>~~~~~</td> </tr> <tr> <td>路面工内法面整形</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> <td>道路工事のみ</td> </tr> </tbody> </table>	項目	区分	法面締固めの有無	現場制約の有無	土質等	単位	数量	備考	切土法面整形	-	○	○	m <sup>2</sup>				盛土法面整形	○	○	○	m <sup>2</sup>				切土法面整形(ICT)	-	-	○	m <sup>2</sup>				盛土法面整形(ICT)	○	-	○	m <sup>2</sup>				~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~			~~~~~	路面工内法面整形	×	×	×	m <sup>2</sup>			道路工事のみ	<p>2.6 法面整形工</p> <p>1.適用</p> <p>切土法面及び盛土法面の整形工に適用する。</p> <p>2.数量算出項目</p> <p>法面整形の面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3.区分</p> <p>区分は、法面締固めの有無、現場制約の有無、土質等とする。</p> <p>(1)数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>法面締固めの有無</th> <th>現場制約の有無</th> <th>土質等</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>切土法面整形</td> <td>-</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>盛土法面整形</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>切土法面整形(ICT)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>○</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>盛土法面整形(ICT)</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>護岸法面小段整形</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> <td>河川工事のみ</td> </tr> <tr> <td>路面工内法面整形</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> <td>道路工事のみ</td> </tr> </tbody> </table>	項目	区分	法面締固めの有無	現場制約の有無	土質等	単位	数量	備考	切土法面整形	-	○	○	m <sup>2</sup>				盛土法面整形	○	○	○	m <sup>2</sup>				切土法面整形(ICT)	-	-	○	m <sup>2</sup>				盛土法面整形(ICT)	○	-	○	m <sup>2</sup>				護岸法面小段整形	×	×	×	m <sup>2</sup>			河川工事のみ	路面工内法面整形	×	×	×	m <sup>2</sup>			道路工事のみ	護岸法面小段整形を廃止(国の取扱いと統一)
項目	区分	法面締固めの有無	現場制約の有無	土質等	単位	数量	備考																																																																																																													
切土法面整形	-	○	○	m <sup>2</sup>																																																																																																																
盛土法面整形	○	○	○	m <sup>2</sup>																																																																																																																
切土法面整形(ICT)	-	-	○	m <sup>2</sup>																																																																																																																
盛土法面整形(ICT)	○	-	○	m <sup>2</sup>																																																																																																																
~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~			~~~~~																																																																																																													
路面工内法面整形	×	×	×	m <sup>2</sup>			道路工事のみ																																																																																																													
項目	区分	法面締固めの有無	現場制約の有無	土質等	単位	数量	備考																																																																																																													
切土法面整形	-	○	○	m <sup>2</sup>																																																																																																																
盛土法面整形	○	○	○	m <sup>2</sup>																																																																																																																
切土法面整形(ICT)	-	-	○	m <sup>2</sup>																																																																																																																
盛土法面整形(ICT)	○	-	○	m <sup>2</sup>																																																																																																																
護岸法面小段整形	×	×	×	m <sup>2</sup>			河川工事のみ																																																																																																													
路面工内法面整形	×	×	×	m <sup>2</sup>			道路工事のみ																																																																																																													

# 土木工事数量算出要領 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和5年(2023年)2月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	改定	現行	備考
共通編 2.6 法面整形工 8. 参考	共通-86 共通-87	<p>8. 参考</p> <p>(1) 河川工事 1) 土工形態別参考図</p> <p>築堤の整形工 <u>（護岸設置の有無によらない）</u></p>  <p>~~~~~</p> <p>~~~~~</p> <p>~~~~~</p> <p>~~~~~</p>	<p>8. 参考</p> <p>(1) 河川工事 1) 土工形態別参考図</p> <p>築堤の整形工 <u>（護岸設置の有無によらない）</u></p>  <p>護岸の整形工</p>  <p>(注) 1. <u>ブロック布設部分において全体が盛土となる場合の小段（平場）部分についても盛土法面整形を計上する。</u>                  2. <u>ブロック布設部分において全体が掘削となる場合の小段（平場）部分についても掘削法面整形を計上する。</u>                  3. <u>根固ブロック布設部に伴う整形は計上しない。</u></p>	<p>護岸法面整形を廃止（国の取扱いと統一）</p> <p>中の古い用語を訂正</p>



# 目 次

## 第1編【共通編】

1 章 基本事項	共通- 1 -
1. 1 適用範囲	共通- 3 -
1. 2 数量計算方法	共通- 3 -
1. 3 構造物の数量から控除しないもの	共通- 4 -
1. 4 構造物の数量に加算しないもの	共通- 4 -
1. 5 数量計算の単位及び数位	共通- 5 -
1. 6 設計表示単位及び数位	共通- 6 -
1. 7 図面表示単位	共通- 6 -
1. 8 単位体積質量	共通- 7 -
1. 9 数量の算出	共通- 8 -
1. 10 BIM/CIMモデルによる数量算出方法	共通- 9 -
1. 11 数量集計表の標準様式	共通- 38 -
2 章 土工	共通- 41 -
2. 1 土工一般事項	共通- 43 -
2. 2 土工	共通- 44 -
2. 3 作業土工	共通- 65 -
2. 3. 1 床掘工	共通- 65 -
2. 3. 2 埋戻工	共通- 76 -
2. 4 安定処理工	共通- 78 -
2. 5 安定処理工（自走式土質改良工）	共通- 80 -
2. 6 法面整形工	共通- 81 -
3 章 発泡スチロールを用いた超軽量盛土工	共通- 89 -
3. 1 発泡スチロールを用いた超軽量盛土工	共通- 91 -
4 章 コンクリート工	共通- 95 -
4. 1 コンクリート工	共通- 97 -
4. 2 型枠工	共通- 100 -
4. 3 鉄筋工	共通- 103 -
4. 3. 1 鉄筋工	共通- 103 -
4. 3. 2 ガス圧接	共通- 106 -
4. 4 張りコンクリート工	共通- 107 -
5 章 法面工	共通- 111 -
5. 1 法枠工	共通- 113 -
5. 1. 1 プレキャスト法枠工	共通- 113 -
5. 1. 2 現場打法枠工	共通- 115 -
5. 1. 3 吹付枠工	共通- 117 -
5. 1. 4 プレキャストコンクリート板設置工	共通- 120 -
5. 2 吹付工	共通- 122 -
5. 3 植生工	共通- 123 -
5. 4 アンカー工（ロータリーパーカッション式）	共通- 127 -
5. 5 鉄筋挿入工（ロックボルト工）	共通- 133 -
6 章 擁壁工	共通- 137 -
6. 1 プレキャスト擁壁工	共通- 139 -
6. 2 補強土壁工（帯鋼補強土壁、アンカー補強土壁、 ジオテキスタイル補強土壁）	共通- 140 -
6. 3 補強土壁工	共通- 144 -

6. 4 場所打擁壁工	共通- 149 -
6. 4. 1 場所打擁壁工 (1)	共通- 149 -
6. 4. 2 場所打擁壁工 (2)	共通- 152 -
7 章 函渠工	共通- 155 -
7. 1 函渠工	共通- 157 -
7. 1. 1 函渠工 (1)	共通- 157 -
7. 1. 2 函渠工 (2)	共通- 158 -
7. 1. 3 函渠工 (3)	共通- 160 -
8 章 地盤改良工	共通- 163 -
8. 1 サンドドレーン工・サンドコンパクションパイル工・サンドマット工	共通- 165 -
8. 2 粉体噴射攪拌工 (DJM工法)	共通- 167 -
8. 3 中層混合処理工	共通- 170 -
8. 4 スラリー攪拌工	共通- 172 -
8. 5 高圧噴射攪拌工	共通- 174 -
8. 6 薬液注入工	共通- 176 -
9 章 基礎工	共通- 179 -
9. 1 基礎・裏込砕石工、基礎・裏込栗石工	共通- 181 -
9. 2 鋼矢板工	共通- 182 -
9. 3 既製杭工	共通- 185 -
9. 4 木杭打工	共通- 189 -
9. 5 場所打杭・深礎工	共通- 190 -
9. 6 ニューマチックケーソン基礎工	共通- 199 -
9. 7 鋼管矢板基礎工	共通- 205 -
9. 8 鋼管ソイルセメント杭工	共通- 207 -
10 章 構造物取壊し工	共通- 211 -
10. 1 構造物取壊し工	共通- 213 -
10. 2 旧橋撤去工	共通- 215 -
10. 3 骨材再生工	共通- 217 -
10. 4 コンクリート削孔工	共通- 218 -
10. 5 殻運搬	共通- 220 -
11 章 仮設工	共通- 221 -
11. 1 土留・仮締切工	共通- 223 -
11. 1. 1 土留・仮締切工	共通- 223 -
11. 1. 2 土のう締切工	共通- 229 -
11. 1. 3 砂防堰堤の仮締切 (参考)	共通- 231 -
11. 2 締切排水工	共通- 232 -
11. 3 仮橋・仮棧橋工	共通- 237 -
11. 4 足場工	共通- 239 -
11. 5 支保工	共通- 250 -
11. 6 仮囲い設置撤去工	共通- 254 -
11. 6. 1 仮囲い設置撤去工	共通- 254 -
11. 6. 2 雪寒仮囲い工	共通- 255 -
11. 6. 3 防寒囲い数量算出例	共通- 261 -
11. 7 土のう工	共通- 271 -
11. 8 防護柵工	共通- 272 -
11. 8. 1 仮設落石防護柵工	共通- 272 -
11. 8. 2 切土及び発破防護柵工	共通- 273 -
11. 8. 3 急傾斜防止工用防護柵工	共通- 275 -
11. 9 汚濁防止フェンス工	共通- 277 -

1 1. 1 0	ウエルポイント工	共通- 278 -
1 1. 1 1	連続地中壁工（柱列式）	共通- 279 -
1 1. 1 2	敷鉄板設置撤去工	共通- 281 -
1 2	章 排水工	共通- 283 -
1 2. 1	排水構造物工	共通- 285 -
1 2. 1. 1	排水構造物工（プレキャスト製品）	共通- 285 -
1 2. 1. 2	排水構造物工（現場打ち水路）	共通- 290 -
1 2. 1. 3	排水構造物工（現場打ち集水桝・街渠桝）	共通- 290 -
1 3	章 構造物補修工	共通- 291 -
1 3. 1	構造物補修工	共通- 293 -
1 3. 1. 1	ひび割れ補修工（充てん工法）	共通- 293 -
1 3. 1. 2	ひび割れ補修工（低圧注入工法）	共通- 294 -
1 3. 1. 3	断面修復工（左官工法）	共通- 295 -

## 第 2 編【河川・砂防編】

1 章	護岸・根固め工	河川・砂防- 1 -
1. 1	消波根固めブロック工	河川・砂防- 3 -
1. 1. 2	消波根固めブロック工（ブロック撤去工） (0.25t以上35.5t以下)	河川・砂防- 6 -
1. 2	沈床工	河川・砂防- 7 -
1. 3	かご工	河川・砂防- 8 -
1. 4	捨石工（河川海岸）	河川・砂防- 11 -
1. 5	護岸基礎ブロック工	河川・砂防- 12 -
1. 6	コンクリートブロック積（張）工	河川・砂防- 14 -
1. 7	石積（張）工	河川・砂防- 21 -
1. 7. 1	多自然型護岸工（巨石積（張）工）	河川・砂防- 21 -
1. 7. 2	石積（張）工	河川・砂防- 23 -
1. 8	巻止、横帯ブロック工	河川・砂防- 26 -
1. 9	袋詰玉石工	河川・砂防- 27 -
1. 10	笠コンクリートブロック据付工	河川・砂防- 28 -
2 章	樋門・樋管	河川・砂防- 29 -
2. 1	軟弱地盤上における柔構造樋門・樋管	河川・砂防- 31 -
2. 2	樋門・樋管（北海道建設部標準タイプ）	河川・砂防- 32 -
2. 2. 1	本体工	河川・砂防- 32 -
2. 2. 2	付属物設置工	河川・砂防- 34 -
3 章	浚渫工	河川・砂防- 39 -
3. 1	浚渫工（ポンプ式浚渫船）	河川・砂防- 41 -
3. 2	浚渫工（バックホウ浚渫船）	河川・砂防- 43 -
4 章	河川維持工	河川・砂防- 45 -
4. 1	堤防除草工	河川・砂防- 47 -
4. 2	堤防天端補修工	河川・砂防- 50 -
4. 3	堤防芝養生工	河川・砂防- 51 -
4. 4	伐木除根工	河川・砂防- 52 -
4. 5	塵芥処理工	河川・砂防- 54 -
4. 6	ボーリンググラウト工	河川・砂防- 55 -

4. 7 木杭打工	河川・砂防- 59 -
5章 砂防工	河川・砂防- 61 -
5. 1 土工	河川・砂防- 63 -
5. 2 コンクリート工	河川・砂防- 65 -
5. 3 残存型砕工	河川・砂防- 70 -
5. 4 仮設備工（砂防工）	河川・砂防- 71 -
5. 4. 1 ケーブルクレーン設備	河川・砂防- 71 -
5. 5 鋼製砂防工	河川・砂防- 72 -
5. 6 砂防ソイルセメント工	河川・砂防- 73 -
6章 斜面对策工	河川・砂防- 75 -
6. 1 集水井工	河川・砂防- 77 -
6. 1. 1 集水井工（ライナープレート土留工法）	河川・砂防- 77 -
6. 1. 2 集水井工（プレキャスト土留工法）	河川・砂防- 79 -
6. 2 集排水ボーリング工	河川・砂防- 80 -
6. 3 地すべり・急傾斜地崩壊防止工（山腹水路工）	河川・砂防- 82 -
6. 4 かご工（斜面对策）	河川・砂防- 84 -
7章 消波工	河川・砂防- 85 -
7. 1 消波工（捨石）	河川・砂防- 87 -
7. 2 消波工（ブロック製作・据付）	河川・砂防- 89 -
8章 光ケーブル工	河川・砂防- 91 -
8. 1 光ケーブル配管工	河川・砂防- 93 -
8. 1. 1 適用	河川・砂防- 93 -
8. 1. 2 土工	河川・砂防- 93 -
8. 1. 3 配管設置	河川・砂防- 94 -
8. 1. 4 ハンドホール設置	河川・砂防- 95 -

### 第3編【道路編】

1章 舗装工	道路- 1
1. 1 不陸整正	道路- 3
1. 2 路盤工	道路- 5
1. 3 アスファルト舗装工	道路- 8
1. 4 半たわみ性（コンポジット）工	道路- 12
1. 5 コンクリート舗装工	道路- 13
1. 6 連続鉄筋コンクリート舗装工	道路- 15
1. 7 排水性アスファルト舗装工	道路- 16
1. 8 透水性アスファルト舗装工	道路- 17
1. 9 ゲースアスファルト舗装工	道路- 18
1. 10 薄層カラー舗装工	道路- 19
1. 11 橋面防水工	道路- 20
1. 12 平石張工	道路- 21
1. 13 踏掛版工	道路- 23
2章 付属施設工	道路- 25
2. 1 防護柵設置工	道路- 27
2. 1. 1 防護柵工	道路- 27
2. 1. 2 立入防止柵工	道路- 29

2. 1. 3	車止めポスト設置工	道路	31
2. 1. 4	防雪柵設置・撤去工	道路	32
2. 1. 5	雪崩予防柵設置工	道路	34
2. 1. 6	防雪柵現地張出し・収納工	道路	37
2. 1. 7	ワイヤロープ設置工	道路	40
2. 2	落石防止工	道路	42
2. 2. 1	落石防止網工	道路	42
2. 2. 2	落石防止網（繊維網）設置工	道路	44
2. 2. 3	落石防護柵工	道路	45
2. 3	標識工	道路	47
2. 3. 1	標識工	道路	47
2. 4	道路付属施設工	道路	49
2. 4. 1	区画線工、高視認性区画線工	道路	49
2. 4. 2	路側工	道路	51
2. 4. 3	境界工	道路	52
2. 4. 4	道路付属物工	道路	53
2. 5	遮音壁設置工	道路	55
2. 6	組立歩道工	道路	61
2. 7	道路植栽工	道路	63
3 章	道路維持修繕工	道路	67
3. 1	路面切削工	道路	69
3. 2	舗装版破碎工	道路	71
3. 3	舗装版切断工	道路	73
3. 4	道路打換え工	道路	75
3. 5	路上路盤再生工	道路	77
3. 6	アスファルト舗装補修工	道路	78
3. 6. 1	欠損部補修工	道路	78
3. 6. 2	わだち掘れ補修工	道路	79
3. 7	アスファルト注工	道路	80
3. 8	舗装版クラック補修工	道路	81
3. 9	道路付属構造物塗替工	道路	82
3. 10	張紙防止塗装工	道路	83
3. 11	道路除草工	道路	84
3. 12	路肩整正工	道路	86
3. 13	道路清掃工	道路	87
3. 13. 1	路面清掃工	道路	87
3. 13. 2	道路付属物清掃工	道路	89
3. 14	排水施設清掃工	道路	90
3. 14. 1	側溝清掃工、管渠清掃工、集水柵清掃工	道路	90
3. 14. 2	集水柵清掃工（単独作業）	道路	92
3. 15	トンネル清掃工	道路	93
3. 16	トンネル照明器具清掃工	道路	94
3. 17	トンネル漏水対策工	道路	95
3. 18	植栽維持工	道路	96
3. 18. 1	樹木・芝生管理工	道路	96
3. 19	床版補強工	道路	100
3. 19. 1	鋼板接着工	道路	100
3. 19. 2	増桁架設工	道路	101
3. 19. 3	炭素繊維接着工	道路	103
3. 19. 4	足場工、朝顔、防護工	道路	105
3. 20	橋梁補強工	道路	107
3. 20. 1	橋梁補強工（鋼板巻立て）（1）	道路	107

3. 20. 2	橋梁補強工（鋼板巻立て）（2）	道路	112
3. 20. 3	橋梁補強工（コンクリート巻立て）（1）	道路	114
3. 20. 4	橋梁補強工（コンクリート巻立て）（2）	道路	118
3. 21	落橋防止装置工	道路	120
3. 21. 1	落橋防止装置工	道路	120
4章	鋼橋上部工	道路	125
4. 1	鋼材	道路	127
4. 1. 1	橋梁本体	道路	127
4. 1. 2	付属物	道路	133
4. 2	工場製作工	道路	134
4. 2. 1	鋼材質量	道路	134
4. 2. 2	溶接延長	道路	136
4. 3	塗装工	道路	137
4. 4	鋼橋架設工	道路	140
4. 5	仮設工	道路	142
4. 5. 1	足場設備工	道路	142
4. 5. 2	防護設備工	道路	144
4. 5. 3	登り棧橋工	道路	145
4. 6	床版工	道路	146
4. 6. 1	コンクリート床版工	道路	146
4. 6. 2	グレーチング床版架設工	道路	147
4. 7	橋梁付属物工	道路	148
4. 7. 1	伸縮装置工	道路	148
4. 7. 2	橋梁排水管設置工	道路	149
4. 8	歩道橋（側道橋）架設工	道路	150
5章	コンクリート橋上部工	道路	153
5. 1	コンクリート主桁製作工	道路	155
5. 1. 1	プレテンション桁購入工	道路	155
5. 1. 2	ポストテンションT（I）桁製作工	道路	158
5. 1. 3	PCホロースラブ製作工	道路	159
5. 1. 4	RC場所打ホロースラブ製作工	道路	161
5. 1. 5	PC箱桁製作工	道路	162
5. 1. 6	プレビーム桁製作工	道路	163
5. 1. 7	PC片持製作工	道路	164
5. 2	架設工	道路	166
5. 2. 1	プレキャストセグメント主桁組立工	道路	166
5. 2. 2	プレビーム桁架設工	道路	167
5. 2. 3	PC片持架設工	道路	168
5. 3	架設支保工	道路	171
5. 4	横組工	道路	178
5. 4. 1	プレテンション桁	道路	178
5. 4. 2	ポストテンションT桁	道路	179
5. 5	支承工	道路	180
5. 6	仮設工	道路	181
5. 6. 1	足場設備工	道路	181
5. 6. 2	防護設備工	道路	183
5. 6. 3	登り棧橋工	道路	184
5. 7	橋梁付属物工	道路	185
5. 7. 1	伸縮装置工	道路	185
5. 7. 2	橋梁排水管配置工	道路	185
5. 7. 3	橋梁付属施設配置工	道路	185

6章 鋼製橋脚設置工	道路	187
6.1 鋼製橋脚設置工	道路	189
7章 橋台・橋脚工	道路	191
7.1 橋台・橋脚工(1) (構造物単位)	道路	193
7.2 橋台・橋脚工(2)	道路	196
8章 橋梁補修工	道路	197
8.1 橋梁地覆補修工(撤去・復旧)	道路	199
8.2 支承取替工	道路	201
8.3 沓座拡幅工	道路	204
8.4 桁連結工	道路	206
8.5 現場溶接鋼桁補強工	道路	208
8.6 表面被覆工(塗装工法)	道路	209
9章 トンネル工	道路	211
9.1 NATM(発破・機械掘削工法(坑口含む)、非常駐車帯工)	道路	213
9.1.1 適用	道路	213
9.1.2 掘削・支保工	道路	214
9.1.3 覆工コンクリート工・防水工	道路	220
9.1.4 インパート工	道路	222
9.1.5 付帯設備工等	道路	223
9.1.6 工事用仮設備	道路	224
9.2 トンネル内装板設置工	道路	225
10章 共同溝工	道路	227
10.1 共同溝工(1)	道路	229
10.2 共同溝工(2)	道路	230
10.2.1 適用	道路	230
10.2.2 布掘工	道路	230
10.2.3 掘削工	道路	231
10.2.4 埋戻工	道路	232
10.2.5 基礎砕石工	道路	232
10.2.6 コンクリート工	道路	233
10.2.7 型枠工	道路	234
10.2.8 鉄筋工	道路	234
10.2.9 足場工	道路	235
10.2.10 支保工	道路	235
10.2.11 伸縮継手工、カラー継手工	道路	236
10.2.12 防水工	道路	237
10.2.13 防水層保護工	道路	238
10.3 電線共同溝(C. C. BOX)工	道路	239
10.3.1 適用	道路	239
10.3.2 舗装版破碎積込	道路	239
10.3.3 土工	道路	239
10.3.4 基礎工	道路	240
10.3.5 管路工	道路	241
10.3.6 仮設工	道路	243

## 第4編【公園編】

1章 公園植栽工	公園- 1
1. 1 公園植栽工	公園- 3
1. 2 公園除草工	公園- 5

## 第5編【資料編】

1章 土量計算	資料- 1 -
1. 1 体系化用語の解説	資料- 3 -
1. 2 土の流れの概念図	資料- 5 -
1. 3 土工積算の基本フロー	資料- 6 -
1. 4 書式と記載例	資料- 7 -
2章 伐開工（準備工）	資料- 19 -
2. 1 伐開工の面積算出	資料- 21 -
2. 2 伐開工の運用区分	資料- 21 -
2. 3 伐開工（すき取り土・すき取り物）の数量算出	資料- 22 -
3章 建設副産物の積算数量の算出	資料- 23 -
3. 1 建設副産物の積算数量の算出	資料- 25 -
3. 2 舗装の切断作業時に発生する排水について	資料- 26 -
3. 3 副産物の参考重量について	資料- 28 -
4章 機械設備	資料- 29 -



# 第 1 編 共 通 編

1 章 基本事項	共通- 1 -
2 章 土工	共通- 41 -
3 章 発泡スチロールを用いた超軽量盛土工	共通- 89 -
4 章 コンクリート工	共通- 95 -
5 章 法面工	共通- 111 -
6 章 擁壁工	共通- 137 -
7 章 函渠工	共通- 155 -
8 章 地盤改良工	共通- 163 -
9 章 基礎工	共通- 179 -
10 章 構造物取壊し工	共通- 211 -
11 章 仮設工	共通- 221 -
12 章 排水工	共通- 283 -
13 章 構造物補修工	共通- 291 -



# 1 章 基本事項

1. 1 適用範囲	共通- 3 -
1. 2 数量計算方法	共通- 3 -
1. 3 構造物の数量から控除しないもの	共通- 4 -
1. 4 構造物の数量に加算しないもの	共通- 4 -
1. 5 数量計算の単位及び数値	共通- 5 -
1. 6 設計表示単位及び数値	共通- 6 -
1. 7 図面表示単位	共通- 6 -
1. 8 単位体積質量	共通- 7 -
1. 9 数量の算出	共通- 8 -
1. 10 BIM/CIMモデルによる数量算出方法	共通- 9 -
1. 11 数量集計表の標準様式	共通- 38 -



# 1 章 基本事項

## 1. 1 適用範囲

北海道建設部及び建設管理部が行う土木工事に係る工事数量の計算等にあたっては、本要領を適用する。

## 1. 2 数量計算方法

数量の単位は、計量法によるものとする。  
長さ・面積・断面積等の計算は数学公式によるほか、スケールアップ、プランニメーター、平均面積（断面）法等により行うものとする。また、CADソフト等により算出した数値については、図面上で照査できるよう測点・延長等を明記することで適用できる。  
算式計算の乗除は、記載の順序によって行ない、四捨五入して位止めするものとする。

### 1. 数量の単位

数量の単位は、すべて計量法によるものとする。

### 2. 長さの計算

長さの計算は数学公式によるほか、スケールアップによることができる。  
スケールアップによるときは、2回以上の実測値の平均値とする。

### 3. 面積の計算

- (1) 面積の計算は数学公式によるほか、3斜誘致法、又はプランニメーターによって算出する。プランニメーターを使用するときは、3回以上測ったもののうち、正確と思われるもの3回の平均値とする。
- (2) 面積計算で各法長が一定でないときは、両辺長を平均したものにその断面間の距離を乗ずる平均面積法により算出する。
- (3) CADソフトにより算出した数値を使用する場合は、その数値をプリントした図面上でスケールアップや計算において照査できるよう測点・延長等を明記する。

### 4. 体積の計算

体積の計算は数学公式によるほか、両断面積の平均数量に距離を乗じる平均断面法により算出する。

### 5. 構造物の計算に用いる角度

構造物の計算に用いる角度は「分」までとし、円周率、法長、乗率、三角関数及び弧度は四捨五入して小数第3位とする。

### 6. 算式計算の乗除

算式計算の乗除は、記載の順序によって行ない、分数は約分せず分子分母にその値を求めた後に除法を行なうものとし、四捨五入により位止めするものとする。

### 1. 3 構造物の数量から控除しないもの

構造物中の鉄筋・水抜き穴等で、その容積又は面積が僅少なものは、構造物の数量から控除しなくてよいものとする。

次に掲げる種類の容積または面積は、原則として構造物の数量から控除しなくてよいこととする。

1. コンクリート中の鉄筋・鋼矢板・土留材等
2. コンクリート中の基礎杭頭
3. コンクリート中の支承座面の箱抜
4. 床版コンクリート中の主桁上フランジ
5. 鋼材中のボルト孔及び隅欠き
6. コンクリート構造物の面取り及び水切
7. コンクリート構造物の伸縮継目の間隔及び止水板
8. コンクリート構造物内の内径30cm以下の管類、水抜孔等
9. 基礎材（均しコンクリートを含む）中の径30cm以下の杭及び胴木
10. 法沿い堅排水工、地下排水工等の容積及びこれに類似のもの
11. コンクリート構造物中のモルタル注入孔及び埋込金具等の容積
12. 舗装工、床版工中の1箇所1.0 m<sup>2</sup>未満の建造物
13. 盛土中で現地盤線以上の断面積が1.0 m<sup>2</sup>未満の建造物
14. ガードレール、ガードパイプ等防護柵の支柱の箱抜き
15. その他面積又は体積が前項に示す値以下で全体数量に及ぼす影響が僅少なものであるが、ただし、現場打杭及び杭頭部の結合方式方法Aの場合のフーチングコンクリートについては、控除する。
16. 上記1～15に準ずるものと判断されるもの

### 1. 4 構造物の数量に加算しないもの

施工時において、発注者が不相当と認めて解体・除去を命じた構造物、材料の損失等については、構造物数量には加算しないものとする。

施工時に数量を算出する必要がある場合、次に掲げる内容については、構造物の数量に加算しないものとする。

1. 品質・形状等が不相当と発注者が認め、解体・除去を命じた構造物
2. 型枠の余裕面積
3. コンクリート・鉄筋等材料の損失量
4. 鉄筋の組立・据付に使用したタイクリップ等
5. 仮締切、支保、足場工等における仮設基礎コンクリート等
6. 上記1～5に準ずるものと判断されるもの

## 1. 5 数量計算の単位及び数位

数量計算に用いる単位及び数位は、表－1～3によるものとし、数位に満たない場合は有効数字上位1桁（2桁以下四捨五入）の数量を数位とする。なお、表にないものは表－1に準ずるものとする。

表－1 数量計算の単位及び数位一覧表

計 算 書 名	種 別	単 位	数 位	摘 要
土 工 量	距 離	m	小数位以下1位止	2位四捨五入
	高	m	" 1 "	2 "
	幅	m	" 1 "	2 "
	断面面積	m <sup>2</sup>	" 1 "	2 "
	断面面積	m <sup>2</sup>	" 2 "	3 "
断面面積	m <sup>3</sup>	" 1 "	2 "	
法 面 積	距 離	m	小数位以下1位止	2位四捨五入
	法 長	m	" 1 "	2 "
	平 法	m	" 2 "	3 "
	面 積	m <sup>2</sup>	" 1 "	2 "
コンクリートブロック (石)積(張)面積	距 離	m	小数位以下1位止	2位四捨五入
	法 長	m	" 1 "	2 "
	平 法	m	" 2 "	3 "
	面 積	m <sup>2</sup>	" 1 "	2 "
コンクリート・ アスファルト 体積	幅	m	小数位以下2位止	3位四捨五入
	高	m	" 2 "	3 "
	長	m	" 2 "	3 "
	体 積	m <sup>3</sup>	" 1 "	2 "
型 枠 面 積	幅	m	小数位以下2位止	3位四捨五入
	高	m	" 2 "	3 "
	長	m	" 2 "	3 "
	面 積	m <sup>2</sup>	" 1 "	2 "
鉄 筋 質 量	φ 単 位 質 量	mm kg/m	整 数 位 止 小数位以下3位止 有効数字3桁	1本当り質量 は小数2位止 四捨五入 1位四捨五入
	質 量	kg	整 数 位 止	
足 場 ・ 支 保	幅	m	小数位以下1位止	2位四捨五入
	高	m	" 1 "	2 "
	距 離	m	" 1 "	2 "
	面 積	掛 m <sup>2</sup> 空 m <sup>3</sup>	整 数 位 止	1位四捨五入 1位 "
粗 朶 沈 床 等 面 積	幅	m	小数位以下1位止	2位四捨五入
	長	m	" 1 "	2 "
	面 積	m <sup>2</sup>	" 1 "	2 "
舗 装 面 積	幅	m	小数位以下2位止	3位四捨五入
	距 離	m	" 1 "	2 "
	面 積	m <sup>2</sup>	" 1 "	2 "
区 画 線	延 長	m	小数位以下2位止	3位四捨五入
	長	m	小数位以下1位止	2位四捨五入
トンネル断面面積	幅	m	小数位以下2位止	3位四捨五入
	高	m	" 2 "	3 "
	長	m	" 2 "	3 "
	断 面 積	m <sup>2</sup>	" 1 "	2 "
鋼 材 質 量	幅	m	小数位以下3位止	4位四捨五入
	高	m	" 3 "	4 "
	長	m	" 3 "	4 "
	質 量	kg	整 数 位 止	但し鉄筋は cm止め(四捨 五入)とする 1位四捨五入
ボルト質量	単 位 質 量	g/本	整 数 位 止	1位四捨五入
	本 質 量	kg	整 数 位 止	1位四捨五入
塗 装 面 積	幅	m	小数位以下3位止	4位四捨五入
	高	m	" 3 "	4 "
	長	m	" 3 "	4 "
	面 積	m <sup>2</sup>	" 1 "	2 "

表-2 鋼板の質量

計算順序	計算方法	結果のけた数
基本質量 kg/mm/m <sup>2</sup>	7.85 (厚さ/mm、 面積/m <sup>2</sup> の質量)	
単位質量 kg/m <sup>2</sup>	基本質量 (kg/mm/m <sup>2</sup> ) ×板の厚さ (mm)	有効数字4けたの数値に丸める。
面積 m <sup>2</sup>	幅 (m) ×長さ (m)	有効数字4けたの数値に丸める。
1枚の質量 kg	単位質量 (kg) ×面積 (m <sup>2</sup> )	有効数字3けたの数値に丸める。 ただし、100~999kgは少数第1位 1,000kgを超えるものはkgの整数 値に丸める。

表-3 平鋼の質量

計算順序	計算方法	結果のけた数
基本質量 kg/cm <sup>2</sup> /m	0.785 (断面積1cm <sup>2</sup> 長さ1m の質量)	
単位質量 kg/m	基本質量 (kg/cm <sup>2</sup> /m) ×断面積	有効数字3けたの数値に丸める。
断面積 cm <sup>2</sup>	幅 (mm) ×厚さ (mm) ×1/100	有効数字4けたの数値に丸める。
1枚の質量	単位質量 (kg/m) ×長さ (m)	有効数字3けたの数値に丸める。 ただし、100~999kgは少数第1位 1,000kgを超えるものはkgの整数 値に丸める。

ただし、「建設省土木構造物標準設計」(以下「標準設計」という。)、  
「北海道道路工事設計図集」(以下「標準図集」という。)  
及び「北海道の中小河川における樋門標準設計」  
(以下「樋門標準設計」という。)  
に記載されている単位当り数量については、  
記載されている数値を使用するとともに、  
作業土工等で単位当りの数量を算出する場合は  
「標準設計」、「標準図集」及び「樋門標準設計」  
に記載されている数量表示に基づき算出するものとする。

## 1. 6 設計表示単位及び数値

### 1. 設計表示単位及び数値

設計表示単位及び数値は、検収区分ごとに定められた単位で、別表-1で定める数値により四捨五入して求めるものとする。

- 設計数量が設計表示数値に満たない場合及び、工事規模、工事内容等により、設計表示数値が不適当と判断される場合は(小規模工事等)有効数字第1位の数量設計表示数値とする。
- 別表-1以外の項目について、設計表示単位及び数値を定める必要が生じたときは工事規模、工事内容等を勘案して適正に定めるものとする。  
(例:無収縮モルタル等の単価が高いもの)

### 2. 数量の丸め

検収区分の内訳数量の丸め方法は、設計表示単位の1位下位の単位で丸めるものとする。

## 1. 7 図面表示単位

図面に表示する寸法単位は、mmとする。これ以外については単位を記入するものとする。  
鋼材JISは、国際単位系(SI)とする。



## 1. 8 単位体積質量

単位体積質量は、試験等を実施し定める他、各種示方書・指針に使用されている数値を用いるものとする。

数量計算に用いる1 m<sup>3</sup>当り単位体積質量は、表-4のとおりとする。  
ただし、試験等を実施した場合はその数値を使用する。

表-4 単位体積質量

名 称	規 格	単 位	単 位 質 量	備 考	
土 砂		k g	1, 8 0 0		
軟 岩		〃	2, 2 0 0		
硬 岩		〃	2, 5 0 0		
コンクリート	無 筋	〃	2, 3 5 0		
	鉄 筋	〃	2, 5 0 0		
アスファ ルト 合材	車 道 用	細粒度アスコン	〃	2, 2 5 0	
		細粒度ギヤップ <sup>°</sup> アスコン	〃	2, 3 0 0	
		密粒度ギヤップ <sup>°</sup> アスコン	〃	2, 3 5 0	
		粗粒度アスコン	〃	2, 3 5 0	
		アスファルト安定処理	〃	2, 3 0 0	
		アスファルトモルタル	〃	2, 1 0 0	
	歩 道 用	細粒度アスコン	〃	2, 1 5 0	
		アスファルト安定処理	〃	2, 1 5 0	
	保護路肩	細粒度アスコン	〃	2, 1 0 0	
	砂		〃	1, 7 4 0	
切 込 砂 利		〃	2, 0 2 0		
切 込 砕 石		〃	2, 0 4 0		
粒 調 砕 石		〃	2, 1 0 0		
水硬性スラグ		〃	2, 0 8 0		
粒 調 ス ラ グ		〃	2, 0 6 0		
クラッシャーランスラグ		〃	2, 0 6 0		
セ メ ン ト		〃	3, 0 0 0		
ソイルセメント		〃	2, 1 0 0		
鋼 材		〃	7, 8 5 0		
水		〃	1, 0 0 0		
木 材		〃	8 0 0		
石 材		〃	2, 6 0 0		
すき取り土		〃	1, 1 0 0	※ふるい前	
すき取り物		〃	8 0 0	※ふるい後	

## 1. 9 数量の算出

各工種の数量は、各章の記載内容により算出するものとする。

各工種の数量は、各章の記載内容により算出するものとする。  
また、数量は、施工箇所、構造物ごとに数量を取りまとめるものとする。

なお、各章における「数量算出項目及び区分一覧表」に記載されている「○」、「×」が意味する内容は次のとおりである。

「○」…………… 数量算出項目の数量を算出するにあたって、○の区分については考慮する必要があることを示す。

「×」…………… 数量算出項目の数量を算出するにあたって、×の区分については考慮する必要がないことを示す。

## 1. 10 BIM/CIMモデルによる数量算出方法

数量の算出は「1. 2 数量計算方法」によるほか下記の方法によるものとする。

### 1. 土構造物

#### (1) 算出方法

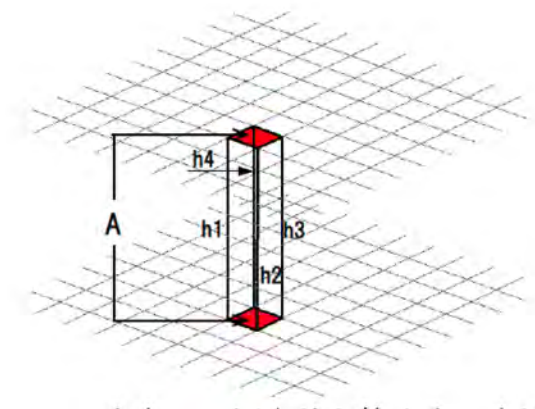
3次元CADソフト等を用いたa)～d)の方式

数量算出に用いる3次元点群座標データまた同様に数量算出に用いるサーフェスデータのメッシュの大きさは、50cm間隔以下の密度とする。ただし、3次元点群座標データにおいて植生等により測定した点が正しく地表を捉えられず、標準の点密度の取得が困難な場合には、この限りでない。

#### a) 点高法

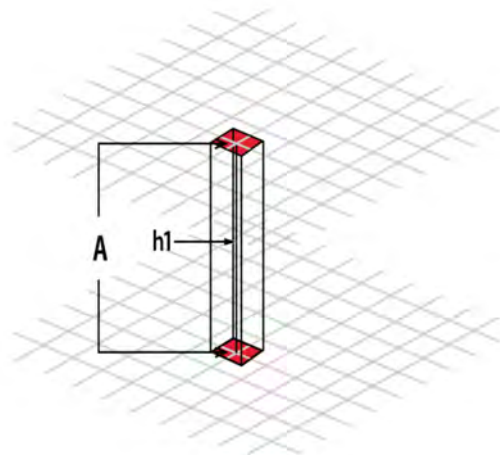
2つの面データに重ね合わせたメッシュ（等間隔）交点で標高を算出し、標高差にメッシュ間隔の面積を乗じたものを総和する。メッシュ間隔は50cm以内とし、標高差の算出には、以下の方法とする。

4点平均法：メッシュ交点の四隅の標高差を平均する方法



$$V = A \times \frac{(h1 + h2 + h3 + h4)}{4}$$

1点法：メッシュ交点にて標高差を算出する方法

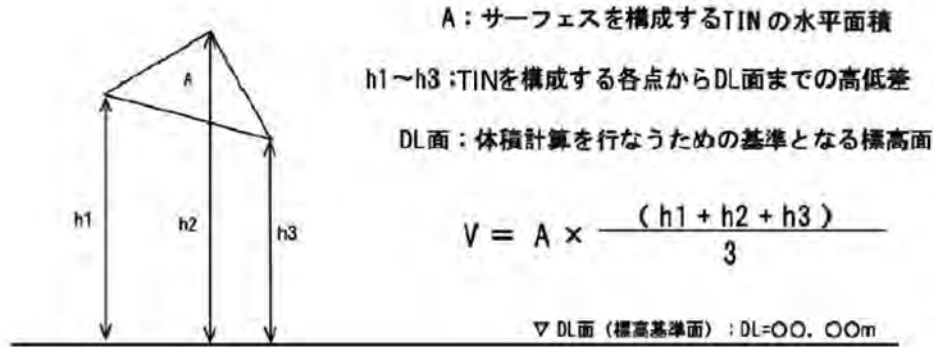


$$V = A \times h1$$

b) TIN分割を用いて求積する方法

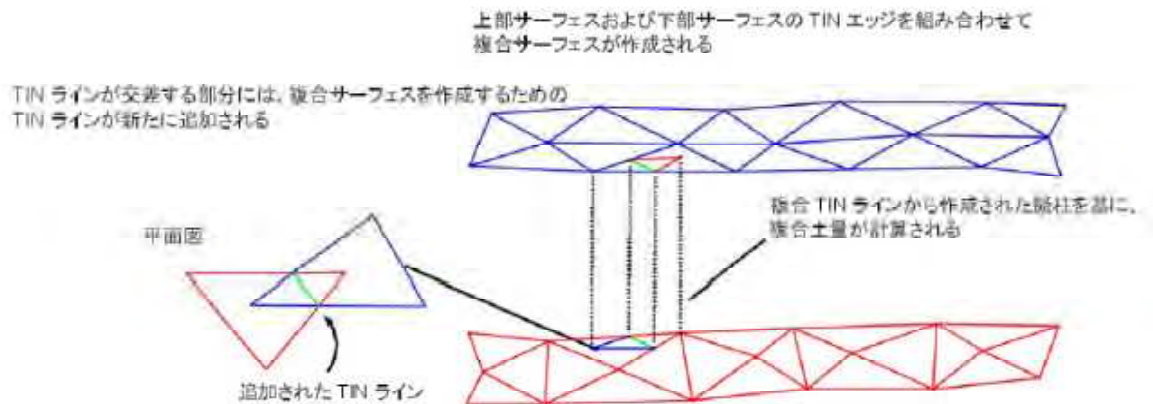
2つの面データを作成した上で TIN からなる面データを作成したうえで、ある一定の標高値にて DL 面（標高基準面）を設定し、各 TIN の水平面積と、TIN を構成する各点から DL 面までの高低差の平均（平均高低差）を乗じた体積を総和する。

なお、TIN とは Triangular Irregular Network の略。TIN は、標高データを補間する最も一般的なデジタルデータ構造である。TIN は、多くの点を3次元上の直線で繋いで三角形の頂点の組合せで面（サーフェス）を形成する。



c) プリズモイダル法

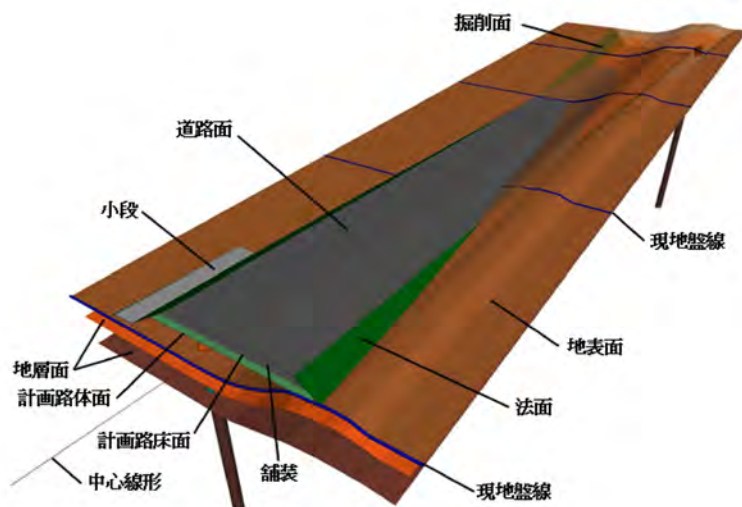
2つの面データを作成した上で TIN からなる面データを作成し、面データのポイントの位置を互いの面データに投影する。次に各面データから、本来の自身が持つポイントと相手のポイントを合わせたポイント位置により新たな三角網を形成し、この三角網の結節点の位置での標高差に基づき複合した面データの標高を計算する。面データの各 TIN を構成する点をそれぞれの面データに投影すると、各面データに同じ水平位置で標高の異なる点を作成されるので、その作成された点で再度面データを構築し、三角形水平面積と高低差を乗じた体積を総和する。



d) その他算出結果について結果を確認できるもの

(2) BIM/CIMモデルによる数量算出方法

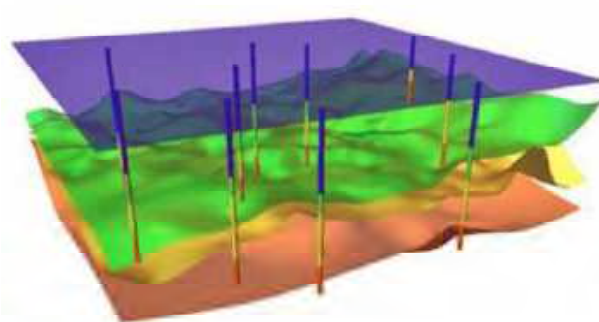
土構造物の数量算出に用いるBIM/CIMモデル（サーフェスモデル等）は、地表面や地層面をモデル化した「3次元地盤モデル」と、「掘削」における施工基面又は法面や「盛土」における路床面又は法面等をモデル化した「土工モデル」である。これらのモデルを重ね合わせて、各面の標高差分を用いる点高法等により、土構造物の数量を算出する。



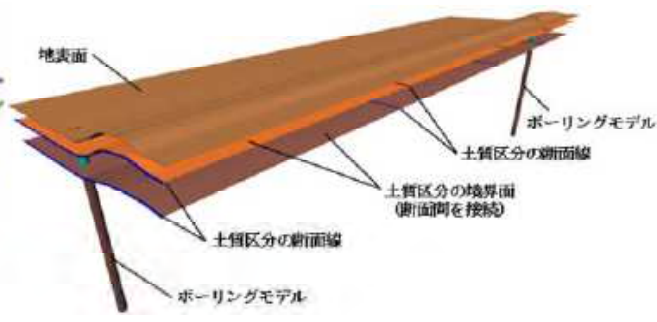
土工（掘削、盛土）や残土処分の数量は、3次元地盤モデルに現地盤線や施工基面（計画路床・河床面）等を表現した土工モデルや構造物モデル等を重ね合わせ、その体積の差分等により算出する。

1) 3次元地盤モデル（土質）

「3次元地盤モデル」は、地表面の地形及び地盤内の土質区分を3次元でモデル化したもので、サーフェスモデル又は、連続面モデルで境界面を表現する。連続面モデルとは平均断面法と同様にボーリングデータ等に基づく地質断面図を用いて土質区分の断面を表現し、一次比例で断面間を補完して接続したものである。



サーフェスモデル



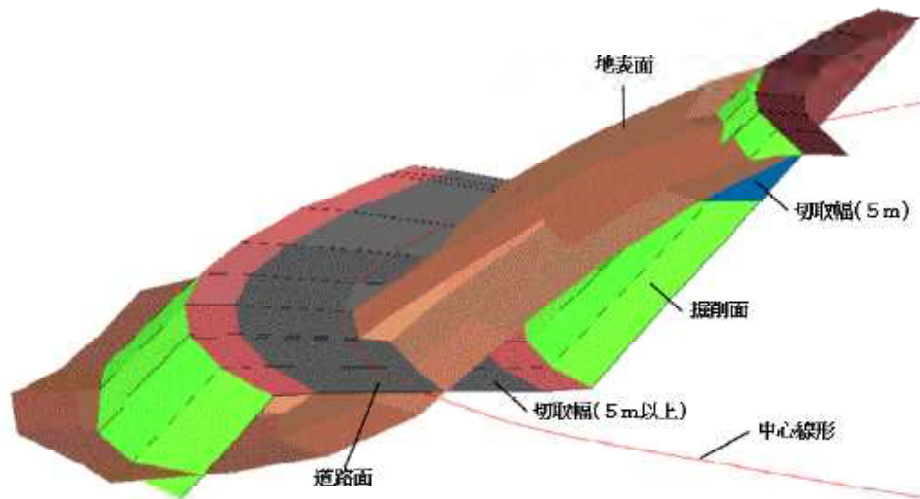
連続面モデル

## 2) 施工形態 (土工モデル)

### (A) 掘削

#### a) 道路

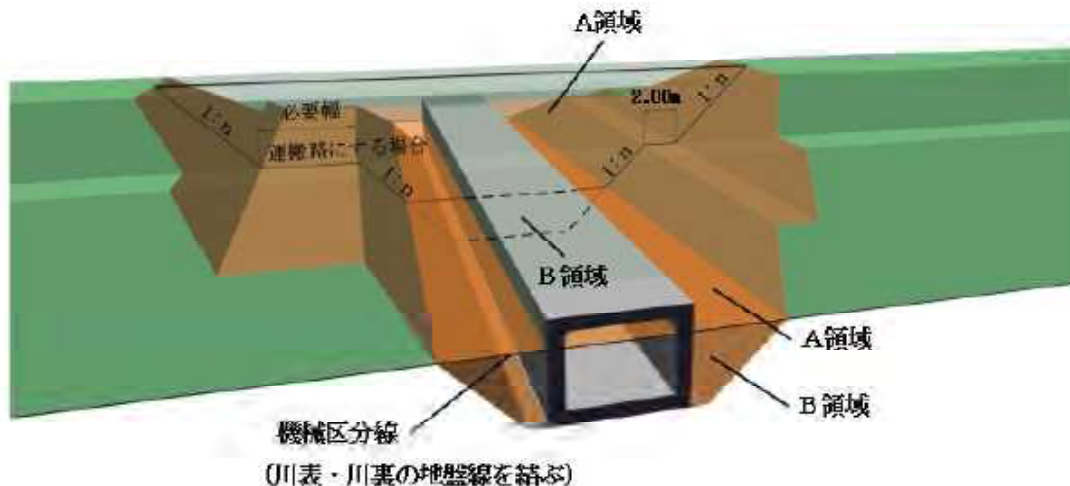
オープンカットや片切掘削等における切取幅 (数量算出区分に応じた幅) の境界面は、サーフェスモデル等を用いて表現する。切取幅の境界面サーフェスは、平均断面法と同様に切り出した断面で切取幅 (5.0m) の境界線を作成し、複数の断面間の空間にソリッドモデルまたは、サーフェスモデルを作成するロフトと呼ばれる3次元CADソフトウェアの機能により接続したものである。



#### b) 河川

現況及び計画のそれぞれで、構造物 (築堤、高水敷、低水路等) のBIM/CIMモデル (サーフェスモデル) を作成し、構造物ごとに数量が集計できるように、それぞれのBIM/CIMモデルに属性を付与する。

堤防横断構造の場合、河川構造物堤防横断構造物のA領域、B領域を区別する機械区分の境界面は、サーフェスモデル等を用いて表現する。



## (B) 盛土

### a) 道路

盛土の部位（路体盛土、路床盛土、路肩盛土、歩道盛土、土羽土）ごとにBIM/CIMモデル（サーフェスモデル）を作成し、部位ごとに数量が集計できるように属性を付与する。また、土質区分ごとに集計できるように、土質区分も属性情報として付与する。なお、設計段階で盛土に利用する土質が分からない場合はその限りでない。

路体盛土及び路床盛土の施工幅員（数量算出区分に応じた幅）は、サーフェスモデル等を用いて表現する。施工幅員の境界面のサーフェスモデルは、平均断面法と同様に切り出した断面で施工幅員の境界線を作成し、複数の断面間の空間にソリッドモデルまたは、サーフェスモデルを作成するロフトと呼ばれる3次元CADソフトウェアの機能により接続したものである。

### b) 河川

構造物（築堤、高水敷、低水路等）及び盛土の部位（築堤盛土、土羽土）ごとにBIM/CIMモデル（サーフェスモデル）を作成し、構造物及び部位ごとに数量が集計できるように属性を付与する。また、土質区分毎に集計できるように、土質区分も属性情報として付与する。

築堤盛土の施工幅員（数量算出区分に応じた幅）は、サーフェスモデル等を用いて表現する。施工幅員の境界面のサーフェスモデルは、上記の道路盛土と同様に、切り出した断面で施工幅員の境界線を作成し、複数の断面間の空間にソリッドモデルまたは、サーフェスモデルを作成するロフトと呼ばれる3次元CADソフトウェアの機能により接続したものである。

## 2. コンクリート構造物

### 【BIM/CIMモデルによる数量算出】

A：「体積」を算出する項目

BIM/CIMモデルを用いて位置と体積を算出し、属性情報を用いて規格や仕様等を区分する。コンクリート等に適用する。

B：「長さ」、「面積」や「個数」を算出する項目

簡易な幾何形状（点、線、面）を用いて位置、延長や面積を算出し、属性情報を用いて規格や仕様等を区分する。鉄筋等に適用する。

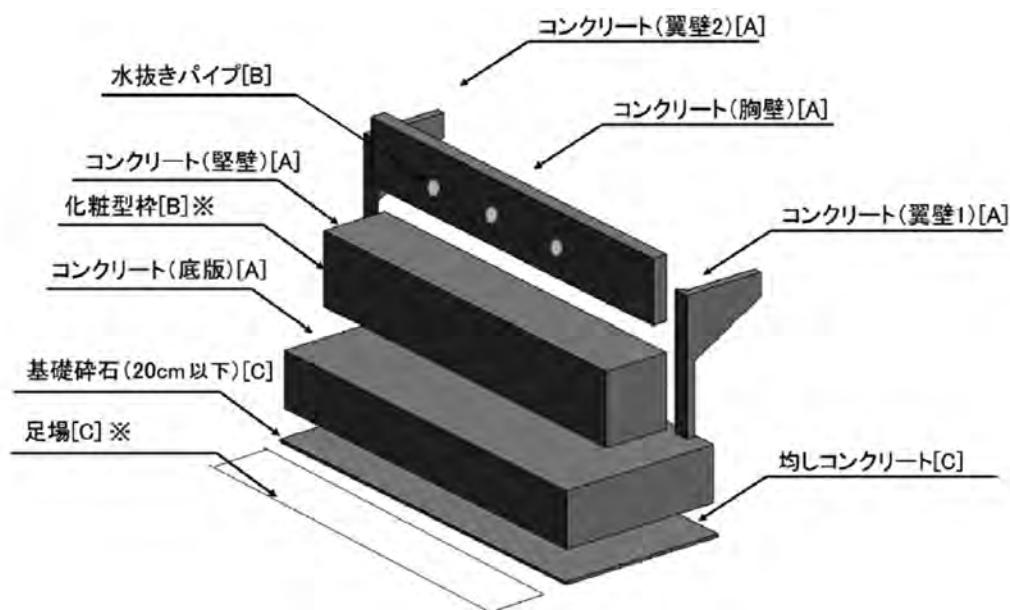
C：積算上考慮すべき材料等について「必要性の有無」を確認する項目

積算時に率計上する必要があるかないかを確認する項目。必要性の有無にかかわらずBIM/CIMモデルの作成は不要であるが、積算時に参照できるように、注記を付与して確認できるようにすること。

D：対象外とする項目

運搬量や破砕量および、処分費や除雪などの巡回回数や作業時間を算出する項目等については、BIM/CIMモデルを用いた数量算出の対象外とする。

なお、上記は、BIM/CIMモデルによる数量算出を行う際の基本的な分類を示すものであり、必要に応じて「B」や「C」に分類されている項目に「A」や他の数量算出方法を用いることを妨げるものではない。



※一般的な土木構造物の「足場」や「型枠」は、数量算出するため「B」を適用する。現場打ち擁壁、函渠工、橋台橋脚、共同溝工の「足場」や「型枠」は、「コンクリート」に数量が含まれるため、「C」を適用する。なお「化粧型枠」は、数量を算出することから、本図では「B」を例示している。



(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報					
			規格	形式	必要性 の有無	単位	数量	備考
橋台・橋脚本体コンクリート		A	○	○	—	m <sup>3</sup>		
基礎	敷均し厚20cm以下	C	×	×	○	—		
砕石	敷均し厚20cm超え	B	○	×	—	m <sup>2</sup>		注)2
均しコンクリート		C	×	×	○	—		
化粧型枠		B	×	×	—	m <sup>2</sup>		必要量計上
鉄筋		B	○	×	—	t		注)1
足場		B	×	×	(×)	掛m <sup>2</sup>		注)3
水抜パイプ		B	×	×	—	m		注)4

- 注) 1. 鉄筋については「第1編(共通編)4.3.1鉄筋工」によるものとする。  
 2. 基礎砕石(敷均し厚20cmを超える場合)については、「第1編(共通編)9.1基礎・裏込砕石工」によるものとする。  
 3. 冬期の施工で雪寒仮囲いが必要な場合については、「第1編(共通編)11.6.2雪寒仮囲い工」によるものとする。  
 4. 逆T式橋台のみ必要な場合に計上する。

「橋台・橋脚本体コンクリート」は、BIM/CIMモデルより体積を算出し、属性情報を用いて規格・形式を区分することより「A」を適用する。

「基礎砕石」の「敷均し厚20cm以下」は、必要性の有無を確認し、必要な場合は計上するが、材料数量の算出は不要のため「C」を適用する。

「基礎砕石」の「敷均し厚20cm超え」は、BIM/CIMモデルより面積を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。

「均しコンクリート」は、必要性の有無を確認する「C」を適用する。

「化粧型枠」を使用する場合は、BIM/CIMモデルより面積を算出するため「B」を適用する。なお、「一般型枠」を使用する場合も同様に「B」を適用するが、第1編(共通編)6章6.4.1場所打擁壁工(1)、7章7.1.1函渠工(1)、第3編(道路編)7章7.1橋台・橋脚工(1)、10章10.1共同溝工(1)の場合は歩掛で計上しており、数量算出が不要なため、BIM/CIMモデルの作成は不要である。

「鉄筋」は、簡易な幾何形状(点、線、面)を用いて位置と延長より質量を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。

「足場」は「B」を適用するが、第1編(共通編)6章6.4.1場所打擁壁工(1)、7章7.1.1函渠工(1)、第3編(道路編)7章7.1橋台・橋脚工(1)、10章10.1共同溝工(1)の場合は歩掛で計上しており、数量算出が不要なため、BIM/CIMモデルの作成は不要である。

「水抜きパイプ」は、必要な場合に計上することから「B」を適用するが、第1編(共通編)6章6.4.1場所打擁壁工(1)では必要性の有無を確認する場合の「C」を適用する。

### 3. 鋼構造物

#### 【BIM/CIMモデルによる数量算出】

I：「質量」を算出する項目

BIM/CIMモデルを用いて位置とネット情報を算出し、属性情報を用いて規格や仕様等を区分する。台形部材、全長にわたってテーパのついた部材等に適用する。

グロス情報を必要とする場合は、属性情報を用いて質量を算出する。ガゼットプレートや板圧変化のテーパ等に適用する。

II：「長さ」、「面積」や「個数」を算出する項目

簡易な形状（点、線、面）を用いて位置、延長や面積を算出し、属性情報を用いて規格や仕様等を区分する。溶接延長、ハンドホール、マンホール、ボルト・ナットやボルト孔等に適用する。

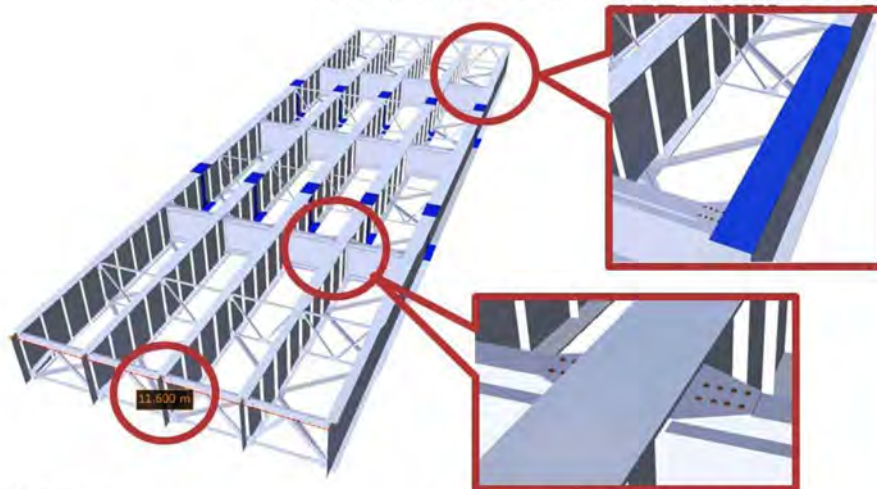
III：BIM/CIMモデルに関連付けした属性情報より数量算出条件を抽出する項目

主桁間隔や高さ等を算出する項目に適用する。

塗装工等の全表面積等を算出する項目に適用する。

なお、上記は、BIM/CIMモデルによる数量算出を行う際の基本的な分類を示すものであり、必要に応じて「II」や「III」に分類されている項目に「I」や他の数量算出方法を用いることを妨げるものではない。

【I】(例)板厚変化のテーパ  
グロス質量を必要とする場合は、属性情報を用いて質量を算出する。



【III】主桁間隔  
3次元モデルに関連付けした属性情報より数量算出条件を抽出する項目

【II】(例)ボルト・ナットやボルト孔  
簡易な形状(点、線、面)を用いて位置、延長や面積を、属性情報を用いて規格や仕様等を区分する。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

区分 項目	構造名称		BIM/CIM モデル	属性情報						
				構造 形式	規格			単位	数量	備考
					材種	材質	寸法			
鋼材 質量	橋体	(連毎に区分)	I	○		○		kg		
	付属物	支承	II	×		○		個(kg)		
		高欄	II	×		○		kg		
		防護柵	II	×		○		kg		
		伸縮継手	II	×		○		kg		
		検査路	II	×		○		kg		
		排水装置	II	×		○		kg		
		耐震連結装置	II	×		○		kg		

「橋体」は、BIM/CIMモデルを用いて質量を算出し、属性情報を用いて構造形式と規格を区分することより「I」を適用する。

「付属物」は、BIM/CIMモデルを用いて質量を算出し、属性情報を用いて規格を区分するが、二次製品を使用する部材が含まれる場合があるため「II」を適用する。なお、質量の算出種別として、ネット質量かgross質量かを属性情報に明記する。

[別表-1]

工種 (レベル2)	種別 (レベル3)	細別 (レベル4)	規格 (レベル5)	単位	数値	備考
土工	掘削工	掘削	土質 施工方法 押土の有無 障害の有無 施工数量	m3	100	ただし1,000m3未満及び岩の場合は10m3
土工		掘削(砂防)	土質 施工数量 障害の有無 火薬使用	m3	100	ただし1,000m3未満及び岩の場合は10m3
土工		河床等掘削		m3	100	ただし1,000m3未満の場合は10m3
土工		掘削(光ケーブル配管)	土質 施工方法 押土の有無 障害の有無 施工数量	m3	100	ただし1,000m3未満の場合は10m3
土工		整地	作業区分	m3	100	ただし1,000m3未満の場合は10m3
土工		押土(ルーズ)	土質	m3	100	ただし1,000m3未満の場合は10m3
土工		積込(ルーズ)	土質 作業内容	m3	100	ただし1,000m3未満の場合は10m3
土工		積込(ルーズ)砂防	土質 作業内容	m3	100	ただし1,000m3未満の場合は10m3
土工		土砂等運搬	土質	m3	10	
土工		土砂等運搬(砂防)	土質	m3	10	
土工		凍土除去		m3	10	
土工	掘削工(ICT)	掘削(ICT)	土質 施工方法 障害の有無 施工数量	m3	100	ただし1,000m3未満及び岩の場合は10m3
土工		掘削(砂防)(ICT)	土質 障害の有無 施工数量	m3	100	ただし1,000m3未満及び岩の場合は10m3
土工		河床等掘削(ICT)		m3	100	ただし1,000m3未満及び岩の場合は10m3
土工	(路体・路床)盛土工	路体(築堤)盛土	施工幅員	m3	100	ただし1,000m3未満の場合は10m3
土工		路床盛土	施工幅員	m3	100	ただし1,000m3未満の場合は10m3
土工		整地	作業区分	m3	100	ただし1,000m3未満の場合は10m3
土工		押土(ルーズ)	土質	m3	100	ただし1,000m3未満の場合は10m3
土工		積込(ルーズ)	土質 作業内容	m3	100	ただし1,000m3未満の場合は10m3
土工		積込(ルーズ)砂防	土質 作業内容	m3	100	ただし1,000m3未満の場合は10m3
土工		土砂等運搬	土質	m3	10	
土工		土砂等運搬(砂防)	土質	m3	10	
土工		土材料		m3	100	ただし1,000m3未満の場合は10m3
土工		凍土除去		m3	10	
土工	(路体・路床)盛土工(ICT)	路体(築堤)盛土(ICT)	施工幅員	m3	100	ただし1,000m3未満の場合は10m3
土工		路床盛土(ICT)	施工幅員	m3	100	ただし1,000m3未満の場合は10m3
土工	法面整形工	法面整形	現場制約の有無 (盛土部)法面締固めの有無 (切土部)土質	m2	10	
土工	法面整形工(ICT)	法面整形(ICT)	(盛土部)法面締固めの有無 (切土部)土質	m2	10	
土工		路面工内法面整形		m2	10	
土工	盛土補強工	安定シート・ネット	シート種類	m2	1	
土工		ジオテキスタイル補強土壁	壁面材の種類	m2	1	
土工	残土処理工	整地	作業区分	m3	100	ただし1,000m3未満の場合は10m3
土工		土砂等運搬	土質	m3	10	
土工		残土等処分		m3	10	
土工	作業土工	床掘り	土質	(m3)	(100)	ただし1,000m3未満及び岩の場合は10m3
土工		埋戻し	土質区分 土質	(m3)	(100)	ただし1,000m3未満の場合は10m3, 岩類は10m3
土工		床掘り(ICT)	土質	(m3)	(100)	ただし1,000m3未満及び岩の場合は10m3
土工		床掘り(掘削)	土質	(m3)	(100)	ただし1,000m3未満の場合は10m3, 岩類は10m3
土工		基面整正		(m2)	(100)	ただし1,000m2未満の場合は10m2
土工		掘削補助機械搬入搬出		(回)	(1)	
土工		転石破砕		(m3)	(1)	
土工		積込(ルーズ)	土質	(m3)	(100)	ただし1,000m3未満の場合は10m3
土工		人力積込	ベルトコンベアの使用	(m3)	(1)	
土工		人力運搬		(m3)	(1)	
土工		押土(ルーズ)	土質	(m3)	(100)	ただし1,000m3未満の場合は10m3
土工		整地	土質	(m3)	(100)	ただし1,000m3未満の場合は10m3
土工		土砂等運搬	土質	(m3)	(10)	

[別表-1]

工種 (レベル2)	種別 (レベル3)	細別 (レベル4)	規格 (レベル5)	単位	数値	備考
土工		土材料	土質	(m3)	(100)	ただし1,000m3未満の場合は10m3
土工	作業土工(ICT)	床掘(ICT)	土質	(m3)	(100)	ただし1,000m3未満及び岩の場合は10m3
土工	堤防天端工	天端敷砂利	碎石規格 敷厚	m2	10	
共通の工種	矢板工	鋼矢板	鋼矢板型式 鋼矢板平均長さ 鋼矢板打込長 [鋼矢板平均引抜長]	枚	1	
共通の工種		可とう鋼矢板	可とう種別 鋼矢板型式 鋼矢板長さ	枚	1	
共通の工種		軽量鋼矢板	軽量鋼矢板型式 軽量鋼矢板平均長さ 矢板根入長	枚	1	
共通の工種		広幅鋼矢板	広幅鋼矢板 型式 広幅鋼矢板平均長さ 鋼矢板打込長 [鋼矢板平均引抜長]	枚	1	
共通の工種		タイロッド	タイロッド材質 タイロッド径	組	1	
共通の工種		腹起し	溝形鋼規格	t	0.1	
共通の工種		控え版	コンクリート規格 幅 高さ	m	1	
共通の工種		中詰砂	砂規格	m3	10	ただし100m3未満の場合は1m3
共通の工種	法枠工	法枠(現場打、プレキャスト、吹付)	法枠規格 中詰材種類	m2	1	
共通の工種	吹付工	吹付(モルタル、コンクリート)	セメント種類 吹付厚	m2	1	
共通の工種	植生工	腐植酸種子散布		m2	10	
共通の工種		有機材種子散布		m2	10	
共通の工種		種子散布	種子規格 肥料の有無 施工規模	m2	10	
共通の工種		芝(各種)	芝種類 施工規模	m2	10	
共通の工種		客土吹付	吹付厚 工種区分 施工規模	m2	10	
共通の工種		植生基材吹付	吹付厚 工種区分 施工規模	m2	10	
共通の工種		植生マット	工種区分 施工規模	m2	10	
共通の工種		植生シート	工種区分 施工規模	m2	10	
共通の工種		植生筋	工種区分 施工規模	m2	10	
共通の工種		植生穴	削孔数	m2	10	
共通の工種		養生(散水養生)		m2	10	
共通の工種		植生土のう積		m2	10	
共通の工種		丸太柵		m	1	
共通の工種		播種工		m2	10	
共通の工種		段柵工		m2	10	
共通の工種		耳芝		m	1	
共通の工種		天芝		m	1	
共通の工種		積芝		m2	1	
共通の工種		埋枝		本	1	
共通の工種	法覆基材工	すき取り法覆基材		m2	10	
共通の工種	かご工	じゃかご・ふとんかご・かご枠 特殊かご、二重ふとんかご	幅 高さ (じゃかご)径 (かご)種別 (かご)規格 詰石種類 詰石規格	m	1	
共通の工種		止杭	止杭規格	本	1	
共通の工種		かごマット(スロープ型)	かご厚さ かご本体材質 詰石種類 詰石規格	m2	1	
共通の工種		かごマット(多段積型)	かご本体材質 詰石種類 詰石規格	m2	1	
共通の工種	補強土壁工	補強土壁基礎	コンクリート規格	m	1	
共通の工種		帯鋼補強土壁・アンカー補強土壁・ジオテキスタイル補強土壁	土質	m2	1	
共通の工種		補強盛土	壁面材の種類	m2	1	
共通の工種	軽量盛土工	軽量盛土		m3	1	
共通の工種		コンクリート床版	コンクリート規格 厚さ	m2	1	
共通の工種		基礎コンクリート	コンクリート規格	m	1	
共通の工種		壁体工	支柱仕様・規格 壁面材仕様・規格	m2	1	
共通の工種		裏込砕石	碎石規格	m3	1	
共通の工種	吸出し防止工	吸出し防止材	材質 種類 厚さ	m2	10	ただし100m2未満の場合は1m2
共通の工種	泥水処理工	泥水処理		m3	10	

[別表-1]

工種 (レベル2)	種別 (レベル3)	細別 (レベル4)	規格 (レベル5)	単位	数値	備考
共通の工種	仮水路工	フィルター材敷設	管種別 管径 フィルター材の種類	m3	1	
共通の工種	場所打擁壁工	処分費		m3	1	
共通の工種	仮橋・仮棧橋工	積込(コンクリート殻)		m3	1	
共通の工種	骨材再生工	骨材再生	投入殻寸法	m3	1	
共通の工種	土留・仮締切工	ボーリングマシン移設(アンカー)		回	1	
共通の工種	土留・仮締切工	アンカー工材料費	アンカー工材数量	式	1	
共通の工種	土留・仮締切工	削孔(アンカー)	削孔長 方式 呼び径 土質区分	m	1	
共通の工種	土留・仮締切工	グラウト注入(アンカー)	注入材規格 圧縮強度	m3	1	
共通の工種	アンカー工(プレキャストコンクリート板)	PCコンクリート板据付	フレームタイプ	枚	1	
共通の工種		ジョイント処理		箇所	1	
基礎工	既製杭工	既製コンクリート杭	杭種別 杭径 杭長 杭打込長(掘削長)	本	1	ただし1本当りの場合は1m
基礎工		鋼管杭	鋼管径(杭径) 鋼管長さ(杭長)	本	1	ただし1本当りの場合は0.5m
基礎工		H鋼杭	H鋼形式 H鋼長さ(杭長) H型鋼平均打込長 [H型鋼平均引抜長]	本	1	ただし1本当りの場合は0.5m
基礎工		掘削土処理	土質	m3	10	
基礎工	場所打杭工	場所打杭	杭径(設計長) 杭長	本	1	ただし1本当りの場合は0.1m
基礎工		掘削土処理	土質	m3	10	
基礎工	合成杭工	合成杭	杭種別 杭径 杭長	本	1	ただし1本当りの場合は0.1m
基礎工		掘削土処理	土質	m3	10	
基礎工	ニューマチックケーソン基礎工	ニューマチックケーソン設備		式	1	
基礎工		刃口金物据付		基	1	
基礎工		沈下掘削		m3	10	
基礎工		沈下促進	水荷重形式 載荷材料形式 (コンクリートブロック)	t	0.1	
基礎工	ケーソン本体コンクリート	ニューマチックケーソン設備	コンクリート規格	m3	1	
基礎工		底スラブコンクリート	コンクリート規格	m3	1	
基礎工		中埋コンクリート	コンクリート規格	m3	1	
基礎工		フローパイプバルブ調整		基	1	
基礎工		中詰充填	中詰材規格	m3	100	ただし1,000m3未満の場合は10m3
基礎工		砂セントル	材料規格	m3	10	ただし100m3未満の場合は1m3
基礎工		天端コンクリート用型枠・支保		(m2)	(10)	
基礎工		足場材設置・撤去		式	1	
基礎工		止水壁取壊し	施工方法	m3	1	
基礎工	深礎工・シャフト工	巻立コンクリート	敷厚 構造物種別 コンクリート規格	m2	1	
基礎工		掘削土留	杭径 杭長	本	1	
基礎工		グラウト注入	注入材規格 圧縮強度	m3	1	
基礎工	鋼管井筒基礎工	鋼管矢板	鋼管材質 鋼管径 鋼管長さ 打込工法	本	1	
基礎工		井筒内掘削		m3	10	
基礎工		継手処理		本	1	
基礎工		鋼管内掘削		m3	10	
基礎工		中詰コンクリート	コンクリート規格	m3	1	
基礎工		敷砂	敷砂規格	m3	10	ただし100m3未満の場合は1m3
基礎工		底版コンクリート	コンクリート規格	m3	1	
基礎工		杭切断	鋼管杭径	本	1	
基礎工		鋼管矢板支保	支保型式	(t)	(0.1)	
基礎工		間詰コンクリート	コンクリート規格	m3	1	
基礎工		間詰コンクリート撤去	構造物区分 工法 区分施工規模	m3	1	
基礎工		頂版結合(プレートブラケット)		t	0.1	
基礎工		頂版結合(鉄筋スタッド)		段	1	
基礎工		詰杭		m	1	
石・ブロック積(張)	石・ブロック積(張)工	石積(張)・コンクリートブロック基礎	コンクリート規格 底幅 高さ	m	1	
石・ブロック積(張)		各種石・ブロック積(張)	ブロック規格 ブロック質量	m2	1	
石・ブロック積(張)		目地板	目地板の種類 目地板厚さ	m2	1	
石・ブロック積(張)		ブロック植栽	樹木名	本	1	
石・ブロック積(張)		天端コンクリート	コンクリート規格	m3	1	
石・ブロック積(張)		基礎砕石(基礎材)	基礎材規格(砕石の場合等) 敷厚	m2	10	ただし100m2未満の場合は1m2
石・ブロック積(張)		現場打小口止コンクリート	コンクリート規格	m3	1	

[別表-1]

工種 (レベル2)	種別 (レベル3)	細別 (レベル4)	規格 (レベル5)	単位	数値	備考
石・ブロック積(張)		プレキャスト小口止ブロック	幅高さ	m	0.1	
石・ブロック積(張)		現場打横帯(隔壁)コンクリート	コンクリート規格	m3	1	
石・ブロック積(張)		プレキャスト横帯(隔壁)ブロック	幅高さ	m	0.1	
石・ブロック積(張)		プレキャスト巻止ブロック	幅高さ	m	0.1	
石・ブロック積(張)		養生費	養生工の種類	m3	1	
舗装工	舗装準備工	不陸整正	補足材有無 補足材種類・規格 補足材整正厚	m2	10	ただし1,000m2未満の場合は1m2
舗装工		調整コンクリート	コンクリート規格 敷厚	m2	10	ただし1,000m2未満の場合は1m2
舗装工	舗装準備工(ICT)	不陸整正(ICT)	補足材有無 補足材種類・規格 補足材整正厚	m2	10	ただし1,000m2未満の場合は1m2
舗装工	橋面防水工	橋面防水	防水工種類	m2	10	ただし1,000m2未満の場合は1m2
舗装工	舗装工	凍上抑制層(車道・路肩部)	路盤材種類 路盤材規格 仕上り厚	m2	10	ただし1,000m2未満の場合は1m2
舗装工		凍上抑制層(歩道部)	路盤材種類 路盤材規格 仕上り厚	m2	10	ただし1,000m2未満の場合は1m2
舗装工		下層路盤(車道・路肩部)	路盤材種類 路盤材規格 仕上り厚	m2	10	ただし1,000m2未満の場合は1m2
舗装工		下層路盤(歩道部)	路盤材種類 路盤材規格 仕上り厚	m2	10	ただし1,000m2未満の場合は1m2
舗装工		上層路盤(車道・路肩部)	路盤材種類 路盤材規格 仕上り厚	m2	10	ただし1,000m2未満の場合は1m2
舗装工		上層路盤(歩道部)	路盤材種類 路盤材規格 仕上り厚	m2	10	ただし1,000m2未満の場合は1m2
舗装工		装甲路肩路盤	路盤材種類 路盤材規格 仕上り厚	m2	10	ただし1,000m2未満の場合は1m2
舗装工		フィルター層	材料種類 仕上り厚	m2	10	ただし1,000m2未満の場合は1m2
舗装工		基層(車道・路肩部)	材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員	m2	10	ただし1,000m2未満の場合は1m2
舗装工		基層(歩道部)	材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員	m2	10	ただし1,000m2未満の場合は1m2
舗装工		中間層(車道・路肩部)	材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員	m2	10	ただし1,000m2未満の場合は1m2
舗装工		中間層(歩道部)	材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員	m2	10	ただし1,000m2未満の場合は1m2
舗装工		表層(車道・路肩部)	材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員	m2	10	ただし1,000m2未満の場合は1m2
舗装工		表層(歩道部)	材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員	m2	10	ただし1,000m2未満の場合は1m2
舗装工		排水性舗装・表層(車道・路肩部)		m2	10	ただし1,000m2未満の場合は1m2
舗装工		セメントミルク浸透	施工厚	m2	10	ただし1,000m2未満の場合は1m2
舗装工		アスファルト中間層	材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員	m2	10	ただし1,000m2未満の場合は1m2
舗装工		コンクリート舗装	コンクリート規格 舗装厚	m2	10	ただし1,000m2未満の場合は1m2
舗装工		転圧コンクリート舗装	コンクリート規格 舗装厚	m2	10	ただし1,000m2未満の場合は1m2
舗装工		連続鉄筋コンクリート舗装	コンクリート規格 舗装厚	m2	10	ただし1,000m2未満の場合は1m2
舗装工		縦目地	目地材種類・厚さ	m	1	
舗装工		横目地	目地形式	m	1	
舗装工		目地切り・清掃		m	1	
舗装工		薄層カラー舗装	舗装色 規格・使用	m2	10	ただし1,000m2未満の場合は1m2
舗装工	舗装工(ICT)	下層路盤(車道・路肩部)(ICT)	路盤材種類 路盤材規格 仕上り厚	m2	10	ただし1,000m2未満の場合は1m2
舗装工		上層路盤(車道・路肩部)(ICT)	路盤材種類 路盤材規格 仕上り厚	m2	10	ただし1,000m2未満の場合は1m2
舗装工		インターロッキングブロック舗装	ブロック規格 敷材種類 敷材厚 施工規模	m2	10	ただし1,000m2未満の場合は1m2
舗装工		特殊ブロック舗装	作業区分 ブロック規格	m2	10	ただし1,000m2未満の場合は1m2

[別表-1]

工種 (レベル2)	種別 (レベル3)	細別 (レベル4)	規格 (レベル5)	単位	数値	備考
舗装工		保護路肩舗装	材料種類 材料規格 舗装厚	m2	10	ただし1,000m2未満の 場合は1m2
舗装工		保護路肩防草シート	材料規格	m2	10	ただし1,000m2未満の 場合は1m2
舗装工		保護路肩粗粒材	材料規格 厚さ	m2	10	ただし1,000m2未満の 場合は1m2
舗装工	踏掛版工	踏掛版	コンクリート規格 鉄筋材料規格・径	m3	1	
舗装工	区画線工	区画線	施工方法区分 規格・仕様区分 厚さ 排水性舗装用の有無	m	10	ただし100m未満の場合 は1m
舗装工		区画線消去	施工方法区分	m	1	
地盤改良工	路床安定処理工	安定処理	混合深さ 固化材100m2あたり使用量 固化剤の種類	m2	10	ただし1,000m2未満の 場合は1m2
地盤改良工	自走式土質改良工	土質改良	改良土質 固化材1m3あたり使用量 固化剤の種類	m3	100	ただし1,000m3未満の 場合は10m3
地盤改良工	表層安定処理	サンドマット	砂材料費の有無	m3	10	
地盤改良工		安定シート・ネット	シート種類	m2	10	
地盤改良工		表層混合処理		m2	10	
地盤改良工		置換	置換材料 施工数量	m3	100	ただし1,000m3未満の 場合は10m3
地盤改良工	置換工	置換	置換材料 施工数量	m3	100	ただし1,000m3未満の 場合は10m3
地盤改良工	サンドマット工	サンドマット	砂材料費の有無	m3	10	
地盤改良工	パイルネット工	既製コンクリート杭	杭種別 杭径 杭長 杭打込長(掘削長)	本	1	
地盤改良工		木杭	杭材質 杭長 杭末口	本	1	
地盤改良工		連結鉄筋	鉄筋材料規格・径	t	0.1	ただし1t未満の場合は 0.01t
地盤改良工		安定シート	シート種類	m2	10	
地盤改良工	パーチカルドレーン工	サンドドレーン	径 SD打設長 SD杭径 SCP径 SCP打設長 SCP杭径	本	1	
地盤改良工		PVD(プレファブリケ ィッドパーチカルドレーン)	材料規格 長さ(打設長)	本	1	
地盤改良工	締固め改良工	サンドコンパクションパイル	径 SD打設長 SD杭径 SCP径 SCP打設長 SCP杭径	本	1	
地盤改良工	固結工	粉体噴射攪拌	改良材種類 杭径 長さ(打設長) 長さ(杭長)	本	1	
地盤改良工		粉体噴射攪拌(先掘・移設・軸間 変更)	改良材種類 杭径 長さ(打設長) 長さ(杭長)	式	1	
地盤改良工		高圧噴射攪拌	工法 注入材種類 長さ(注入長) 長さ(土被長)	本	1	
地盤改良工		スラリー攪拌	改良材種類 杭径 長さ(打設長) 長さ(杭長)	本	1	
地盤改良工		中層混合処理	改良深度 施工規模	m3	1	
地盤改良工		薬液注入	注入材料	本	1	
地盤改良工	表層安定処理工	安定処理(ICT)	混合深さ 固化材100m2あたり使用量 固化剤の種類	m2	1	
地盤改良工	固結工	スラリー攪拌(ICT)	改良材種類 杭径 長さ(打設長) 長さ(杭長)	本	1	
地盤改良工		中層混合処理(ICT)	改良深度 施工規模	m3	1	
構造物撤去工	構造物取壊し工	コンクリート構造物取壊し	構造物区分 工法区分 施工規模	m3	1	
構造物撤去工		舗装版切断	舗装版種別 舗装厚	m	10	ただし100m未満の場合 は1m
構造物撤去工		舗装版破砕	舗装版種別	m2	10	ただし100m2未満の場合 は1m2
構造物撤去工		石積取壊し	形状	m2	10	ただし100m2未満の場合 は1m2
構造物撤去工		コンクリートはつり	平均はつり厚	m2	1	ただし10m2未満の場合 は0.1m2
構造物撤去工		吹付法面取壊し	集積積込の有無 工法区分	m2	10	ただし100m2未満の場合 は1m2



[別表-1]

工種 (レベル2)	種別 (レベル3)	細別 (レベル4)	規格 (レベル5)	単位	数値	備考
構造物撤去工		鋼材切断	鋼材規格(種類他)	箇所	1	
構造物撤去工		鋼材切断	鋼材規格(種類他)	m	1	
構造物撤去工		鋼矢板引抜	鋼矢板型式 引抜長	枚	1	
構造物撤去工		H鋼杭引抜	H鋼形式 引抜長	本	1	
構造物撤去工		広幅鋼矢板引抜き	鋼矢板型式 引抜長	枚	1	
構造物撤去工		コンクリートブロック撤去		m2	10	ただし100m2未満の場合 は1m2
構造物撤去工		覆工板設置・撤去		m2	10	ただし100m2未満の場合 は1m2
構造物撤去工		根固めブロック撤去	ブロック規格	個	1	
構造物撤去工		殻運搬	殻種別	m3	1	
構造物撤去工		殻運搬	殻種別	t	0.1	プラスチック殻等
構造物撤去工		殻処分	殻種別	m3	1	
構造物撤去工		殻処分	殻種別	t	0.1	プラスチック殻等
構造物撤去工		現場発生品運搬	発生材種類	t	0.1	
構造物撤去工		コンクリート削孔		孔	1	
構造物撤去工	道路施設撤去工	側溝・街渠撤去	作業区分	m	1	
構造物撤去工		集水溝・マンホール撤去	製品質量(kg/基)	基	1	
構造物撤去工		蓋版撤去		枚	1	
構造物撤去工		防護・防止柵撤去		m	1	
構造物撤去工		視線誘導標撤去	視線誘導標規格 施工区分 施工規模	本	1	
構造物撤去工		境界杭撤去	施工規模	本	1	
構造物撤去工		道路鉄撤去	施工区分 施工規模	個	1	
構造物撤去工		車線分離標撤去	施工区分 施工規模	本	1	
構造物撤去工		境界鉄撤去	施工規模	枚	1	
構造物撤去工		横断歩道橋側板(裾隠・目隠)撤去	取外し部材規格	m2	1	
構造物撤去工		遮光フェンス撤去		m	1	
構造物撤去工		標識撤去		基	1	
構造物撤去工		境界ブロック撤去	再利用区分	m	1	
構造物撤去工		ケーブル配管撤去	管径 規格	m	1	
構造物撤去工		照明柱撤去		基	1	
構造物撤去工	かご撤去工	じゃかご撤去	じゃかご径	m	1	
構造物撤去工		ふとんかご撤去	ふとんかご種別 ふとんかご規格	m	1	
構造物撤去工	落石雪害防止撤去工	落石防護柵撤去		m	1	
構造物撤去工		落石防止網(繊維網)撤去		m2	1	
構造物撤去工		コンクリート平板ブロック撤去	ブロック規格	m2	1	
構造物撤去工		ノンスリップ撤去		m	1	
構造物撤去工	冬季安全施設撤去工	吹溜式防雪柵撤去	柵高	m	1	
構造物撤去工		吹払式防雪柵撤去	柵高	m	1	
構造物撤去工		スノーボール撤去	スノーボール規格	本	1	
構造物撤去工	旧橋撤去工	鋼製高欄撤去		m	1	
構造物撤去工		舗装版・床版破碎及び撤去	施工内容	m3	1	
構造物撤去工		桁材撤去	施工内容	t	1	
構造物撤去工	構造物取壊し工	コンクリート表面処理	施工規模 上向作業の有無	m2	1	
仮設工	仮設工	覆工板・敷鉄板	鋼材規格 作業区分	(m2)	(1)	
仮設工		覆工板受桁	鋼材規格 作業区分	(t)	(1)	
仮設工		鋼矢板	鋼矢板型式 平均鋼矢板長さ 鋼矢板打込長 [平均鋼矢板引抜長]	(枚)	(1)	
仮設工		H鋼杭	H鋼形式 H鋼長さ(杭長) H型鋼平均打込長 [H型鋼平均引抜長]	(本)	(1)	
仮設工		アンカー	アンカーボルト規格	(本)	(1)	
仮設工		タイロッド・腹起し	タイロッド材質 タイロッド径	(t)	(0.1)	数量契約の場合は0.1t
仮設工		切梁・腹起し		(t)	(0.1)	数量契約の場合は0.1t
仮設工		横矢板	横矢板材質 横矢板厚さ	(m2)	(1)	
仮設工	水替工	ポンプ排水	排水量 排水方法	(日)	(1)	
仮設工		ポンプ設置・撤去		(箇所)	(1)	
仮設工		水替とい		(m)	(1)	
仮設工	地下水低下工	ウエルポイント	ポンプ組数	(日)	(1)	
仮設工		ティープウエル	径 深さ	(日)	(1)	
仮設工	連続地中壁工	プラント設置撤去		式	1	
仮設工	汚濁防止工	汚濁防止フェンス	作業区分	(m)	(1)	
仮設工		濁水処理設備		(箇所)	(1)	
仮設工	波除工	異形ブロック	コンクリート規格 セメント種別 公称質量	(個)	(1)	
仮設工	防護施設工	発破防護柵	作業区分	(m2)	(10)	
仮設工		基礎ブロック(立入防止柵)	寸法 作業区分	(個)	(1)	
仮設工		金網(フェンス)・支柱(立入防止柵)	柵高 作業区分	(m)	(1)	
仮設工	防護施設工	仮囲い	作業区分 基礎形式 高さ	(m)	(1)	
仮設工	防護施設工	仮設落石防護柵	柵高	(m)	(1)	

[別表-1]

工種 (レベル2)	種別 (レベル3)	細別 (レベル4)	規格 (レベル5)	単位	数値	備考
仮設工		急傾斜防止工事用防護柵	防護柵形式	(m)	(1)	
仮設工	土のう工	大型土のう		(袋)	(1)	
仮設工	足場工	手摺先行型枠組足場	安全ネットの有無	(掛m2)	(10)	
仮設工	重機用足場工	重機用仮設運搬路	形式区分	(m)	(1)	
仮設工	土留・仮締切工	盛替梁	梁規格	(箇所)	(1)	
仮設工		アンカー工材加工・組立・挿入・緊張・定着・頭部処理	アンカー鋼材数量	(本)	(1)	
仮設工		軽量鋼矢板(電線共同溝)	矢板型式	式	1	
仮設工		溝掘り		(m3)	(1)	
仮設工		泥土処理	土質	(m3)	(1)	
仮設工	砂防仮締切工	土砂締切		(m3)	(1)	
仮設工		大型土のう締切		(m3)	(1)	
仮設工		コンクリート締切		(m3)	(1)	
仮設工	仮橋・仮棧橋工	橋脚		(t)	(1)	
仮設工		仮設高欄	形式区分 作業区分	(m)	(1)	
仮設工		仮橋上部	形式区分 作業区分	(t)	(0.1)	数量契約の場合は0.1t
仮設工		仮橋コンクリート基礎	コンクリート規格 幅 長さ 高さ	(箇所)	(1)	
仮設工		高力ボルト	ボルト規格	(kg)	(1)	
仮設工		防眩材	材料規格	(基)	(1)	
仮設工	掘削工	転石破砕	火薬使用の有無	(m3)	(1)	
仮設工	作業土工	掘削補助機械搬入搬出		(回)	(1)	
仮設工		人力運搬	換算距離	(m3)	(1)	
仮設工	作業ヤード整備工	ヤード造成		(m2)	(1)	
仮設工	工事用道路工	敷砂利	材料規格 厚さ	(m2)	(1)	
仮設工		敷鉄板	鋼材規格・作業区分	m2	1	
仮設工		工事用道路補修		式	1	
仮設工		仮設舗装		(m2)	(1)	
仮設工		仮設アスカーブ		(m)	(1)	
仮設工		土のう積		(m2)	(1)	
仮設工		重機用仮設運搬路製作		(m)	(1)	
仮設工	法面吹付工	仮設用モルタル吹付	セメント種類 ラス張施工規模 法面清掃工の有無	(m2)	(1)	
仮設工	仮水路工	暗渠排水管	作業区分 管種別 管径	(m)	(1)	
仮設工		コルゲートパイプ	規格 径	(m)	(1)	
仮設工		素掘側溝		(m)	(1)	
仮設工	防塵対策工	散水		式	1	
仮設工		タイヤ洗浄装置	装置規格	式	1	
仮設工		路面清掃		式	1	
仮設工	電力設備工	配電設備		(m)	(1)	
仮設工		受電設備		(式)	(1)	
仮設工		電動機設備		(式)	(1)	
仮設工		照明設備		(式)	(1)	
仮設工	トンネル仮設備工	トンネル用水設備		(箇所)	(1)	
仮設工		トンネル照明設備		式	1	
仮設工		トンネル排水設備		式	1	
仮設工		トンネル換気設備		式	1	
仮設工		トンネル送気設備		式	1	
仮設工		トンネル工事用連絡設備		式	1	
仮設工		トンネル軌条設備		式	1	
仮設工		ターンテーブル設備		式	1	
仮設工		トンネル用濁水処理設備		式	1	
仮設工		防音設備		式	1	
仮設工		トンネル仮設備保守		(箇月)	(0.1)	
仮設工		トンネル充電設備		(日)	(1)	
仮設工		吹付フロント組立解体		(基)	(1)	
仮設工		スライドセントル組立解体		(基)	(1)	
仮設工		防水作業台車組立解体		(基)	(1)	
仮設工	コンクリート製造設備工	コンクリートプラント設備		(基)	(1)	
仮設工		ケーブルクレーン設備		(対)	(1)	
仮設工	除雪工	現場内除雪(機械)	貸与区分	(時間)	(1)	
仮設工		現場内除雪(人力)		(人日)	(1)	
仮設工		仮囲い屋根部		(m3)	(1)	
仮設工		人力除雪		(m3)	(10)	
仮設工		工事用道路除雪		(km)	(0.1)	
仮設工		作業現場除雪		(m2)	(10)	
仮設工		現場内搬出除雪		(m3)	(10)	
仮設工		防滑剤散布	種類	(t)	(1)	
仮設工	結氷対策工	割氷工		(m2)	(10)	
仮設工	雪寒施設工	雪寒仮囲い	仮囲い規格 設置・撤去	(m2)	(1)	
仮設工		ウェザーシールド		(基)	(1)	
仮設工		防寒養生		(m2)	(1)	
仮設工						
仮設工	仮設階段工	仮設昇降用階段		(m)	(1)	
仮設工	交通管理工	交通誘導警備員A		(人日)	(1)	
仮設工		交通誘導警備員B		(人日)	(1)	
雑工	流木除去工	流木除去		(m3)	(1)	
共通仮設(積上分)	運搬費	重建設機械分解組立輸送費		(回)	(1)	
共通仮設(積上分)		重建設機械分解組立費		(回)	(1)	
共通仮設(積上分)		重建設機械分解費		(回)	(1)	
共通仮設(積上分)		重建設機械組立費		(回)	(1)	
共通仮設(積上分)		重建設機械運搬費		(回)	(1)	
共通仮設(積上分)		仮設材運搬費		(t)	(0.1)	
共通仮設(積上分)		淡浜船等回航費		(回)	(1)	
共通仮設(積上分)		作業船等回航費		(回)	(1)	
共通仮設(積上分)		作業船等えい航費		(回)	(1)	
共通仮設(積上分)		交通船		(日)	(1)	

[別表-1]

工種 (レベル2)	種別 (レベル3)	細別 (レベル4)	規格 (レベル5)	単位	数値	備考
仮設工		急傾斜防止工事用防護柵	防護柵形式	(m)	(1)	
仮設工	土のう工	大型土のう		(袋)	(1)	
仮設工	足場工	手摺先行型枠組足場	安全ネットの有無	(掛m2)	(10)	
仮設工	重機用足場工	重機用仮設運搬路	形式区分	(m)	(1)	
仮設工	土留・仮締切工	盛替梁	梁規格	(箇所)	(1)	
仮設工		アンカー工材加工・組立・挿入・緊張・定着・頭部処理	アンカー鋼材数量	(本)	(1)	
仮設工		軽量鋼矢板(電線共同溝)	矢板型式	式	1	
仮設工		溝掘り		(m3)	(1)	
仮設工		泥土処理	土質	(m3)	(1)	
仮設工	砂防仮締切工	土砂締切		(m3)	(1)	
仮設工		大型土のう締切		(m3)	(1)	
仮設工		コンクリート締切		(m3)	(1)	
仮設工	仮橋・仮棧橋工	橋脚		(t)	(1)	
仮設工		仮設高欄	形式区分 作業区分	(m)	(1)	
仮設工		仮橋上部	形式区分 作業区分	(t)	(0.1)	数量契約の場合は0.1t
仮設工		仮橋コンクリート基礎	コンクリート規格 幅 長さ 高さ	(箇所)	(1)	
仮設工		高力ボルト	ボルト規格	(kg)	(1)	
仮設工		防眩材	材料規格	(基)	(1)	
仮設工	掘削工	転石破砕	火薬使用の有無	(m3)	(1)	
仮設工	作業土工	掘削補助機械搬入搬出		(回)	(1)	
仮設工		人力運搬	換算距離	(m3)	(1)	
仮設工	作業ヤード整備工	ヤード造成		(m2)	(1)	
仮設工	工事用道路工	敷砂利	材料規格 厚さ	(m2)	(1)	
仮設工		敷鉄板	鋼材規格・作業区分	m2	1	
仮設工		工事用道路補修		式	1	
仮設工		仮設舗装		(m2)	(1)	
仮設工		仮設アスカーブ		(m)	(1)	
仮設工		土のう積		(m2)	(1)	
仮設工		重機用仮設運搬路製作		(m)	(1)	
仮設工	法面吹付工	仮設用モルタル吹付	セメント種類 ラス張施工規模 法面清掃工の有無	(m2)	(1)	
仮設工	仮水路工	暗渠排水管	作業区分 管種別 管径	(m)	(1)	
仮設工		コルゲートパイプ	規格 径	(m)	(1)	
仮設工		素掘側溝		(m)	(1)	
仮設工	防塵対策工	散水		式	1	
仮設工		タイヤ洗浄装置	装置規格	式	1	
仮設工		路面清掃		式	1	
仮設工	電力設備工	配電設備		(m)	(1)	
仮設工		受電設備		(式)	(1)	
仮設工		電動機設備		(式)	(1)	
仮設工		照明設備		(式)	(1)	
仮設工	トンネル仮設備工	トンネル用水設備		(箇所)	(1)	
仮設工		トンネル照明設備		式	1	
仮設工		トンネル排水設備		式	1	
仮設工		トンネル換気設備		式	1	
仮設工		トンネル送気設備		式	1	
仮設工		トンネル工事用連絡設備		式	1	
仮設工		トンネル軌条設備		式	1	
仮設工		ターンテーブル設備		式	1	
仮設工		トンネル用濁水処理設備		式	1	
仮設工		防音設備		式	1	
仮設工		トンネル仮設備保守		(箇月)	(0.1)	
仮設工		トンネル充電設備		(日)	(1)	
仮設工		吹付フロント組立解体		(基)	(1)	
仮設工		スライドセントル組立解体		(基)	(1)	
仮設工		防水作業台車組立解体		(基)	(1)	
仮設工	コンクリート製造設備工	コンクリートプラント設備		(基)	(1)	
仮設工		ケーブルクレーン設備		(対)	(1)	
仮設工	除雪工	現場内除雪(機械)	貸与区分	(時間)	(1)	
仮設工		現場内除雪(人力)		(人日)	(1)	
仮設工		仮囲い屋根部		(m3)	(1)	
仮設工		人力除雪		(m3)	(10)	
仮設工		工事用道路除雪		(km)	(0.1)	
仮設工		作業現場除雪		(m2)	(10)	
仮設工		現場内搬出除雪		(m3)	(10)	
仮設工		防滑剤散布	種類	(t)	(1)	
仮設工	結氷対策工	割氷工		(m2)	(10)	
仮設工	雪寒施設工	雪寒仮囲い	仮囲い規格 設置・撤去	(m2)	(1)	
仮設工		ウェザーシールド		(基)	(1)	
仮設工		防寒養生		(m3)	(1)	
仮設工		小規模構造物防寒養生		(m3)	(1)	
仮設工	仮設階段工	仮設昇降用階段		(m)	(1)	
仮設工	交通管理工	交通誘導警備員A		(人日)	(1)	
仮設工		交通誘導警備員B		(人日)	(1)	
雑工	流木除去工	流木除去		(m3)	(1)	
共通仮設(積上分)	運搬費	重建設機械分解組立輸送費		(回)	(1)	
共通仮設(積上分)		重建設機械分解組立費		(回)	(1)	
共通仮設(積上分)		重建設機械分解費		(回)	(1)	
共通仮設(積上分)		重建設機械組立費		(回)	(1)	
共通仮設(積上分)		重建設機械運搬費		(回)	(1)	
共通仮設(積上分)		仮設材運搬費		(t)	(0.1)	
共通仮設(積上分)		淡浜船等回航費		(回)	(1)	
共通仮設(積上分)		作業船等回航費		(回)	(1)	
共通仮設(積上分)		作業船等えい航費		(回)	(1)	
共通仮設(積上分)		交通船		(日)	(1)	

[別表-1]

工種 (レベル2)	種別 (レベル3)	細別 (レベル4)	規格 (レベル5)	単位	数値	備考
共通仮設(積上分)	準備費	試験掘り費		(箇所)	(1)	
共通仮設(積上分)		立木切倒し・枝払い切揃え、立木集積		(本)	(1)	
共通仮設(積上分)		立木積込み		(t)	(0.1)	
共通仮設(積上分)		すき取り土選別		(m2)	(10)	
共通仮設(積上分)		立木・伐開物・抜根物運搬費		(t)	(0.1)	
共通仮設(積上分)		立木・伐開物・抜根物処分費		(m3)	(1)	
共通仮設(積上分)		立木・伐開物・抜根物処分費		(t)	(0.1)	
共通仮設(積上分)		着工時除雪費		(km)	(0.1)	
共通仮設(積上分)		着工時除雪費		(m2)	(10)	
共通仮設(積上分)		着工時除雪費		(m3)	(10)	
共通仮設(積上分)		着工時排雪除雪費		(m3)	(10)	
共通仮設(積上分)		緊船費		(日)	(1)	
共通仮設(積上分)		退避		(日)	(1)	
共通仮設(積上分)		路面ヒーター		(時間)	(1)	
共通仮設(積上分)	事業損失防止施設費	家屋調査費		式	1	
共通仮設(積上分)		騒音調査費		式	1	
共通仮設(積上分)		振動調査費		式	1	
共通仮設(積上分)		沈下観測費		式	1	
共通仮設(積上分)		傾斜観測費		式	1	
共通仮設(積上分)		水質調査費		式	1	
共通仮設(積上分)		地下水観測費		式	1	
共通仮設(積上分)		事業損失防止施設費		式	1	
共通仮設(積上分)	安全費	呼吸用保護具等費用		式	1	
共通仮設(積上分)		機械誘導員		(人日)	(1)	
共通仮設(積上分)		安全管理員		(人日)	(1)	
共通仮設(積上分)		高圧線防護施設費		式	1	
共通仮設(積上分)		救急設備費		(台)	(1)	
共通仮設(積上分)		保安管理費		式	1	
共通仮設(積上分)		雨量計		式	1	
共通仮設(積上分)		安全灯		(個)	(1)	
共通仮設(積上分)		安全設備費		式	1	
共通仮設(積上分)		公安委員会指定委任信号機		(基)	(1)	
共通仮設(積上分)	役務費	借地料		式	1	
共通仮設(積上分)		電力基本料金		式	1	
共通仮設(積上分)		電力設備工事負担金		式	1	
共通仮設(積上分)		用水基本料金		式	1	
共通仮設(積上分)	技術管理費	土質試験費		式	1	
共通仮設(積上分)		地質試験費		式	1	
共通仮設(積上分)		アンカー試験費		式	1	
共通仮設(積上分)		軟弱地盤調査費		式	1	
共通仮設(積上分)		計測B		式	1	
共通仮設(積上分)		管渠内TV調査費		式	1	
共通仮設(積上分)		施工調査費		式	1	
共通仮設(積上分)		施工図書作成費		式	1	
共通仮設(積上分)		調査ホーリング		(m)	(1)	
共通仮設(積上分)		足場仮設		(箇所)	(1)	
共通仮設(積上分)		ホーリング資料整理		(工事)	(1)	
共通仮設(積上分)		柔構造種門動態観測		式	1	
共通仮設(積上分)		保守管理(ICT)		式	1	
共通仮設(積上分)		システム初期費(ICT)		式	1	
共通仮設(積上分)		3次元起工測量・3次元設計 データ作成費用(ICT)		式	1	
共通仮設(積上分)	営繕費	監督員詰所		式	1	
共通仮設(積上分)		火薬庫類		式	1	
共通仮設(積上分)		快適トイレ		基・月	1	
共通仮設(積上分)		現場環境改善費		式	1	
構造物補修工		充てん工法	1 構造物当り補修延べ延長 材料種類	構造物	1	
構造物補修工		低圧注入工法	1 構造物当り補修延べ延長 材料種類	構造物	1	
構造物補修工		左官工法	1 構造物当り補修延べ延長 材料種類 鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理の有無	構造物	1	
コンクリート構造物		基礎材	基礎材規格(碎石の場合等) 敷厚	m2	10	ただし100m2未満の場合は1m2
コンクリート構造物		均しコンクリート	コンクリート規格 敷厚	m2	10	ただし100m2未満の場合は1m2
コンクリート構造物		コンクリート	コンクリート規格 養生費 コンクリート夜間割増の有無	m3	1	
コンクリート構造物		二次コンクリート	規格	m3	1	
コンクリート構造物		鉄筋	鉄筋材料規格・径	t	0.01	
コンクリート構造物		目地材	目地材種類・厚さ	m2	1	
コンクリート構造物		止水板	止水板種類・寸法	m	1	
コンクリート構造物		型枠	型枠の種類	(m2)	(10)	ただし100m2未満の場合は1m2
コンクリート構造物		足場	安全ネットの有無	(掛m2)	(10)	
コンクリート構造物		支保	支保耐力〇〇以上	(空m3)	(10)	
コンクリート構造物		植石張り	構造区分 石材径 胴込・裏込コンクリート規格 裏込材規格	m2	1	
コンクリート構造物		水抜パイプ	管径・管種類 フィルターの有無	m	1	
コンクリート構造物		スリッパバー	鉄筋材料規格・径	箇所	1	
コンクリート構造物		スリッパバー	鉄筋材料規格・径	組	1	
コンクリート構造物		防水モルタル	セメント種類 混合比	m3	1	

[別表-1]

工種 (レベル2)	種別 (レベル3)	細別 (レベル4)	規格 (レベル5)	単位	数値	備考
コンクリート構造物		アンカーボルト	アンカーボルト規格	本	1	
コンクリート構造物		有孔管	作業区分 工法区分 施工規模	m	1	
コンクリート構造物		可撓継手	内幅 内高	箇所	1	
コンクリート構造物	橋台躯体工(構造物単位)	逆T式橋台	高さ区分 打設量区分 コンクリート規格 化粧型枠の有無	m3	1	
コンクリート構造物		T型橋脚	高さ区分 打設量区分 コンクリート規格 化粧型枠の有無	m3	1	
コンクリート構造物		壁式橋脚	高さ区分 打設量区分 コンクリート規格 化粧型枠の有無	m3	1	
コンクリート構造物	場所打擁壁工(構造物単位)	逆T型擁壁	本体コンクリート規格	m3	1	
コンクリート構造物		もたれ式擁壁	本体コンクリート規格	m3	1	
コンクリート構造物		L型擁壁	本体コンクリート規格	m3	1	
コンクリート構造物		重力式擁壁	擁壁平均高さ 本体コンクリート規格	m3	1	
コンクリート構造物		小型擁壁	擁壁平均高さ 本体コンクリート規格	m3	1	
コンクリート構造物	羽口工	連節ブロック張(コンクリート)		m3	1	
コンクリート構造物	暗渠工	プレキャストボックス	内幅 内高	m	1	
コンクリート構造物		排水材	種類 寸法	m	1	
構造物	帯状構造物(小規模)工		幅 高さ コンクリート規格	m	1	各種ブロック(既製品共)H=2.0m未満の擁壁類
構造物	帯状構造物(大規模)工		コンクリート規格 幅 高さ	m	0.1	H=2.0m以上の擁壁類
構造物	排水構造物工		管規格	m	1	ただし径1m以上の管渠類の場合は0.1m
構造物		現場打水路	内幅(複単不使用の場合) 内高(複単不使用の場合) コンクリート規格	m	1	
構造物		縦排水・小段排水	U型側溝の種類 U型側溝の規格 内幅(各種の場合) 内高(各種の場合) 作業区分 コンクリート打設の有無 コンクリート規格 目地板の有無 目地板の種類 目地板の種類(各種の場合)	m	1	
構造物	場所打函渠工(構造物単位)	函渠	内幅 内高 コンクリート規格	m3	1	
構造物	排水性舗装用路肩排水工	透水性樹脂コンクリート		m3	1	
構造物	橋脚架設工	橋脚架設		t	0.1	
工場製作工	製作工	製作加工	鋼材規格	t	0.1	ただし1t未満の場合は0.01t
工場製作工		ボルト・ナット	ボルト・ナット種類	組	1	
工場製作工		スタッドジベル	径・長さ	本	1	
工場製作工		バックアップ	材質	m3	0.1	
工場製作工		充填シール	材質	m3	0.1	
工場製作工		アンカーボルト	材質・径・長さ アンカー材規格	組	1	
工場製作工	鋳造費	金属支承	支承規格	個	1	
工場製作工		大型ゴム支承	支承規格	個	1	
工場製作工		排水樹	樹規格	個	1	
工場製作工		橋名板	材質	枚	1	
工場製作工		橋歴板		枚	1	
工場製作工	工場塗装工	前処理	材料種類	m2	10	ただし100m2未満の場合は1m2
工場製作工		塗装(下・中・上塗)	塗装種別 塗装箇所 塗装回数	m2	10	ただし100m2未満の場合は1m2
工場製作工		メッキ		t	0.1	
工場製品輸送工	輸送工	輸送		t	0.1	ただし1t未満の場合は0.01t
工場製品輸送工		現場取卸(PC桁)		本	1	
工場製品輸送工		工場取卸(鋼桁・鋼管桁)		t	0.1	
工場製品輸送工		小運搬		t	0.1	ただし1t未満の場合は0.01t
付属施設	縁石工	歩車道境界ブロック	ブロック規格	m	1	
付属施設		地先境界ブロック	ブロック規格	m	1	
付属施設		植樹ブロック	ブロック規格	m	1	
付属施設	緑化ブロック工	養生費	養生工の種類	m2	1	
付属施設		アスカープ	材料種類 断面積	m	10	
付属施設	集水樹・街渠樹・マンホール工	集水樹	集水樹種類 現場打材種類 コンクリート規格 基礎コンクリート規格	箇所	1	(プレキャスト含む)
付属施設		街渠樹	集水樹・街渠樹種類 基礎コンクリート規格 法面作業補正	箇所	1	(プレキャスト含む)

[別表-1]

工種 (レベル2)	種別 (レベル3)	細別 (レベル4)	規格 (レベル5)	単位	数値	備考
付属施設		マンホール	マンホール規格 コンクリート規格 蓋種類	箇所	1	
付属施設		蓋	蓋種類	枚	1	
付属施設	路側防護柵工	ガードレール	ガードレール規格 施工規模 曲線部補正の有無	m	1	
付属施設		ガードパイプ	ガードパイプ規格 施工規模 曲線部補正の有無	m	1	
付属施設		ガードケーブル	ガードケーブル規格 建込条件	m	1	
付属施設		基礎ブロック(立入防止柵)	寸法 作業区分	個	1	
付属施設		金網(フェンス)・支柱(立入防止柵)	柵高 作業区分	m	1	
付属施設		転落(横断)防止柵	柵高 作業区分	m	1	
付属施設		車止めポスト	車止めポスト径 車止めポスト長さ	本	1	
付属施設	ワイヤロープ防護柵工	端末基礎・端末金具	種別 設置形式	箇所	1	
付属施設		支柱	種別 設置形式 設置箇所	本	1	
付属施設		ワイヤロープ	種別	m	1	
付属施設		ターンバックル	種別 設置箇所	箇所	1	
付属施設		橋梁部基礎・支柱	種別	箇所	1	
付属施設	階段工	現場打階段	コンクリート規格 砕石規格	m <sup>2</sup>	1	
付属施設		プレキャスト階段	ブロック規格	m <sup>2</sup>	1	
付属施設	境界工	境界杭	境界杭規格 施工規模	本	1	
付属施設		境界鉄	境界鉄規格 施工規模	枚	1	
付属施設		境界(法留)壁	本体コンクリート規格	m	1	
付属施設	落石防護柵工	ロープ・金網	柵高 規格・仕様厚 メッキの有無	m	1	
付属施設		支柱	支柱形式 施工区分 規格・仕様	本	1	
付属施設		ステーロープ		本	1	
付属施設	防雪柵工	防雪柵	防雪防護柵種類 柵高	m	1	
付属施設	雪崩予防柵工	雪崩予防柵基礎	幅 高さ 長さ コンクリート規格	基	1	
付属施設		雪崩予防柵	柵高 柵長 柵種類	基	1	
付属施設		雪崩予防柵アンカー	アンカー規格	本	1	
付属施設	遮音壁基礎工	支柱アンカーボルト	アンカー形式 アンカー支柱間隔 アンカー材料規格	本	1	
付属施設	遮音壁本体工	遮音壁	支柱タイプ・支柱間隔 しゃ音板形式・高さ	m	1	
付属施設		外装板	板規格	m <sup>2</sup>	1	
付属施設	ケーブル配管工	ケーブル配管	管規格 土質区分 管径	m	1	
付属施設		ハンドホール	寸法	箇所	1	
付属施設	道路付属物工	視線誘導標	視線誘導標規格 施工区分 施工規模	本	1	
付属施設		車線分離標	車線分離標規格 施工区分 施工規模	本	1	
付属施設		距離標	作業区分 施工区分	本	1	
付属施設		道路鉄	道路鉄規格 施工区分 施工規模	個	1	
付属施設		アンカーボルト	材質・径・長さ アンカー材規格	本	1	
付属施設	照明工	照明柱基礎	基礎型式	基	1	
付属施設		照明柱	柱規格	基	1	
付属施設	銘板工	銘板	材質 寸法	枚	1	
付属施設		表示板	表示板規格	枚	1	
付属施設	小型標識工	標識柱	柱規格 柱長さ 施工規模	基	1	
付属施設		標識板	標識板規格	枚	1	
付属施設	大型標識工	標識基礎	形式 基礎規格	基	1	
付属施設		片持標識柱	柱型式	基	1	
付属施設		門型標識柱	スパン長 型式	基	1	
付属施設		標識板	標識板規格	枚	1	
付属施設		着雪防止板	板規格	枚	1	
付属施設	道路植栽工	植樹帯盛土	土質	m <sup>3</sup>	100	ただし1,000m <sup>3</sup> 未満の場合は10m <sup>3</sup>
付属施設		植樹	樹木規格	本	1	
付属施設		地被類植付	種類	m <sup>2</sup>	1	
付属施設		樹名板	樹名板規格	枚	1	

[別表-1]

工種 (レベル2)	種別 (レベル3)	細別 (レベル4)	規格 (レベル5)	単位	数値	備考
付属施設	アンカー工	アンカー	アンカーボルト規格	本	1	
付属施設		アンカー(プレキャストコンクリート板)	材質・径・長さ アンカー材規格	本	1	
付属施設		アンカー足場		(空m3)	(10)	
		鉄筋挿入	鉄筋規格 削孔長 現場条件 施工規模	m	1	
付属施設	点検施設工	梯子	寸法	本	1	
付属施設		ステップ	ステップ規格	本	1	
付属施設		蓋	蓋種類	枚	1	
付属施設	グラウトホール工	グラウトホール	径 長さ	組	1	
付属施設	観測施設工	量水標	量水標規格	箇所	1	
付属施設		水位計	水位計規格	箇所	1	
付属施設		流量計	流量計規格	箇所	1	
付属施設	燃料貯油槽工	充填砂	砂種類	m3	10	
付属施設	情報案内施設工	スクリーン	材質 形状	個	1	
付属施設	情報案内施設工	案内板	材質 形状	箇所	1	
河川構造物	土台基礎工	土台		m	1	
河川構造物	笠コンクリート工	笠コンクリート	コンクリート規格 底幅 高さ	m	1	
河川構造物		笠コンクリートブロック	ブロック規格 底幅 高さ	m	1	
河川構造物	護岸付属物工	横帯(隔壁)コンクリート	幅 高さ コンクリート規格	m	0.1	
河川構造物		横帯ブロック	ブロック規格 底幅 高さ	m	1	
河川構造物		小口止	コンクリート規格 幅 高さ	m	0.1	
河川構造物		小口止矢板	鋼矢板材質 鋼矢板型式 鋼矢板長さ	枚	1	
河川構造物		縦帯コンクリート	コンクリート規格 幅 高さ	m	1	
河川構造物		巻止コンクリート	コンクリート規格 幅 高さ	m	1	
河川構造物		平張コンクリート	コンクリート規格 底幅 天端幅 高さ	m2	1	
河川構造物		隔壁コンクリート		m	1	
河川構造物		隔壁ブロック		m	1	
河川構造物	多自然護岸工	木杭	杭材質 杭長 杭末口	本	1	
河川構造物		巨石張(積)	石材径 (練:遮水シートの有無 (練:止水シートの有無 (空:吸出し防止材の有無	m2	1	
河川構造物		巨石据付	石材径	m2	1	
河川構造物		巨石採取		個	1	
河川構造物		巨石運搬		式	1	
河川構造物		雑割石張	空石規格 かご厚さ	m2	1	
共通の工種		かごマット(スロープ型)	かご本体材質 詰石種類 詰石規格	m2	1	
共通の工種		かごマット(多段積型)	かご本体材質 詰石種類 詰石規格	m2	1	
河川構造物		ブロックマット	法勾配	m2	1	
河川構造物		杭柵		m	1	
河川構造物		連柴柵		m	1	
河川構造物		粗朶法覆		m2	1	
河川構造物		玉石柳枝		m2	1	
河川構造物		栗石粗朶		m2	1	
河川構造物		護岸植栽		本	1	
河川構造物	覆土工	覆土		m3	100	ただし1,000m3未満の場合は10m3
河川構造物	間詰工	間詰コンクリート	コンクリート規格	m3	1	
河川構造物	沈床工	沈床	○層建	m2	1	
河川構造物		粗朶単床		m2	1	
河川構造物		粗朶柵		m	1	
河川構造物	捨石工	捨石	石材規格	m3	1	
河川構造物		表面均し		m2	10	
河川構造物	元付工	元付	コンクリート規格	箇所	1	
河川構造物	牛・枠工	牛		組	1	
河川構造物		枠		組	1	
河川構造物	杭出し水制工	杭出し水制		基	1	
河川構造物	基礎工	現場打基礎	コンクリート規格 底幅 高さ	m	1	
河川構造物		プレキャスト基礎	底幅 高さ プレキャスト材規格(型)	m	1	
河川構造物	基礎工	コンクリート生産・運搬・クレーン打設	コンクリート規格	m3	1	
河川構造物	根固めブロック工	根固めブロック製作	ブロック種類(型式) ブロック種類(実質量)	個	1	

[別表-1]

工種 (レベル2)	種別 (レベル3)	細別 (レベル4)	規格 (レベル5)	単位	数値	備考
河川構造物		根固めブロック据付	ブロック種類(型式) ブロック種類(実質量) ブロック購入の有無	個	1	
河川構造物		消波根固めブロック仮置	ブロック種類(型式) ブロック種類(実質量)	個	1	
河川構造物		消波根固めブロック運搬	消波根固めブロック運搬 作業区分 積載個数 距離	個	1	
河川構造物		袋詰め玉石	袋材規格 中詰材規格	袋	1	
河川構造物	ブロック床版工	場所打ブロック	ブロック型式 コンクリート規格 鉄筋規格	m2	1	
河川構造物	函渠工	P C函渠	内幅 内高 函渠質量	m	0.1	
河川構造物		可撓継手	内幅 内高	箇所	1	
河川構造物		取替式止水板	止水板種類・寸法	箇所	1	
河川構造物		函渠接続	アンカー種類	箇所	1	
河川構造物	側壁工	裏込石	基礎材規格(碎石の場合) 基礎材規格(栗石の場合) 基礎材規格(発生材流用の場合)	m3	1	
樋門・樋管	樋門・樋管製作工	扉体		門	1	
樋門・樋管		戸当り		門	1	
樋門・樋管		管理橋		m	1	
樋門・樋管		管理階段		m	1	
樋門・樋管		門柱手摺		基	1	
樋門・樋管		片開扉		基	1	
樋門・樋管		中間軸受		門	1	
樋門・樋管		開閉機		台	1	
樋門・樋管		ラック棒		m	1	
樋門・樋管	小形水門工	(据付直接経費)	(式)	(式)	1	
樋門・樋管		(据付機械経費)	(式)	(式)	1	
樋門・樋管		小形水門据付		門	1	
樋門・樋管		管理橋据付		m	1	
樋門・樋管		管理橋橋台		基	1	
樋門・樋管		現場塗装		m2	10	ただし100未満の場合は1m2
樋門・樋管		工場塗装		m2	10	ただし100未満の場合は1m2
樋門・樋管		据付間接費		式	1	
樋門・樋管	輸送工	(小運搬)		t	0.1	
樋門・樋管		輸送		t	0.1	
樋門・樋管	本体工	底部可とう継手		m	1	
樋門・樋管		可とう遮水壁		箇所	1	
樋門・樋管	コンクリートブロック工 (コンクリートブロック積)	遮水シート	材質 種類 寸法	m2	1	
樋門・樋管	羽口工	連節ブロック水中吊落し		m2	1	
樋門・樋管	植生工	被覆シート張	シート規格	m2	1	
砂防	コンクリート・鋼製堰堤本体・副堤工	堤冠コンクリート	セメント種類 コンクリート規格	m3	1	
砂防		水抜暗渠	管径 管種類 管長さ	m	0.1	
砂防		鋼製枠	型式	t	0.1	
砂防		枠内中詰	土質	m3	1	
砂防		足場	安全ネットの有無	(m)	(1)	
砂防		チッピング(岩盤面・打継面)		m2	1	
砂防		チッピング(季節堰堤腹付け面)		m2	10	ただし100m2未満の場合は1m2
砂防		岩盤清掃		m2	1	
砂防		隔壁コンクリート基礎	コンクリート規格 幅 高さ	m3	1	
砂防		均しコンクリート	コンクリート規格 敷厚	m2	10	ただし100m2未満の場合は1m2
砂防		残存型枠	型枠の種類	(m2)	(10)	ただし100m2未満の場合は1m2
砂防		コーキング材		m	1	
砂防	鋼製砂防工	組立・据付工	鋼管フレーム・バットレス	t	0.1	
砂防		本締め工		本	1	
砂防		アンカー工	アンカーボルト規格	本	1	
砂防		現場塗装工(はけ塗り)	塗装種別	m2	1	
砂防	コンクリート側壁工	均しコンクリート	コンクリート規格 敷厚	m2	10	ただし100m2未満の場合は1m2
砂防		水抜暗渠	管径 管種類 管長さ	m	0.1	
砂防	集排水ボーリング工	ボーリング	施工場所 土質区分 呼び径	m	0.1	
砂防		ボーリング洗浄		m	0.1	
砂防		保孔管	保孔管材質・種類 施工場所 ストレナ加工の有無	m	1	
砂防		ボーリング仮設機材		回	1	
砂防	集水井工	集水井掘削	杭径 土留材料	m	1	
砂防		井戸中詰	土質	m3	1	



[別表-1]

工種 (レベル2)	種別 (レベル3)	細別 (レベル4)	規格 (レベル5)	単位	数値	備考
砂防		プレキャスト井筒	ブロック規格	m	1	
砂防		固定基礎コンクリート	タイプ コンクリート規格	m	1	
砂防		底張コンクリート	構造物種別 コンクリート規格	m3	1	
砂防		井戸蓋	蓋形式	枚	1	
砂防	山腹水路工	山腹暗渠	管材質 管径 管長さ	m	1	
砂防		現場打水路	内幅 内高 コンクリート規格	m	1	
砂防	砂防ソイルセメント工	砂防ソイルセメント	粒径処理率 セメント100m3当り使用量 施工幅員	m3	1	
砂防	土留柵工	H型鋼杭		本	1	
砂防		土留横材		m	1	
砂防		杭土処理		m3	10	
砂防		崩土防止横材		m	1	
砂防		崩土防止横材端基礎		箇所	1	
砂防		やぐら基材		回	1	
砂防	ダブルウォール堰堤工	型枠		(m2)	(10)	ただし100m2未満の場合 は1m2
砂防		鋼矢板		枚	1	
砂防		タイロッド		組	1	
砂防		腹起し		t	0.1	
砂防		枠内中詰		m3	1	
砂防		足場		(掛m2)	(10)	
砂防		敷網材		m2	1	
砂防		横クッション材		m2	1	
砂防		縦シール材		m	1	
砂防		基礎コンクリート		m3	1	
砂防		天端コンクリート		m3	1	
砂防		水抜管		m	1	
海岸	海岸コンクリート(根固・消波) ブロック工	海岸コンクリート(根固・消波) ブロック製作	ブロック種類(型式) ブロック種類(実質量)	個	1	
海岸		海岸コンクリート(根固・消波) ブロック据付	ブロック種類(型式) ブロック種類(実質量) ブロック購入の有無	個	1	
海岸	護岸工	裏込(砕)石	砕石規格	m3	1	
海岸		石材	石材規格	m3	1	
海岸	コンクリート被覆工	コンクリート	コンクリート規格 養生費 コンクリート夜間割増の有無	m2	10	ただし1,000m2未満の 場合は1m2
海岸		岩盤基面整正		m2	10	
海岸		岩盤等		m2	10	
海岸		防止材		m2	1	
海岸		H型鋼		本	1	
海岸		ケーシング損料		式	1	
海岸		配管設置撤去		m	1	
海岸		配管損料		式	1	
海岸		スリッパ		本	1	
海岸		路盤紙		m2	10	
海岸		止壁		m	1	
海岸	捨石工	中詰石	石材規格	m3	1	
海岸		捨石	石材規格	m3	1	
海岸		捨石均し	均し区分	m2	10	
海岸		表面均し		m2	10	
海岸	被覆石工	被覆石据付	石材規格	m3	1	
海岸		被覆石均し	均し区分	m2	10	
海岸	被覆ブロック工	被覆ブロック据付	ブロック種類(型式) ブロック種類(実質量) ブロック購入の有無	個	1	
海岸	矢板工	鋼矢板防食	防食規格	m2	1	
海岸	詰杭工	既製コンクリート杭	杭種別 杭径 杭長 杭打込長(掘削長)	本	1	
海岸		コンクリートパネル	パネル規格 ブロック規格	枚	1	
海岸		中詰石	石材規格	m3	1	
海岸		表面均し		m2	10	
海岸	石砕工	コンクリート砕製作	コンクリート規格	個	1	
海岸		コンクリート砕据付	ブロック規格	個	1	
海岸		中詰石	石材規格	m3	1	
海岸		捨石均し	均し区分	m2	10	
海岸	ケーソン・セルラー工	ケーソン等運搬・据付		個	1	
海岸		中詰砂・石	石材規格	m3	1	
海岸		表面均し		m2	10	
海岸	洗堀防止工	洗堀防止		m2	1	
海岸		グラベルマット		m3	1	
海岸		グラベルマット均し		m2	1	
海岸		大型網かご製作		個	1	
海岸		大型網かご据付		個	1	
海岸	陸間工	陸間据付工機械経費		式	1	
海岸		陸間据付直接労務費		式	1	
海岸		角落し		枚	1	
海岸		戸当り		t	0.01	
浚渫工	浚渫船運転工(ポンプ浚渫船)	浚渫船運転	浚渫船区分 貸与区分	m3	100	ただし1,000m3未満の 場合は10m3
浚渫工		排砂管(設備)	排砂管径 設置高さ	(本)	(1)	

[別表-1]

工種 (レベル2)	種別 (レベル3)	細別 (レベル4)	規格 (レベル5)	単位	数値	備考
浚渫工		浚渫船機械管理費(官船)	貸与船舶種・船級 フロータ長 フロータ径 排砂管径 排砂管本数 フロータ数 ゴムジョイント数	(日)	(1)	
浚渫工		排砂管保守		(日)	(1)	
浚渫工	作業船及び機械運転工(ポンプ浚渫船)	中継ポンプ運転		(台)	(1)	
浚渫工		揚錨船運転		(日)	(1)	
浚渫工		交通船運転		(日)	(1)	
浚渫工		警戒船運転		(日)	(1)	
浚渫工	浚渫船運転工(グラブ浚渫船)	浚渫船運転	浚渫船区分 貸与区分	m3	100	ただし1,000m3未満の 場合は10m3
浚渫工		浚渫船等機械管理費	浚渫船規格 汚濁防止枠の有無	(日)	(1)	
浚渫工	作業船及び機械運転工(グラブ浚渫船)	揚錨船運転		(日)	(1)	
浚渫工		交通船運転		(日)	(1)	
浚渫工		土運搬船運転		(日)	(1)	
浚渫工		曳船運転		(日)	(1)	
浚渫工		警戒船運転		(日)	(1)	
浚渫工	バックホウ浚渫船	バックホウ浚渫船運転	浚渫船区分 貸与区分	m3	100	ただし1,000m3未満の 場合は10m3
浚渫工		繋船運転		(日)	(1)	
浚渫工		土運搬船運転		(日)	(1)	
浚渫工		浚渫土揚土		(日)	(1)	
浚渫工	配土工	配土		(日)	(1)	
浚渫工	浚渫土処理工	浚渫土処理		m3	10	
浚渫工	バックホウ浚渫船(ICT)	バックホウ浚渫船運転	浚渫船区分	m3	100	ただし1,000m3未満の 場合は10m3
鋼橋上部工	地組工	地組		t	0.1	ただし1t未満の場合は 0.01t
鋼橋上部工	床版工	床版架設		m2	1	
鋼橋上部工	架設工	各種設備		式	1	
鋼橋上部工		桁架設	規格 桁種類	t	0.1	ただし1t未満の場合は 0.01t
鋼橋上部工	現場継手工	本締めボルト		本	1	
鋼橋上部工		鋼床板現場溶接		m	1	
鋼橋上部工	支承工	金属支承設置	支承規格	個	1	
鋼橋上部工		大型ゴム支承設置	支承規格	個	1	
鋼橋上部工	伸縮装置工	鋼・ゴム製伸縮装置	伸縮装置規格	m	0.1	
鋼橋上部工		鋼製伸縮装置	伸縮装置規格 工種	t	0.1	
鋼橋上部工		埋設ジョイント	ジョイント規格 工種	m	1	
鋼橋上部工	落橋防止装置工	落橋防止装置	材質規格(寸法等)	箇所	1	
鋼橋上部工	排水装置工	排水枴	枴規格	箇所	1	
鋼橋上部工		排水管	管規格	m	1	
鋼橋上部工	地覆工	場所打地覆	形状寸法	m	1	
鋼橋上部工		フレキャスト地覆	ブロック規格 底幅 高さ	m	1	
鋼橋上部工	橋梁用防護柵工	橋梁用防護柵		m	1	
鋼橋上部工	橋梁用高欄工	橋梁用高欄	材質 作業区分 高欄形式	m	1	
鋼橋上部工	検査路工	検査路		t	0.1	
鋼橋上部工	銘板工	橋名板	材質	枚	1	
鋼橋上部工		橋歴板		枚	1	
鋼橋上部工	架設工	シート架設		t	0.1	
鋼橋上部工	屋根コンクリート工	溶接金網	線径 網目	m2	1	
歩道橋本体工	橋脚フーチング工	アンカーフレーム架設		基	1	
歩道橋本体工		アンカーフレーム注入モルタル		基	1	
歩道橋本体工	歩道橋架設工	歩道橋架設		t	0.1	
歩道橋本体工		側道橋架設		t	0.1	
歩道橋本体工		橋面舗装	コンクリート規格	m2	10	ただし1,000m2未満の 場合は1m2
歩道橋本体工		手摺	高さ	m	1	
歩道橋本体工		高欄		m	1	
歩道橋本体工		足場	安全ネットの有無	(箇所)	(1)	
歩道橋本体工		防護		(m2)	(10)	
鋼橋足場等設置工	橋梁足場工	架設足場	橋梁の種類	(m2)	(10)	
鋼橋足場等設置工		床版足場	橋梁の種類	(m2)	(10)	
鋼橋足場等設置工		塗装足場	橋梁の種類	(m2)	(10)	
鋼橋足場等設置工		側面塗装足場		(m2)	(10)	
鋼橋足場等設置工		支承設置用足場		(m)	(1)	
鋼橋足場等設置工	橋梁防護工	板張防護		(m2)	(10)	
鋼橋足場等設置工		シート張防護		(m2)	(10)	
鋼橋足場等設置工		ワイヤーブリッジ防護		(m2)	(10)	
鋼橋足場等設置工	昇降用設備工	登り棧橋		(箇所)	(1)	
鋼橋足場等設置工		工事用エレベーター		(基)	(1)	
コンクリート橋上部工	桁製作工・床版・横組工	プレテンション桁製作		本	1	
コンクリート橋上部工		ポストテンション桁製作	鉄筋規格 コンクリート規格 PCケーブルの種類	本	1	
コンクリート橋上部工		プレキャストセグメント製作	桁規格	本	1	
コンクリート橋上部工		プレキャストセグメント主桁組立	PCケーブル規格	本	1	
コンクリート橋上部工		プレビーム桁製作	桁規格	本	1	
コンクリート橋上部工		機械器具損料		式	1	
コンクリート橋上部工		PCケーブル	PCケーブル種類	m	1	

[別表-1]

工種 (レベル2)	種別 (レベル3)	細別 (レベル4)	規格 (レベル5)	単位	数値	備考
コンクリート橋上部工		PCケーブル	PCケーブル種類	t	0.1	ただし1t未満の場合は0.01t
コンクリート橋上部工		PCケーブル・緊張	緊張区分 PC規格 PC鋼棒規格	ケーブル	1	
コンクリート橋上部工		緊張	PCケーブル種類 定着装置	ケーブル	1	
コンクリート橋上部工		PC鋼棒	鋼棒径・種別 継手種別	m	1	
コンクリート橋上部工		PC緊張	緊張区分 PCケーブル種類	箇所	1	
コンクリート橋上部工		PC固定	電源区分 緊張区分 PCケーブル種類	箇所	1	
コンクリート橋上部工		PC継手	電源区分 緊張区分 PCケーブル種類	箇所	1	
コンクリート橋上部工		横締めケーブル	電源区分 緊張区分 PCケーブル種類	m	1	
コンクリート橋上部工		鉛直締めケーブル	電源区分 PCケーブル種類	m	1	
コンクリート橋上部工		横締め緊張		箇所	1	
コンクリート橋上部工		鉛直締め緊張	電源区分 PCケーブル種類	箇所	1	
コンクリート橋上部工		取付桁結合解放		回	1	
コンクリート橋上部工	架設工(押出し架設)	仮支柱		基	1	
コンクリート橋上部工		プレフレクション		回	1	
コンクリート橋上部工		リリリース		回	1	
コンクリート橋上部工		主桁解体		主桁本	1	
コンクリート橋上部工		桁組立		主桁本	1	
コンクリート橋上部工		横桁取付		箇所	1	
コンクリート橋上部工		部分プレストレス		径間	1	
コンクリート橋上部工		移動型枠		(m2)	(1)	
コンクリート橋上部工		円筒型枠		(m)	(1)	
コンクリート橋上部工		主桁製作設備		式	1	
コンクリート橋上部工	架設工	桁小運搬		本	1	
コンクリート橋上部工		桁架設	規格 桁種類	本	1	
コンクリート橋上部工		柱頭部仮支承		m2	1	
コンクリート橋上部工		桁架設(片持架設)	規格 桁種類	基	1	
コンクリート橋上部工		ベント・鉄塔基礎		式	1	
コンクリート橋上部工		押出装置		基	1	
コンクリート橋上部工		滑り装置		基	1	
コンクリート橋上部工		手延べ桁		基	1	
コンクリート橋上部工		桁架設(押出架設)	規格 桁種類	回	1	
コンクリート橋上部工	落橋防止装置工	落橋防止装置	材質規格(寸法等)	組	1	
コンクリート橋上部工	架設支保工	支保工基礎		(m2)	(1)	
コンクリート橋上部工		支保	支保耐力〇〇以上	(空m3)	(10)	
コンクリート橋上部工	支承工	ゴム支承	橋種 反力 寸法	個	1	
コンクリート橋上部工		金属支承設置	支承規格	個	1	
コンクリート橋上部工		変位制限装置		組	1	
コンクリート橋上部工		ジョイントプロテクター		組	1	
コンクリート橋上部工	橋梁付属物工	鋼・ゴム製伸縮装置	伸縮装置規格	m	0.1	
コンクリート橋上部工		鋼製伸縮装置	伸縮装置規格	t	0.1	
コンクリート橋上部工		埋設ジョイント	ジョイント規格	m	1	
コンクリート橋上部工		排水柵	柵規格	箇所	1	
コンクリート橋上部工		排水管	管規格	m	1	
コンクリート橋上部工		場所打地覆	形状寸法	m	1	
コンクリート橋上部工		プレキャスト地覆	ブロック規格 底幅 高さ	m	1	
コンクリート橋上部工		橋梁用防護柵		m	1	
コンクリート橋上部工		橋梁用高欄	材質 作業区分 高欄形式	m	1	
コンクリート橋上部工		検査路		t	0.1	
コンクリート橋上部工		銘板	材質 寸法	枚	1	
コンクリート橋上部工	橋梁防護工	PC防護		m2	1	
コンクリート橋上部工	輸送工	現場取卸(鋼桁)		t	0.1	
コンクリート橋上部工	シェッド購入工	シェッド部材材料費	材質規格(寸法等)	本	1	
コンクリート橋上部工	躯体工	排水マット	材質規格	m	1	
トンネル(NATM)	トンネル掘削工・支保工	掘削・支保	支保構造区分 岩区分 切羽監視責任者の有無 鏡吹付工の有無	(m)	(0.1)	
トンネル(NATM)	支保工	吹付	材料規格 吹付厚	m	0.1	
トンネル(NATM)		鋼製支保	岩区分	(m)	(0.1)	
トンネル(NATM)		金網		m	0.1	
トンネル(NATM)	覆工・防水工	覆工コンクリート・防水	支保構造区分 岩区分	m	0.1	
トンネル(NATM)		覆工コンクリート(妻部)	岩区分 巻厚 コンクリート規格	箇所	1	
トンネル(NATM)		側壁コンクリート	岩区分 巻厚 コンクリート規格	m	0.1	
トンネル(NATM)		床版コンクリート	巻厚 コンクリート規格	m	0.1	
トンネル(NATM)	インパート工	インパート掘削	岩区分	m	0.1	

[別表-1]

工種 (レベル2)	種別 (レベル3)	細別 (レベル4)	規格 (レベル5)	単位	数値	備考
トンネル(NATM)		インバート	岩区分 巻厚 コンクリート規格	m	0.1	
トンネル(NATM)	坑内付帯工	箱抜	岩区分 コンクリート規格	箇所	1	
トンネル(NATM)		裏面排水	材料規格	m	1	
トンネル(NATM)		湧水処理	材料規格 削孔の有無 削孔長	箇所	1	
トンネル(NATM)		中央排水	管種 管径	m	1	
トンネル(NATM)		横断排水	管種 管径	箇所	1	
トンネル(NATM)		集水樹	集水樹種類 現場打材種類 コンクリート規格 基礎コンクリート規格	箇所	1	
トンネル(NATM)	坑門工	斜面ボルト	材料規格 長さ	本	1	
トンネル(NATM)		坑口処理		箇所	1	
トンネル(NATM)		型枠(セントル)		(m2)	(10)	
トンネル(NATM)	掘削補助工A	フォアバイリング	岩区分 材料規格 長さ	本	1	
トンネル(NATM)		先受け矢板	材料規格 長さ	枚	1	
トンネル(NATM)		岩盤固結	材料規格	m3	10	ただし100m3未満の場合 は1m3
トンネル(NATM)		増し吹付	材料規格 吹付厚 補強材有無・規格	m2	1	
トンネル(NATM)		増しロックボルト	材料規格 長さ	本	1	
トンネル(NATM)		鏡吹付	材料規格 吹付厚	m2	1	
トンネル(NATM)		鏡ロックボルト	材料規格 長さ	本	1	
トンネル(NATM)		仮インバート	材料規格 巻厚 補強材有無・規格	m2	1	
トンネル(NATM)		ミニバイブルーフ	材料規格 径 長さ	本	1	
トンネル(NATM)	掘削補助工B	水抜きボーリング	材料規格 径 長さ	本	1	
トンネル(NATM)		垂直縫地	材料規格 径 長さ	本	1	
トンネル(NATM)		バイブルーフ	材料規格 径 長さ	本	1	
トンネル(NATM)		押え盛土	材料規格 改良材添加量	m3	100	ただし1,000m3未満の 場合は10m3
トンネル(NATM)		薬液注入	注入材料	m3	10	
トンネル(NATM)		ディーブウェル	径 深さ	日	1	
トンネル(NATM)		ウエルポイント	ポンプ組数	日	1	
トンネル(NATM)		トンネル仮巻きコンクリート	コンクリート規格 巻厚	m	1	
トンネル(NATM)		各種設備		式	1	
共同溝	掘削工	掘削	土留方式	m3	100	ただし1,000m3未満の 場合は10m3
共同溝	埋戻し工	埋戻し	土質区分 土質	m3	100	ただし1,000m3未満の 場合は10m3
共同溝	現場打構築工	防水	施工種別 材質	m2	10	ただし100m2未満の場合 は1m2
共同溝		防水保護	施工種別 モルタル規格	m2	10	ただし100m2未満の場合 は1m2
共同溝		防水壁	コンクリート規格	箇所	1	
共同溝		目地材	目地材種類・厚さ	m2	1	
共同溝		止水板	止水板種類・寸法	m	1	
共同溝	プレキャスト構築工	プレキャスト躯体	種類 形状・寸法	個	1	
共同溝		PC鋼材	材質 種類	m	1	
共同溝		縦・横締め緊張	電源区分 緊張区分 PCケーブル種類	箇所	1	
共同溝		可とう継手	内幅 内高	箇所	1	
共同溝		コーキング	材質 種類	m	1	
共同溝		シール		m	1	
共同溝	付帯設備工	グレーチング	蓋種類	組	1	
共同溝		蓋	蓋種類	組	1	
共同溝		排水管	管規格	m	1	
共同溝		ルーフトレーン	材質 管径	個	1	
共同溝		換気防護柵	高さ	箇所	1	
共同溝		梯子	寸法	本	1	
共同溝		ステップ	ステップ規格	本	1	
共同溝		タラップ	寸法	本	1	
共同溝		手摺	高さ	m	1	
共同溝		銘板	材質 寸法	枚	1	

[別表-1]

工種 (レベル2)	種別 (レベル3)	細別 (レベル4)	規格 (レベル5)	単位	数値	備考
共同溝	現場打駆体工(構造物単位)	共同溝	コンクリート規格 規格 土被り 内幅 内高	m3	1	
共同溝	管路工(管路部)	埋設表示シート	シート規格	m	1	
電線共同溝	掘削工	開削掘削	土質	m3	100	ただし1,000m3未満の 場合は10m3
電線共同溝	埋戻し工	埋戻し	土質区分 土質	m3	100	ただし1,000m3未満の 場合は10m3
電線共同溝	電線共同溝工	管路	材質 径	m	1	
電線共同溝		プレキャストボックス	作業区分 内幅 内高 基礎材種別	個	1	
電線共同溝		蓋	蓋種類	組	1	
電線共同溝	付帯設備工	ハンドホール	寸法	箇所	1	
電線共同溝	管路工(管路部)	埋設表示シート	シート規格	m	1	
電線共同溝		スリーブ		個	1	
電線共同溝		伸縮継手		個	1	
植栽維持工	樹木・芝生管理工	樹木せん定	樹種 樹高	本	1	
植栽維持工		寄植せん定	樹種 樹高	m2	10	
植栽維持工		補植	樹木規格 土壌改良材の有無 植樹割増しの有無	本	1	
植栽維持工		移植	施工内容(移植) 施工規模(移植) 施工内容(植樹)	本	1	
植栽維持工		支柱	支柱形式 施工区分 規格・仕様	本	1	
植栽維持工		抜根除草	施工内容 施工規模 施工場所別補正	m2	10	
植栽維持工		樹木施肥	肥料種類	本	1	
植栽維持工		寄植・芝施肥	肥料種類 施工内容 施工規模 施工場所別補正	m2	10	
植栽維持工		灌水	灌水時期	m2	10	
植栽維持工		防除	薬剤種類 施工内容 施工規模 時間制約補正 夜間作業補正 施工場所別補正	本	1	
植栽維持工		寄植・芝薬剤散布	薬剤種類 施工内容 施工規模 施工場所別補正	m2	10	
植栽維持工		芝刈	芝種類	m2	1,000	ただし100,000m2未満 の場合は100m2
河川維持	河川巡視工	緊急巡視		回	1	
河川維持	堤防除草工	除草		m2	1,000	ただし100,000m2未満 の場合は100m2
河川維持	芝養生工	施肥	肥料種類 肥料使用量	m2	1,000	ただし100,000m2未満 の場合は100m2
河川維持		抜根	抜根工作区分 タイヤ損耗費	m2	1,000	ただし100,000m2未満 の場合は100m2
河川維持	伐木除根工	伐木除根	樹木・竹の区分 樹木密集度	m2	1,000	ただし100,000m2未満 の場合は100m2
河川維持	塵芥処理工	散在塵芥収集		m2	1,000	ただし100,000m2未満 の場合は100m2
河川維持		堆積塵芥収集		m3	10	ただし100m3未満の場 合は1m3
河川維持	水面清掃工	水面清掃		日	1	
河川維持	応急処理作業	応急作業	作業形態	日	1	
河川維持	ボーリンググラウト工	注入	注入材料規格 注入日数 注入量	m3	1	
河川維持		注入設備据付解体		回	1	
河川維持	欠損部補修工	欠損部取壊し		m3	1	
河川維持		欠損部補修	補修工法	m3	1	
河川維持	不陸整正工	不陸整正・締固め	補修材の有無 補修材の種類 補修材の厚さ	m2	1	
河川維持	付属物復旧工	調整ポスト	支柱間隔	個	1	
河川維持	付属物設置工	標識		基	1	
河川維持	塵芥処理工	処分費		t	1	
河川維持	樹木・芝生管理工	補植	樹種 樹高	本	1	
道路修繕	路面切削工	路面切削	施工区分・平均切削深さ 段差すりつけ撤去作業の有無	m2	10	ただし1,000m2未満の 場合は1m2
道路修繕	舗装打換え工	舗装版切断	舗装版種別 舗装厚	m	10	ただし100m未満の場合 は1m
道路修繕		舗装版破砕	舗装版種別	m2	10	ただし1,000m2未満の 場合は1m2
道路修繕	切削オーバーレイ工	切削オーバーレイ	全面切削深さ 舗設層数 段差すりつけ区分 アスファルト材料種類	m2	10	ただし1,000m2未満の 場合は1m2

[別表-1]

工種 (レベル2)	種別 (レベル3)	細別 (レベル4)	規格 (レベル5)	単位	数値	備考
道路修繕	舗装打換え工・オーバーレイ工	中間層	材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員	m2	10	ただし1,000m2未満の場合は1m2
道路修繕	路上路盤再生工	路上路盤再生	混合深さ 混合用乳剤の有無 養生工の有無 砂散布の有無	m2	10	ただし1,000m2未満の場合は1m2
道路修繕	床版補強工(鋼板接着・増桁架設工法)	鋼板接着		m2	1	
道路修繕		クラック処理	使用材料の種類	m	1	
道路修繕		足場	安全ネットの有無	(m2)	(10)	
道路修繕		防護		(m2)	(10)	
道路修繕		増桁架設	障害の有無	t	0.1	ただし1t未満の場合は0.01t
道路修繕	床版増厚補強工	表面荒らし		m2	1	
道路修繕	床版取替工	鋼製高欄取替	作業区分 高欄形式	m	1	
道路修繕		床版運搬処理	処理費の有無 作業内容積込 工法区分	m3	1	
道路修繕	鋼桁補強工	現場溶接鋼桁補強		m	1	
道路修繕	伸縮継手工	鋼製伸縮継手補修	伸縮装置補修	m	0.1	
道路修繕		埋設ジョイント補修	ジョイント規格 伸縮装置断面積 工種 取付部位 工法区分 補修形式	m	0.1	
道路修繕	鋼橋・PC支承工	支承取替	支承形式 現場条件	基	1	
道路修繕	トンネル補修工	低圧注入工法	1トンネル当り補修延べ延長 材料種類	トンネル	1	
道路修繕	検査路工	検査路		t	0.1	
道路修繕	沓座拡幅工	チッピング		m2	1	ただし10m2未満の場合は0.1m2
道路修繕		削孔	削孔工法 削孔土質	孔	1	
道路修繕		アンカーボルト挿入	アンカーボルト種類 注入材材質	本	1	
道路修繕		鋼製沓座設置	鋼製沓座種類 設置箇所数	箇所	1	
道路修繕	排水施設工	排水樹	樹規格	箇所	1	
道路修繕		排水管	管規格	m	1	
道路修繕	横断歩道橋工	高欄・手摺		t	0.1	
道路修繕		側板	作業区分 側板規格	t	0.1	
道路修繕		ノンスリップ	ノンスリップの規格	m	1	
道路修繕	RC橋脚鋼板巻立て工	鋼板取付	注入材材質	m2	1	
道路修繕		現場溶接	平均板厚	m	1	
道路修繕		定着用アンカー	径 削孔長	箇所	1	
道路修繕		円形基部補強版		段	1	
道路修繕		根巻きコンクリート	コンクリート規格	m3	1	
道路修繕	橋脚コンクリート巻立て	コンクリート削孔	径 削孔長 アンカー材の有無 アンカー材長さ	箇所	1	
道路修繕		コンクリート巻立て	支柱区分 施工内容 コンクリート規格 養生費 コンクリート夜間割増の有無	m3	1	
道路修繕		下地処理		m2	1	
道路修繕	現場塗装工	素地調整	調整工種別	m2	10	ただし100m2未満の場合は1m2
道路修繕		塗装(下・中・上塗)	塗装種別 塗装箇所 塗装回数	m2	10	ただし100m2未満の場合は1m2
道路修繕		張紙防止塗装	塗料種別	m2	10	ただし100m2未満の場合は1m2
道路修繕		コンクリート面・岩盤清掃		m2	1	
道路修繕	トンネル工	内装板	内装板材質	m2	1	
道路修繕		裏込注入	注入材種類 配合 トンネル種別 トンネル平均距離 足場の有無	m3	1	
道路修繕		面導水	導水材種類	m2	1	
道路修繕		線導水	導水材種類	m	1	
道路修繕		鋼板巻立て	支柱区分 注入材材質	m2	1	
道路修繕		グルーピング	溝寸法・溝間隔 施工規模 舗装面種類	m2	1	
道路修繕		グルーピング(路面排水用)	溝寸法 舗装面種類	m	1	
道路修繕		鋼・ゴム製伸縮装置補修	工種 伸縮装置本体形式 仕様 本体材料の計上の有無	m	1	
道路修繕	橋梁補修工	橋梁地覆補修	コンクリート規格 鉄筋材料規格・径	m	1	
道路修繕		下地処理	1橋当りの延べ施工量	橋	1	

[別表-1]

工種 (レベル2)	種別 (レベル3)	細別 (レベル4)	規格 (レベル5)	単位	数値	備考
道路修繕		プライマー塗布	1橋当りの延べ施工量 材料種類	橋	1	
道路修繕		下塗り(パテ塗布)	1橋当りの延べ施工量 材料種類	橋	1	
道路修繕		中塗り材塗布	1橋当りの延べ施工量 材料種類	橋	1	
道路修繕		上塗り材塗布	1橋当りの延べ施工量 材料種類	橋	1	
道路維持	巡視・巡回工	通常巡回	巡回車種類 巡回時間帯	回	1	
道路維持		緊急巡回	巡回車種類 巡回時間帯	回	1	
道路維持	コンクリート舗装補修工	アスファルト注入	材料種類 削孔数	t	0.1	ただし1t未満の場合は0.01t
道路維持		舗装版目地補修	材料種類	m	1	
道路維持		クラック処理	使用材料の種類	m	1	
道路維持	アスファルト舗装維持工	わだち掘れ補修	材料種類	m2	1	
道路維持		パッチング	材料種類	t	0.1	
道路維持	付属物復旧工	ガードケーブル復旧	ガードケーブル規格 材料費の有無 作業条件	m	1	
道路維持		転落(横断)防止柵復旧	防護柵種類 柵高 支柱間隔 根巻コンクリートの有無 施工区分 施工規模	m	1	
道路維持		路側標識復旧	柱規格 柱長さ 塗装仕様 曲げ支柱有無 施工規模	基	1	
道路維持		標識板復旧	標識板規格 添架形式[標識設置箇所] 施工規模	枚	1	
道路維持		視線誘導標復旧	視線誘導標 規格施工区分 施工規模	本	1	
道路維持		距離標復旧	距離標規格 作業区分	本	1	
道路維持		張紙防止シート復旧	シート種類	m2	1	
道路維持	路面清掃工	路面清掃(機械)	作業形態	km	0.1	
道路維持		路面清掃(路肩部・人力)	作業形態 塵芥量	km	0.1	
道路維持		路面清掃(歩道・人力)	作業形態 塵芥量	m2	1	
道路維持		路面清掃(歩道橋・地下道・人力)	作業形態 塵芥量	m2	1	
道路維持		路面清掃(中央分離帯・人力)	作業形態 塵芥量	m2	1	
道路維持	排水施設清掃工	側溝清掃(人力)	作業形態 側溝蓋規格	m	10	
道路維持		側溝清掃(機械)	作業形態	km	0.01	
道路維持		管渠清掃	作業形態 作業量区分 排水管清掃車使用区 散水車の使用区分 散水車機種	m	10	
道路維持		樹清掃	作業形態 機械使用区分 土砂厚	箇所	1	
道路維持	橋梁清掃工	伸縮継手清掃	作業形態	m	1	
道路維持		排水管清掃	作業形態 高所作業車の機械使用条件	m	10	
道路維持	道路付属物清掃工	ガードレール清掃	作業形態 支柱清掃の有無 ガードレール清掃車の使用区分 散水車の使用区分 散水車機種 ガードレール清掃車機種	km	0.1	
道路維持		トンネル照明器具清掃(機械)	作業形態	km	0.1	
道路維持		トンネル照明器具清掃(人力)	作業形態 高所作業車の機械使用条件	灯	1	
道路維持		視線誘導標清掃	作業形態	本	1	
道路維持		トンネル壁面清掃	作業形態 散水車使用区分 ブラシ使用区分 (貸与の場合)散水車機種	m2	1	
道路維持	道路除草工	除草		m2	1,000	ただし100,000m2未満の場合は100m2
道路維持	応急処理工	応急作業	作業形態	日	1	
道路維持	冬季安全施設工	スノーポール設置・撤去	スノーポール種類 作業区分 スノーポール材料の計上	本	1	
道路維持		防雪柵	防雪防護柵種類 柵高	m	1	
道路維持		落雪(せり出し)防護柵	防雪防護柵種類 柵高	m	1	
道路維持		防雪柵現地張出・収納	防雪柵種類 作業区分	m	1	

[別表-1]

工種 (レベル2)	種別 (レベル3)	細別 (レベル4)	規格 (レベル5)	単位	数値	備考
道路維持		転落(横断)防止柵復旧	防護柵種類 柵高 支柱間隔 根巻コンクリートの有無 施工区分 施工規模	m	1	
道路維持		路側標識復旧	柱規格 柱長さ 塗装仕様 曲げ支柱有無 施工規模	基	1	
道路維持		標識板復旧	標識板規格 添架形式[標識設置箇所] 施工規模	枚	1	
道路維持		視線誘導標復旧	視線誘導標 規格施工区分 施工規模	本	1	
道路維持		距離標復旧	距離標規格 作業区分	本	1	
道路維持		張紙防止シート復旧	シート種類	m <sup>2</sup>	1	
電気通信		ケーブル		m	10	ただし1,000m未満の場 合は1m
電気通信		電線		m	10	ただし1,000m未満の場 合は1m
電気通信		電線管		m	10	ただし1,000m未満の場 合は1m
機械		鋼材類		t	0.01	ただし1t未満の場合は 0.001t



## 1. 1.1 数量集計表の標準様式

設計数量の集計は、本数量集計表の様式に従い、作成するものとする。

### 1. 名称について

工事区分、工種、種別、細別、規格欄は、「北海道建設部土木工事工種体系化の手引き」（以下「体系化の手引き」という。）の階層（レベル）構造に従い記入する。

- 1) 工事工種体系化では、レベル1（工事区分）、レベル2（工種）、レベル3（種別）、レベル4（細別）、レベル5（規格）、レベル6（積算要素）と階層構造を統一している。

### 2. 数量区分について

数量区分は次のとおりとする。具体例は次頁を参照のこと。

- 1) 委託業務（積算委託を除く）の成果品として数量集計表を作成する場合  
各章の「区分一覧表」で○となっているものにより区分して、数量を記入する。  
なお、区分が掲載されていないものについては、類似の工種の数量区分を準用するものとする。類似の工種がない場合は、当該委託業務では知り得ない情報（具体的には、残土や産業廃棄物等の運搬距離及びDID区間有無、時間的制約の有無及びこれらに類するものとする）以外について適宜区分を行い、数量を記入する。  
※委託業務（積算委託を除く）においては、委託者は下記2)を求めないものとする。
- 2) 積算委託の成果品または工事の設計図書として数量集計表を作成する場合  
積算時に必要とする条件とし、必要に応じて、1)に加えて必要な積算区分を行い、数量を記入する。

### 3. 単位について

単位の表示は、「1. 5 数量計算の単位及び数位」、「1. 6 設計表示単位及び数位」、又は「体系化の手引き」により記入する。

- 1) 数量計算用単位は「数量算出要領」により、積算用単位は「体系化の手引き」によるものとする。

### 4. 数位について

算出すべき数量の数位は、「1. 5 数量計算の単位及び数位」により記入する。

### 5. 合計欄について

レベル4（細別）ごとの数値の合計を行（列）頭に配置する。

- 1) 表計算ソフトでの編集を考慮し、行挿入、行削除等の編集作業によってセル内の計算式が壊れないように行頭に配置するものとする。
- 2) 工区割等による区分分け（列方向）の合計は、列挿入、列削除等の編集作業による計算式の破壊を防ぐため左端に合計欄を配置するものとする。

### 6. 内訳数量表について

- (1) レベル4（細別）で数量をくくっているものの中で、細別の中身に細分化が必要なもの、単位当たりの数量に置き換える必要があるものは、内訳数量表を作成する。
- (2) 数量集計表の内訳数量表欄には、対応する内訳数量表番号を記入する。

## 1. 1.1 数量集計表の標準様式

設計数量の集計は、本数量集計表の様式に従い、作成するものとする。

### 1. 名称、区分について

(1) 工事区分、工種、種別、細別、規格欄は、「北海道建設部土木工事工種体系化の手引き」(以下「体系化の手引き」という。)の階層(レベル)構造に従い記入する。

1) 工事工種体系化では、レベル1(工事区分)、レベル2(工種)、レベル3(種別)、レベル4(細別)、レベル5(規格)と階層構造を統一している。

(2) 数量区分欄は、必要に応じて「各章の記載内容」により記入する。

1) 数量区分は、積算時に必要とする条件であり、必要に応じて該当する区分毎に算出した数量を記入する。

### 2. 単位について

単位の表示は、「1.5 数量計算の単位及び数位」、「1.6 設計表示単位及び数位」、又は「体系化の手引き」により記入する。

1) 数量計算用単位は「数量算出要領」により、積算用単位は「体系化の手引き」によるものとする。

### 3. 数位について

算出すべき数量の数位は、「1.5 数量計算の単位及び数位」により記入する。

### 4. 合計欄について

レベル4(細別)ごとの数値の合計を行(列)頭に配置する。

1) 表計算ソフトでの編集を考慮し、行挿入、行削除等の編集作業によってセル内の計算式が壊れないように行頭に配置するものとする。

2) 工区割等による区分分け(列方向)の合計は、列挿入、列削除等の編集作業による計算式の破壊を防ぐため左端に合計欄を配置するものとする。

### 5. 内訳数量表について

(1) レベル4(細別)で数量をくくっているものの中で、細別の中身に細分化が必要なもの、単位当たりの数量に置き換える必要があるものは、内訳数量表を作成する。

(2) 数量集計表の内訳数量表欄には、対応する内訳数量表番号を記入する。

数量集計表記入例 (1) 委託業務(積算委託を除く)の成果品として数量集計表を作成する場合

工区が複数あり、数量調書が工区毎に別の場合等は、この行または列を増やして記載し、合計欄にそれらの合計を記載する。

レベル1 (工事区分)		レベル2 (工種)						数量集計表			
レベル3 (種別)	レベル4 (細目)	レベル5 (規格)	レベル6 (積算要素)	積算用 単位	数量区分				当初設計	内訳 数量表紙	備考
									合計		
盛土工 [流用土I]											
路体(築堤)盛土				m3	施工幅員 2.5m未満				60	55.5	
路体(築堤)盛土				m3	施工幅員 4.0m以上					55.5	
									110	111.1	
										111.1	
レベル1 (工事区分)		レベル2 (工種)						数量集計表			
レベル3 (種別)	レベル4 (細目)	レベル5 (規格)	レベル6 (積算要素)	積算用 単位	数量区分				当初設計	内訳 数量表紙	備考
									合計		
既製杭工											
鋼管杭		規格:SKK400(板厚9mm)、 径:φ600mm、長さ:8.0m		本					12	12.0	1-1
										12.0	

各章の「区分一覧表」の記載に従って、数量を区分する。  
路体(築堤)盛土なら、施工幅員で区分する。※積算区分は不要

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分		
	土質	施工方法	施工幅員
掘削	○	○	
土砂等運搬	○		
整地			
路体(築堤)盛土			○
路床盛土			○
押し(ルーズ)	○		
積込(ルーズ)	○		
人力積込	○		
転石破砕			
土材料			
残土等処分			

「積算要素」の記載は不要とする。

「規格」は、体系化の手引きを参照して記載。

数量集計表記入例 (2)積算委託の成果品または工事の設計図書として数量集計表を作成する場合

工区が複数あり、数量調書が工区毎に別の場合等は、この行または列を増やして記載し、合計欄にそれらの合計を記載する。

レベル1 (工事区分)		レベル2 (工種)		数量集計表							
築堤・護岸		河川土工						当初設計		内訳 数量表 別紙	備考
レベル3 (種別) レベル4 (細目)	レベル5 (規格)	レベル6 (積算要素)	積算用 単位	数量区分			合計				
盛土工 [流用土I]											
路体(築堤)盛土		路体(築堤)盛土	m3	施工幅員				60	55.5		
				2.5m未満					55.5		
路体(築堤)盛土		路体(築堤)盛土	m3	施工幅員	施工数量	障害の有無		110	111.1		
				4.0m以上	10,000m3未満	無し			111.1		
歩掛名称を記載。											

必要に応じ積算区分を追記。

数量集計表

レベル1 (工事区分)		レベル2 (工種)		数量集計表							
樋門・樋管		樋門・樋管本体工						当初設計		内訳 数量表 別紙	備考
レベル3 (種別) レベル4 (細目)	レベル5 (規格)	レベル6 (積算要素)	積算用 単位	数量区分			合計				
既製杭工											
鋼管杭	規格:SKK400(板厚9mm)、 径:φ600mm、長さ:8.0m		本					12	12.0	1-1	
									12.0		
「規格」は、体系化の手引きを参照して記載。											

記入例

数量集計表

レベル1 (工事区分)		築堤・護岸		レベル2 (工種)		河川土工		数量区分		当初設計		第〇回設計変更		内訳 数量表 紙別		備考	
レベル3 (種別)	レベル4 (細目)	レベル5 (規格)	レベル6 (積算要素)	種算用 単位	土質	施工方法	押土の有無	障害の有無	障害の種類	施工数量	合計	合計	合計	紙別	備考		
掘削工 [流用土I]		土質:土砂	掘削	m3	土砂	オーブンカット	押土無し	障害無し	障害無し	5,000m3未満	120	123.4	0.0	0.0			
盛土工 [流用土I]					施工幅員 2.5m未満						110	111.1	0.0	0.0			
路体(築堤)盛土			路体(築堤)盛土	m3													

数量集計表

レベル1 (工事区分)		欄門・欄管		レベル2 (工種)		欄門・欄管本体工		数量区分		当初設計		第〇回設計変更		内訳 数量表 紙別		備考	
レベル3 (種別)	レベル4 (細目)	レベル5 (規格)	レベル6 (積算要素)	種算用 単位	規格	規格	規格	規格	規格	規格	合計	合計	合計	紙別	備考		
既設杭工											12	12.0	0.0	0.0			
鋼管杭		規格:SKK400(板厚9mm)、 径:φ600mm、長さ:8.0m		本											1-1		

内訳数量表記入例 (1)委託業務(積算委託を除く)の成果品として数量集計表を作成する場合

1-1 鋼管杭 数量表

内訳数量表

規格:SKK400(板厚9mm)、径:φ600mm、長さ:8.0m

12.0本

項目	規格	数量区分	単位	数量		備考
				全体	1本当り	
鋼管・既製コンクリート杭打工[パイルハンマ工]	鋼管杭、板厚9mm、杭径φ600mm、長さ8.0m		本	12.0	1.0	
鉄筋工	SD345、D13	規格・仕様:一般構造物、施工条件:無、構造物種別:差筋及び杭頭処理、施工規模:3.6t、太径鉄筋の割合:0	t	1.2	0.1	
鉄筋工	SD345、D16~25	規格・仕様:一般構造物、施工条件:無、構造物種別:差筋及び杭頭処理、施工規模:3.6t、太径鉄筋の割合:0	t	2.4	0.2	
コンクリート	RC-2-1、混合セメント(B種)	構造物種別:小型構造物	m3	4.8	0.4	

「規格」は、体系化の手引きを参照して記載。

各章の「区分一覧表」の記載に従って、数量を区分する。  
 コンクリートなら、構造物種別とコンクリート規格(左の規格列に記載)で区分する。  
 ※積算区分は不要

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	構造物種別	コンクリート規格
コンクリート		○	○
モルタル練り			○

内訳数量表記入例 (2)積算委託の成果品または工事の設計図書として数量集計表を作成する場合

1-1 鋼管杭 数量表

内訳数量表

規格:SKK400(板厚9mm)、径:φ600mm、長さ:8.0m

12.0本

項目	規格	数量区分	単位	数量		備考
				全体	1本当り	
鋼管・既製コンクリート杭打工[パイルハンマ工]	杭種:鋼管杭, 杭打機機種:油圧パイルハンマ 4~4.5t, 杭の打込長:鋼管杭 10m以下, 板厚:8~10mm, 杭径:鋼管杭 φ500mm以上φ800mm未満, ヤットコの有無:有, 補助クレーンの有無:無, 継杭施工の有無:無		本	12.0	1.0	
鉄筋工	鉄筋材料規格:径:SD345 D13, 規格・仕様区分:一般構造物, 施工規模:10t未満, 時間的制約を受ける場合の補正:無, 夜間作業補正:無, トンネル内作業の補正:無, 法面作業の補正:無, 太径鉄筋補正:補正無(鉄筋割合10%未満含む), 構造物種別による補正:差筋及び杭頭処理		t	1.2	0.1	
鉄筋工	鉄筋材料規格:径:SD345 D16~25, 規格・仕様区分:一般構造物, 施工規模:10t未満, 時間的制約を受ける場合の補正:無, 夜間作業補正:無, トンネル内作業の補正:無, 法面作業の補正:無, 太径鉄筋補正:補正無(鉄筋割合10%未満含む), 構造物種別による補正:差筋及び杭頭処理		t	2.4	0.2	
コンクリート	RC-2-1、混合セメント(B種)	構造物種別:小型構造物、打設工法:バックホウ(クレーン機能付)打設、コンクリート規格:生コンクリート各種、養生工の種類:一般養生	m3	4.8	0.4	

内訳数量表の規格・数量区分欄については、まとめて記載してもよい。

必要に応じ積算区分を追記。

記入例

内訳数量表

1-1 鋼管杭数量表

規格:SKK400(板厚9mm)、径:φ600mm、長さ:8.0m

12.0本

項目	規格	数量区分	単位	数量		備考
				全体	1本当り	
鋼管・既製コンクリート杭打工[パイロハンマ工]	鋼管杭、SKK400(板厚9mm)、杭径φ600mm、杭長8.0m、打込長10.0m		本	12.0	1.0	
コンクリート	RC-2-1、混合セメント(B種)	構造物種別:小型構造物、打設工法:パッドホウレン機能付)打設、コンクリート規格:生コンクリート各種、養生工の種類:一般養生	m3	4.8	0.4	
鉄筋工	SD345、D13		t	1.2	0.1	
鉄筋工	SD345、D16~25		t	2.4	0.2	